

授業計画表							
教科名	パーソナルカラー						
対象科	トータル科	学年	2年	必選	選択	単位数	1（30時間）
担当教員 （実務経験の有無）	榎本 裕美子〔有〕						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい	色は世界共通なので、色の基礎を学び、色彩感覚を身につけてもらう
授業の概要	教室において講義形式で進めるが、教材などを使い楽しく色の深さを知ってもらう
評価方法	1. 授業の出欠状況 2. 授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます。定期テストをおこないます。
資格対応	無
関連科目	美容技術理論
テキスト 及び 参考文献	塗り絵教材（未定）

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度		○	
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験の有無について	理容師免許を有し理容所において勤務経験あり。美容師免許を有し美容所において勤務経験あり。
------------------	--

授業計画表							
教科名							
対象科		学年		必選		単位数	(時間)
担当教員 (実務経験の有無)							

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	
評価方法	
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	
資格対応	
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			
【知識・理解】 ※教科の理解度			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	関係法規・制度						
対象科	理容科	学年	1年	必選	必須	単位数	1（30時間）
担当教員 〔実務経験の有無〕	山口 孝〔無〕						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1～2	法制度の概要	法の役割・法とは何か・法の実際
3～4	衛生法規の概要	衛生法規の意義・分類・概観
5～6	衛生行政の概要	国と地方の行政・衛生行政の意義と歴史・衛生行政の動向
7～8	衛生行政の種類と行政機関	衛生行政のしくみ・保健所の役割と機構
9～10	理容師法	理容師法の目的と歴史・理容師法の構成
11～12	用語の定義	理容・理容師・理容所
13～14	理容師	理容師養成施設・理容師試験・免許と登録
15～16	理容師	管理理容師・業務に従事する理容師の義務
17～18	理容所	理容所の開設
19～20	理容所	理容所開設者が講ずべき衛生措置・理容所以外での業務
21～22	立入検査	立入検査・環境衛生監視員
23～24	行政処分	行政処分・行政処分手続き・審査請求・意義申立て
25～26	罰則	罰則
27～28	関係法規	生衛法・地域保健法・感染症
29～30	関係法規	労働基準法・消費者基本法・廃棄物処理法・理容師法の課題

教育目標 (到達目標)	理容師・理容所に関連する法規を理解させることによって、理容師・理容所開設者が持つべき社会的責任の重さを学生に認識させ、さらに、責任を持って理容の業を実践していくことが社会貢献であるとしてその職業意識を育成していくことを目的とする。重点項目として、理（美）容師法、生活衛生関係営業の運営の適正化及び振興に関する法律、・保健所の役割、・衛生行政、・政策金融の意義と仕組み、・消費者保護の仕組み	
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	第1章「法制度の概要」 道徳慣習などの社会生活に身近な社会規範から、法の内容、憲法など法律の種類および衛生法規。 第2章「衛生行政の概要」 衛生行政の意義・歴史、衛生行政の種類、厚生労働省の機構、保健所の役割。 第3章「理容師法・美容師法」 理容師法の歴史、現在の理容師法の体系、理容師/理容所の法律上の定義、理容師の資格関連法規、理容所業務関連法規、環境衛生監視員の立入検査や違反者等に対する行政処分・罰則。 第4章「関連法規」 生活衛生関係営業の料金等の規制や同業組合、振興計画、その他、独立経営に際して必要となる諸法規、地域保健や感染症関連の法規等。	
評価方法	法律に関心を持って学習しようとしているか、法律一般について意欲的に理解しようとしているか等を評価します。また法律関連の事柄から課題を見出し、それらを多面的・多角的に考察しているかどうか、さらに学習を通じて思考力や判断力が身に付いているかどうか等評価します。テスト法を中心として評価し、各学期1回定期試験を実施、100点満点中60点を合格とします。	
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。	
資格対応	理容師国家試験	
関連科目	「衛生管理」第1編 第1章 公衆衛生の概要、第2編 第1章 環境衛生、第2章 理容所・美容所の環境衛生、第3編 第1章 感染症の総論、第2章 理容・美容と感染症、第4編 第1章 消毒法総論、第2章 消毒法各論、第3章 消毒法実習	
テキスト及び参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター「関係法規・制度」テキスト	

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	関係法規・制度						
対象科	美容科	学年	1年	必選	必須	単位数	1（30時間）
担当教員 (実務経験の有無)	山口 孝[無]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1～2	法制度の概要	法の役割・法とは何か・法の実際
3～4	衛生法規の概要	衛生法規の意義・分類・概観
5～6	衛生行政の概要	国と地方の行政・衛生行政の意義と歴史・衛生行政の動向
7～8	衛生行政の種類と行政機関	衛生行政のしくみ・保健所の役割と機構
9～10	美容師法	美容師法の目的と歴史・美容師法の構成
11～12	用語の定義	美容・美容師・美容所
13～14	美容師	美容師養成施設・美容師試験・免許と登録
15～16	美容師	管理美容師・業務に従事する美容師の義務
17～18	美容所	美容所の開設
19～20	美容所	美容所開設者が講ずべき衛生措置・美容所以外での業務
21～22	立入検査	立入検査・環境衛生監視員
23～24	行政処分	行政処分・行政処分手続き・審査請求・意義申立て
25～26	罰則	罰則
27～28	関係法規	生衛法・地域保健法・感染症
29～30	関係法規	労働基準法・消費者基本法・廃棄物処理法・美容師法の課題

教育目標 (到達目標)	理容師・理容所に関連する法規を理解させることによって、理容師・理容所開設者が持つべき社会的責任の重さを学生に認識させ、さらに、責任を持って理容の業を実践していくことが社会貢献であるとしてその職業意識を育成していくことを目的とする。重点項目として、理（美）容師法、生活衛生関係営業の運営の適正化及び振興に関する法律、・保健所の役割、・衛生行政、・政策金融の意義と仕組み、・消費者保護の仕組み	
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	第1章「法制度の概要」 道徳慣習などの社会生活に身近な社会規範から、法の内容、憲法など法律の種類および衛生法規。 第2章「衛生行政の概要」 衛生行政の意義・歴史、衛生行政の種類、厚生労働省の機構、保健所の役割。 第3章「理容師法・美容師法」 理容師法の歴史、現在の理容師法の体系、理容師/理容所の法律上の定義、理容師の資格関連法規、理容所業務関連法規、環境衛生監視員の立入検査や違反者等に対する行政処分・罰則。 第4章「関連法規」 生活衛生関係営業の料金等の規制や同業組合、振興計画、その他、独立経営に際して必要となる諸法規、地域保健や感染症関連の法規等。	
評価方法	法律に関心を持って学習しようとしているか、法律一般について意欲的に理解しようとしているか等を評価します。また法律関連の事柄から課題を見出し、それらを多面的・多角的に考察しているかどうか、さらに学習を通じて思考力や判断力が身に付いているかどうか等評価します。テスト法を中心として評価し、各学期1回定期試験を実施、100点満点中60点を合格とします。	
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。	
資格対応	美容師国家試験受験資格	
関連科目	「衛生管理」第1編 第1章 公衆衛生の概要、第2編 第1章 環境衛生、第2章 理容所・美容所の環境衛生、第3編 第1章 感染症の総論、第2章 理容・美容と感染症、第4編 第1章 消毒法総論、第2章 消毒法各論、第3章 消毒法実習	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター「関係法規・制度」テキスト	

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	衛生管理						
対象科	理容科	学年	1年	必選	必須	単位数	1 (30時間)
担当教員 (実務経験の有無)	中山 武[無]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1	公衆衛生の意義と課題	公衆衛生の定義を理解する。
2・3	歴史と消毒法の歴史	古代から中世現在への流れを理解する。
4・5	保健所と理容業	保健所の役割を理解する。
6	母子保健	出生数・乳児死亡率を学ぶ。
7・8	成人・高齢者保健	死亡率・平均寿命・死亡原因を学ぶ。
9～11	生活習慣病	がん、心臓病、糖尿病について学ぶ。
12・13	環境の存在	環境の種類を理解する。
14・15	空気環境と温度	空気成分と有害物質を学ぶ。
16～19	衣服住居の衛生	衣服、住居衛生、採光・換気を理解する。
20～23	上水道・下水道	上水のでき方、下水処理の方法を学ぶ。
24・25	廃棄物	ごみ処理、産業廃棄物の処理方法を理解する。
26～28	衛生害虫とネズミ	ハエ・カ・ゴキブリ・シラミの生態と感染症を学ぶ。
29	人獣共通感染症	ペスト、狂犬病を学ぶ。
30	環境保全	水質汚濁を学ぶ。

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	自分自身の身近な環境と衛生、地域とのつながりにおける衛生を知る
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	公衆衛生の歴史から、環境について
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出席状況
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い、授業を受けてもらいます。 定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	理容師国家試験受験資格
関連科目	理容実習
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 衛生管理

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	衛生管理						
対象科	美容科	学年	1年	必選	必須	単位数	1（30時間）
担当教員 （実務経験の有無）	中山 武[無]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1	公衆衛生の意義と課題	公衆衛生の定義を理解する。
2・3	歴史と消毒法の歴史	古代から中世現在への流れを理解する。
4・5	保健所と理容業	保健所の役割を理解する。
6	母子保健	出生数・乳児死亡率を学ぶ。
7・8	成人・高齢者保健	死亡率・平均寿命・死亡原因を学ぶ。
9～11	生活習慣病	がん、心臓病、糖尿病について学ぶ。
12・13	環境の存在	環境の種類を理解する。
14・15	空気環境と温度	空気成分と有害物質を学ぶ。
16～19	衣服住居の衛生	衣服、住居衛生、採光・換気を理解する。
20～23	上水道・下水道	上水のでき方、下水処理の方法を学ぶ。
24・25	廃棄物	ごみ処理、産業廃棄物の処理方法を理解する。
26～28	衛生害虫とネズミ	ハエ・カ・ゴキブリ・シラミの生態と感染症を学ぶ。
29	人獣共通感染症	ペスト、狂犬病を学ぶ。
30	環境保全	水質汚濁を学ぶ。

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	サロンの現状を教えつつ衛生管理の重要性を理解させる。実際の消毒ができるところまで教育する。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	教科書を中心に、画像・関連資料を紹介し、理解の動機付けを図る。
評価方法	授業態度、定期試験の成績、まとめプリントの完成度を見る
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	学んだことが現実に関係してくることを意識するよう指導するので、将来の自分をイメージしながら受講することを薦める。
資格対応	美容師国家試験受験資格
関連科目	関係法規、美容保健
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 衛生管理

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	衛生管理						
対象科	理容科	学年	2年	必選	必須	単位数	2（60時間）
担当教員 （実務経験の有無）	中山 武[無]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1	人と感染症	感染症の歴史を学ぶ。
2～8	感染症の法律と侵入経路	1類から5類、呼吸器侵入、消化器侵入、細菌、ウィルス学ぶ。
9～12	病原微生物	微生物の種類、おおきさ、構造を理解。
13～15	備瀬物の増殖と環境	細菌をウィルスの増殖について学ぶ。
16～17	病原性と感受性	毒素感染はつびょうについて学ぶ。
18～21	予防接種と感染症発生の要因	定期の予防接種と感染源、感染経路を理解する。
22～24	空気・飛沫を介しての感染症	結核・サーズ・マーズ・インフルエンザ等を理解する。
25～30	飲食物を介しての感染症	赤痢・O-157・A型肝炎を理解する。
31～32	血液を介しての感染症	B型肝炎、C型肝炎、エイズ等の理解する。
33～34	動物・節足動物を介しての感染症	ラッサ熱・ペスト・デング熱等の理解する。
35～37	消毒の原理と意義	殺菌・消毒・滅菌について学ぶ。
38～43	消毒法各論	理学的・科学的消毒の理解。
44～46	消毒法実習	各種消毒薬の濃度と希釈を理解。
47	衛生的取り扱い	施設・設備器具類のしょうどくについての理解
48～49	消毒の自主的管理体制	血液付着器具類の消毒についての理解
50～52	まとめ・国家試験対策	全般について学びなおす。

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	感染症について、的確な知識、技能を会得
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	感染症の具体例と消毒法についての実習
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出席状況
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い、授業を受けてもらいます。 定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	理容師国家試験受験資格
関連科目	理容実習
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 衛生管理

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○	○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	衛生管理						
対象科	美容科	学年	2年	必選	必須	単位数	2（60時間）
担当教員 (実務経験の有無)	高橋 秀典[無]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1～4	2章感染症各論 / 主な感染症①	呼吸器を介しての感染症を具体例を中心に確認させる。
5～8	主な感染症②	消化器、血液、動物を介しての感染症を具体例を中心に確認させる。
9～12	主な感染症③	血液、動物を介しての感染症を具体例を中心に確認させる。
15～17	具体的な対策の例	現実の予防策と、店内感染の対策を説明。
18	4編 衛生管理技術 1章 消毒総論 消毒法とは	病原微生物がと非病原微生物、消毒の原理を解説。
19～20	消毒の意義	汚染・感染・発病と消毒について、又殺菌・消毒滅菌・防腐の定義を覚える。
21～23	理美容の業務と消毒との関係	各消毒に関する法の規定と、怠った場合の危険と責任を説く。
24～25	消毒法と適用上の注意	消毒法の種類、殺菌に必要な条件、病原微生物の抵抗力、消毒薬保存上の注意。
26～27	2章消毒法各論 / 理学的消毒法	紫外線・煮沸・蒸気消毒の詳細、その他の理学的消毒法の紹介。
28～31	化学的消毒法	エタノール・次亜塩素酸・逆性石鹼、両性界面活性剤製剤・グルコン酸クロルヘキシジン・その他化学的消毒法の紹介。
32～33	優れた消毒法の条件	優れた消毒法の条件と、消毒を行う際の注意点。
34～35	3章消毒法実習 / 各種消毒薬	消毒薬の概要、器具の使い方、常備する消毒薬と希釈の仕方。
36～37	理美容所の消毒の実際	サロンにおける消毒お原則、消毒設備、用途に合った消毒の選定、手指の消毒、サロンの消毒の現状。
38～39	理美容所の消毒の実際	清潔保持と清掃、洗剤による洗浄、洗い場の構造、カットした毛の処理と汚物箱の洗浄、衛生害虫の駆除。
40～41	5編 衛生管理実践例 1章理美容所における衛生管理要領	衛生的取り扱い、自主管理体制を紹介・確認。
42～43	美容所の自主管理点検表	自主管理点検表の詳細を確認。
44～45	消毒法実習	実際の消毒薬や消毒設備を使って汚染器具の消毒を行う グループワーク。
46～50	国家試験対策問題	過去問題、練習問題を解説。

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	サロンの現状を教えつつ衛生管理の重要性を理解させる。実際の消毒ができるところまで教育する
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	教科書を中心に、画像・関連資料を紹介し、理解の動機付けを図る
評価方法	授業態度、定期試験の成績、まとめプリントの完成度を見る
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	学んだことが現実に関係してくることを意識するよう指導するので、将来の自分をイメージしながら受講することを薦める
資格対応	美容師国家試験受験資格
関連科目	関係法規、美容保健
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 衛生管理

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	保健						
対象科	理容科	学年	1年	必選	必須	単位数	2（60時間）
担当教員 (実務経験の有無)	中山武[有]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1・2	保健を学ぶにあたって	保険と健康の意味を学ぶ
3～10	第1章 頭部・顔部の解剖学	当尾部・顔部の名称、眼の周辺、鼻・口の周辺の名称
11～13	第2章 骨格系	骨の構造と名称を学ぶ。
14～16	第3章 筋系	筋の種類と名称を学ぶ。
17～20	第4章 神経系	脳と脊髄、自律神経を学ぶ。
21～23	第5章 感覚系	5つの感覚と、その他の感覚を学ぶ。
24～28	第6章 血液・循環系	血液の内容と心臓を理解する
29～31	第7章 呼吸器系	気道とガス交換・肺を学ぶ。
32～36	第8章 消化器系	消化管・肝臓・膵臓を理解する。
37～42	1章 皮膚の構造①	皮膚の断面・表皮の角化細胞を理解する。
43～46	皮膚の構造②	真皮と皮下組織を理解する。
47～50	2章 皮膚の付属機関①	毛の構造と性情を学ぶ。
51	皮膚の付属機関②	立毛筋を学ぶ。
52～55	皮膚の付属機関③	脂腺と汗腺を理解する。
56	皮膚の付属機関④	爪を学ぶ。
57	3章 皮膚の循環器系と神経①	皮膚の血管を学ぶ。
58	皮膚の循環器系と神経②	皮膚のリンパを学ぶ。
59・60	皮膚の循環器系と神経②	皮膚の神経を学ぶ。

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	理・美容師としての人体について体調管理や精神的な面も強化する
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	教科書全般ではなく、さらに掘り下げて 現場と時代の動きとともに学習する
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出席状況
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い、授業を受けてもらいます。 定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	理容師国家試験受験資格
関連科目	理容実習 理容技術理論
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 理容・美容保健

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○	○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	保健						
対象科	美容科	学年	1年	必選	必須	単位数	2（60時間）
担当教員 (実務経験の有無)	中山 武[有]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1・2	保健を学ぶにあたって	保険と健康の意味を学ぶ
3～10	第1章 頭部・顔部の解剖学	当尾部・顔部の名称、眼の周辺、鼻・口の周辺の名称
11～13	第2章 骨格系	骨の構造と名称を学ぶ。
14～16	第3章 筋系	筋の種類と名称を学ぶ。
17～20	第4章 神経系	脳と脊髄、自律神経を学ぶ。
21～23	第5章 感覚系	5つの感覚と、その他の感覚を学ぶ。
24～28	第6章 血液・循環系	血液の内容と心臓を理解する
29～31	第7章 呼吸器系	気道とガス交換・肺を学ぶ。
32～36	第8章 消化器系	消化管・肝臓・膵臓を理解する。
37～42	1章 皮膚の構造①	皮膚の断面・表皮の角化細胞を理解する。
43～46	皮膚の構造②	真皮と皮下組織を理解する。
47～50	2章 皮膚の付属機関①	毛の構造と性情を学ぶ。
51	皮膚の付属機関②	立毛筋を学ぶ。
52～55	皮膚の付属機関③	脂腺と汗腺を理解する。
56	皮膚の付属機関④	爪を学ぶ。
57	3章 皮膚の循環器系と神経①	皮膚の血管を学ぶ。
58	皮膚の循環器系と神経②	皮膚のリンパを学ぶ。
59・60	皮膚の循環器系と神経②	皮膚の神経を学ぶ。

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	理・美容師としての人体について体調管理や精神的な面も強化する
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	教科書全般ではなく、さらに掘り下げて 現場と時代の動きとともに学習する
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出席状況
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い、授業を受けてもらいます。 定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	美容師国家試験受験資格
関連科目	美容実習 美容技術理論
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 理容・美容保健

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○	○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	保健						
対象科	理容科	学年	2年	必選	必須	単位数	1 (30時間)
担当教員 (実務経験の有無)	中山 武[有]						

授業計画 (授業の方法及び内容)		
回	項目	内容
	第4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能	
1～3	対外保護作用	皮膚が外力、紫外線、科学的刺激対して保護を理解する。
4	体温調節作用	外気温が高いとき、低いときの保護を学ぶ。
5～7	分泌排泄作用	皮脂と発汗について理解する。
8	吸収作用	吸収がどのようにして行うか学ぶ。
9	再生作用	皮膚の損傷が治るのを学ぶ。
	第5章 皮膚と付属器官の保健	
10～12	皮膚と前進状態①②③	貧血、心臓病、肝臓脾臓の障害と皮膚を学ぶ。
13	皮膚と栄養④	栄養素が必要かを学ぶ。
14・15	皮膚の乾皮脂性ホルモンとの関係 ⑤⑥	乾皮・脂性の皮膚について学ぶ。
	第6章 皮膚と付属機関の疾患	
16	皮膚疾患の原因と治療法	皮膚疾患のアレルギーと感染について学ぶ。
17・18	湿疹、皮膚炎	かぶれの原因を理解する。
19・20	角化異常 分泌異常	ニキビや腋臭症を学ぶ。
21・22	化膿菌・ウィルス・真菌	トビヒ。ヘルペス、ミズムシを学ぶ。
23～25	衛生害虫・毛と爪・腫瘍	ヒゼン、脱毛症について学ぶ。
26～30	まとめ・国家試験対策	全般を学びなおす。

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	皮膚疾患について理解する
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	皮膚についての多面的な部分を学習する
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出席状況
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い、授業を受けてもらいます。 定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	理容師国家試験受験資格
関連科目	理容実習 理容技術理論
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 理容・美容保健

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	保健						
対象科	美容科	学年	2年	必選	必須	単位数	1（30時間）
担当教員 (実務経験の有無)	高橋秀典[有]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1～2	皮膚の生理機能 外力や光線に対する	外力や光線に対してどのように保護しているかを学ぶ
3	体温調節作用	暑いとき寒いときの皮膚がどのようなようになるかを学ぶ
4	知覚作用	皮膚の感覚を学ぶ
5～7	分泌排泄作用	皮脂と汗の分泌、及び酸膜を理解する
8～9	呼吸と吸収作用	皮膚からはどのような物質が吸収されるのかを学ぶ
10～11	免疫・再生作用	傷がなぜ治るのかを学ぶ
12～14	皮膚と全身状態	体内の器官が障害を受けると皮膚の変化を学ぶ
15～16	皮膚の水分と脂の状態	しわ、乾皮、あぶら性について理解する
17	ホルモンの影響	男性ホルモン、女性ホルモンが作用することを理解する
18～19	皮膚の保護と手入れ	ひげそりあとの手入れ、ふけ症について学ぶ
20～21	皮膚の異常と接触性皮膚炎	皮膚疾患による変化を学ぶ
22	温熱・寒冷の障害	熱傷、凍傷を理解する
23～24	色素異常、角化異常	原因が何かを学ぶ
25～27	化膿菌、ウイルス、真菌による異常	感染症による皮膚疾患を理解する
28～29	衛生害虫の影響と、毛、爪の異常	害虫による皮膚の異常を学ぶ
30	皮膚の腫瘍	皮膚の癌について理解する

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	皮膚疾患について理解する
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	皮膚についての多面的な部分を学習する
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出席状況
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い、授業を受けてもらいます。 定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	美容師国家試験受験資格
関連科目	美容実習 美容技術理論
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 理容・美容保健

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	香粧品化学						
対象科	理容科	学年	1年	必選	必須	単位数	1（30時間）
担当教員 (実務経験の有無)	恒川 幸伸[有]						

[illegible]

教育目標 ねらい	理美容に使用する香粧品にかかわる化学的知識を身につける	
授業の概要	テキスト巻末の化学の基礎知識をしっかり定着させ、次に学習していく香粧品の内容についての理解をを深めさせる	
評価方法	テスト、出欠状況、授業の受け方・態度	
受講心得	定期テストで60点以上を合格とする	
資格対応	理容師・美容師 国家試験受験資格	
関連科目		
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター発刊 香粧品化学	

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	名古屋市立中学校において理科を指導。
----------------------	--------------------

授業計画表							
教科名	香粧品化学						
対象科	美容科	学年	1年	必選	必須	単位数	1（30時間）
担当教員 （実務経験の有無）	恒川 幸伸〔有〕						

[illegible]

教育目標 ねらい	理美容に使用する香粧品にかかわる化学的知識を身につける	
授業の概要	テキスト巻末の化学の基礎知識をしっかり定着させ、次に学習していく香粧品の内容についての理解をを深めさせる	
評価方法	テスト、出欠状況、授業の受け方・態度	
受講心得	定期テストで60点以上を合格とする	
資格対応	理容師・美容師 国家試験受験資格	
関連科目		
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター発刊 香粧品化学	

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。
※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。
[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	名古屋市立中学校において理科を指導。
----------------------	--------------------

授業計画表							
教科名	香粧品化学						
対象科	理容科	学年	2年	必選	必須	単位数	1（30時間）
担当教員 （実務経験の有無）	恒川 幸伸[有]						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい	理美容に使用する香粧品の知識を身につける
授業の概要	香粧品の原料、肌の香粧品、毛髪にかかる香粧品を中心に テキストの内容についての理解を深めさせる
評価方法	定期テスト 出席状況 授業の受け方・態度
受講心得	定期テストで60点以上の合格
資格対応	理容師、美容師、国家試験受験資格
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター発刊 香粧品化学

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関 係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	名古屋市立中学校において理科を指導。
----------------------	--------------------

授業計画表							
教科名	香粧品化学						
対象科	美容科	学年	2年	必選	必須	単位数	1（30時間）
担当教員 （実務経験の有無）	恒川 幸伸[有]						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい	理美容に使用する香粧品の知識を身につける
授業の概要	香粧品の原料、肌の香粧品、毛髪にかかる香粧品を中心に テキストの内容についての理解を深めさせる
評価方法	定期テスト 出席状況 授業の受け方・態度
受講心得	定期テストで60点以上の合格
資格対応	理容師、美容師、国家試験受験資格
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター発刊 香粧品化学

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関 係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。
※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。
[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	名古屋市立中学校において理科を指導。
----------------------	--------------------

授業計画表							
教科名	文化論						
対象科	理容科	学年	1年	必選	必須	単位数	1（30時間）
担当教員 （実務経験の有無）	堀江 忠史[無]						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	日本の髪型・服飾文化を時代の流れと共に理解する。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	講義形式において授業を進める。
評価方法	①定期試験 ②授業の出欠状況 ③受講の熱心さ
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上をもって合格とする。
資格対応	国家試験筆記試験
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 文化論

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表							
教科名	文化論						
対象科	美容科	学年	1年	必選	必須	単位数	1（30時間）
担当教員 (実務経験の有無)	堀江 忠史[無]						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	日本の髪型・服飾文化を時代の流れと共に理解する。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	講義形式において授業を進める。
評価方法	①定期試験 ②授業の出欠状況 ③受講の熱心さ
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上をもって合格とする。
資格対応	国家試験筆記試験
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 文化論

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	文化論						
対象科	理容科	学年	2年	必選	必須	単位数	1 (30時間)
担当教員 (実務経験の有無)	堀江忠史[無]						

授業計画 (授業の方法及び内容)		
回	項目	内容
1～2	日本ファッション文化史 現代Ⅱ	戦後経済復興により、シーズンごとの流行色などをアピールの消費を促した。若者ファッションの流行。
3～5	現代Ⅲ	女性の社会進出、性のボーダレス化。茶髪の流行とガングロ、マスカラ、ツケマツゲ多様化するファッションを学ぶ
6～7	古代エジプト、古代ギリシャ 古代ローマ、古代ゲルマン	地中海地方を中心に古代文明が発生、各文化圏の髪型、ファッション化粧を知る。
8～9	中世ヨーロッパ	キリスト教の身体への否定的思考が強く、体を覆い隠す文化であった。
10～11	近世Ⅰ 16世紀	ルネサンスの時代制圧から個人の人間に目が向けられた。ファッションは貴族たちに独占された。
12～13	近世Ⅱ 17世紀	王とカトリック教会の権力を誇示する時代。長いかつらが流行。ベルサイユ宮殿
14	近世Ⅲ 18世紀	王朝を中心に華麗な貴族たちのファッション、大臣の髪型、スカートファッション。
15～16	近代Ⅰ 18世紀末～19世紀初	フランス革命により市民の権利意識が高まり貴族的なファッションはすたれた。
17～18	近代Ⅱ 19世紀	産業革命によりブルジョア社会が拡大した。女性は巨大なスカートがはやった。
19～20	現代Ⅰ 1910～1920	パーマネントウェーブが登場。男性は背広が定着していく。スポーツが流行していく。
20～21	現代Ⅱ 1930～1940	第2次世界大戦に向かい、自由な気風は影を潜めた。
22～23	現代Ⅲ 1940～1950	映画スターの髪型の影響が大きく、ショートカットが流行する。コールドパーマネントウェーブが普及
24～26	現代Ⅳ 1960年代	若者文化に寄り添うヘアスタイル、ビートルズ、モヒカン等があげられる。
27～28	現代Ⅴ 1970年代	多種多様な若者文化とヘアスタイル。日本人デザイナーの活躍。
29	現代Ⅵ 1980年代	女性の職場進出を反映して実用的なスーツが流行。
30	現代Ⅶ 1990～2010	ベルリンの壁が崩壊し国や政治経済の枠組みが崩れた時代。多様なファッションが反映した。

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	日本の髪型・服飾文化を時代の流れと共に理解する。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	講義形式において授業を進める。
評価方法	①定期試験 ②授業の出欠状況 ③受講の熱心さ
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上をもって合格とする。
資格対応	国家試験筆記試験
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 文化論

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	文化論						
対象科	美容科	学年	2年	必選	必須	単位数	1（30時間）
担当教員 (実務経験の有無)	水野亮[無]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1～2	日本ファッション文化史 現代Ⅱ	戦後経済復興により、シーズンごとの流行色などをアピールの消費を促した。若者ファッションの流行。
3～5	現代Ⅲ	女性の社会進出、性のボーダレス化。茶髪の流行とガングロ、マスカラ、ツケマツゲ多様化するファッションを学ぶ
6～7	古代エジプト、古代ギリシャ 古代ローマ、古代ゲルマン	地中海地方を中心に古代文明が発生、各文化圏の髪型、ファッション化粧を知る。
8～9	中世ヨーロッパ	キリスト教の身体への否定的思考が強く、体を覆い隠す文化であった。
10～11	近世Ⅰ 16世紀	ルネサンスの時代制圧から個人の人間に目が向けられた。ファッションは貴族たちに独占された。
12～13	近世Ⅱ 17世紀	王とカトリック教会の権力を誇示する時代。長いかつらが流行。ベルサイユ宮殿
14	近世Ⅲ 18世紀	王朝を中心に華麗な貴族たちのファッション、大臣の髪型、スカートファッション。
15～16	近代Ⅰ 18世紀末～19世紀初	フランス革命により市民の権利意識が高まり貴族的なファッションはすたれた。
17～18	近代Ⅱ 19世紀	産業革命によりブルジョア社会が拡大した。女性は巨大なスカートがはやった。
19～20	現代Ⅰ 1910～1920	パーマネントウェーブが登場。男性は背広が定着していく。スポーツが流行していく。
20～21	現代Ⅱ 1930～1940	第2次世界大戦に向かい、自由な気風は影を潜めた。
22～23	現代Ⅲ 1940～1950	映画スターの髪型の影響が大きく、ショートカットが流行する。コールドパーマネントウェーブが普及
24～26	現代Ⅳ 1960年代	若者文化に寄り添うヘアスタイル、ビートルズ、モヒカン等があげられる。
27～28	現代Ⅴ 1970年代	多種多様な若者文化とヘアスタイル。日本人デザイナーの活躍。
29	現代Ⅵ 1980年代	女性の職場進出を反映して実用的なスーツが流行。
30	現代Ⅶ 1990～2010	ベルリンの壁が崩壊し国や政治経済の枠組みが崩れた時代。多様なファッションが反映した。

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	日本の髪型・服飾文化を時代の流れと共に理解する。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	講義形式において授業を進める。
評価方法	①定期試験 ②授業の出欠状況 ③受講の熱心さ
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上をもって合格とする。
資格対応	国家試験筆記試験
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 文化論

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- 〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- 〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- 〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- 〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	運営管理						
対象科	理容科	学年	1年	必選	必須	単位数	1 (30時間)
担当教員 (実務経験の有無)	山口 孝[無]						

授業計画 (授業の方法及び内容)		
回	項目	内容
1～2	理・美容業の経営環境 (少子高齢化と理・美容業)	・ 総人口の推移、・ 若年、生産、老年3区分による将来人口推計
3～4	理・美容業の経営環境 (少子高齢化と理・美容業)	・ 人口の減少と構造変化が理・美容業に及ぼす影響と対応策
5～6	理・美容業の経営環境 (理・美容業の動向)	・ 理、美容所及び従業者の動向と課題
7～8	資金の管理 (経理)	・ 収支と損益、・ 貸借対照表とその意義、・ 損益計算書とその意義
9～10	資金の管理 (税金)	・ 個人経営、法人経営別税金の種類と納付時期、・ 税に関する罰則、・ 青色申告制度
11～12	年金保険 (公的年金)	・ 国民皆年金制度、・ 制度別被保険者と財源負担、・ 制度別給付の概要
13～14	医療・介護保険 (医療保険)	・ 国民皆保険制度、・ 制度別保険者と被保険者、・ 医療費一部負担金の割合、・ 現金給付の概要
15～16	医療・介護保険 (介護保険)	・ 介護保険法の目的、・ 被保険者と財源負担、・ 給付制度の概要
17～18	労働関係法規 (労働基準法)	・ 労働条件の原則、・ 労働時間 休憩 休日 年次有給休暇等
19	労働関係法規 (労働安全衛生法)	・ 労働安全衛生法の目的、・ 健康管理の仕組み、・ 健康診断
20～21	労働関係法規 (雇用・労災)	・ 雇用保険法の目的、・ 給付制度の概要、・ 労働者災害補償保険法の目的、・ 給付制度の概要
22	人という資源	人という資源とは・ 人の能力を高める・ 人をやる気にさせるために
23	健康・安全な職場環境の実現	健康管理の基礎・ 理容の仕事と健康・ 理容業に特徴的な健康課題
24	従業員としての視点から・サービスデザイン	仕事をするうえで考えるべきこと・ 顧客が求める価値・ 価値の実態
25	サービス・デザイン	顧客満足の実現のためのシステム・最も重要な価値「人」・ 価値の多様性 顧客が求めるもの
26	サービス・デザイン、マーケティング	サービスの範囲・ 理容業のマーケティング・ マーケティングミックス
27	マーケティング	マーケティング・ミックスの要因 (短期・長期)
28	マーケティング・サービスにおける人の役割	マーケティング・ミックスの要因 (長期)・ サービスのシステム化・接客についての理解
29	サービスにおける人の役割	よい接客のために・接客の実践①②③④⑤

30	サービスにおける人の役割	接客におけるトラブルと対応・接客で発生が予想される問題・問題を深刻化させないための対策・対処
----	--------------	--

教育目標 ねらい (到達目標)	①経営者の考え方や経営者が果たす責任・役割を学ぶ ②人を雇うことの責任や働くうえで求められることを学ぶ ③顧客を満足させるサービスとは何か。それをどう実現するかについて学ぶ
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	第1編「経営者の視点」 経営が必要とされる理由から経営資源・経営計画・経営戦略が目指すものの概念をとらえ、それを理容業に当てはめる。資金管理に焦点をあて、資金管理の重要性、収支と損益、会計、コスト、税金についての理解。 第2編「人という資源 従業員としての視点」 経営資源のうち、「人」に注目し、人という資源の特徴、給与・福利厚生・労働者の権利から健康安全な職場環境実現への課題、従業員としての視点から社会保険（年金・医療・労働）を考える。 第3編「顧客のために」 顧客が求める価値や満足の実現、その価値の実態や多様性を考えた上でマーケティングに対する要因の見方考え方を考察する。最後にサービスにおける人の役割として「接客」について考える。
評価方法	まずは出席率75%以上必要。出席時間不足のための補習は行うが別途有料になる。単位認定は定期試験60点以上。レポート課題は特に予定していない。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。
資格対応	理容師国家試験
関連科目	理容総合理論「サービスマナー」
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター「運営管理」テキスト

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	運営管理						
対象科	美容科	学年	1年	必選	必須	単位数	1 (30時間)
担当教員 (実務経験の有無)	山口 孝[無]						

授業計画 (授業の方法及び内容)		
回	項目	内容
1～2	理・美容業の経営環境 (少子高齢化と理・美容業)	・総人口の推移、・若年、生産、老年3区分による将来人口推計
3～4	理・美容業の経営環境 (少子高齢化と理・美容業)	・人口の減少と構造変化が理・美容業に及ぼす影響と対応策
5～6	理・美容業の経営環境 (理・美容業の動向)	・理、美容所及び従業者の動向と課題
7～8	資金の管理 (経理)	・収支と損益、・貸借対照表とその意義、・損益計算書とその意義
9～10	資金の管理 (税金)	・個人経営、法人経営別税金の種類と納付時期、・税に関する罰則、・青色申告制度
11～12	年金保険 (公的年金)	・国民皆年金制度、・制度別被保険者と財源負担、・制度別給付の概要
13～14	医療・介護保険 (医療保険)	・国民皆保険制度、・制度別保険者と被保険者、・医療費一部負担金の割合、・現金給付の概要
15～16	医療・介護保険 (介護保険)	・介護保険法の目的、・被保険者と財源負担、・給付制度の概要
17～18	労働関係法規 (労働基準法)	・労働条件の原則、・労働時間 休憩 休日 年次有給休暇等
19	労働関係法規 (労働安全衛生法)	・労働安全衛生法の目的、・健康管理の仕組み、・健康診断
20～21	労働関係法規 (雇用・労災)	・雇用保険法の目的、・給付制度の概要、・労働者災害補償保険法の目的、・給付制度の概要
22	人という資源	人という資源とは・人の能力を高める・人をやる気にさせるために
23	健康・安全な職場環境の実現	健康管理の基礎・理容の仕事と健康・理容業に特徴的な健康課題
24	従業員としての視点から・サービスデザイン	仕事をするうえで考えるべきこと・顧客が求める価値・価値の実態
25	サービス・デザイン	顧客満足の実現のためのシステム・最も重要な価値「人」・価値の多様性 顧客が求めるもの
26	サービス・デザイン、マーケティング	サービスの範囲・理容業のマーケティング・マーケティングミックス
27	マーケティング	マーケティング・ミックスの要因 (短期・長期)
28	マーケティング・サービスにおける人の役割	マーケティング・ミックスの要因 (長期)・サービスのシステム化・接客についての理解
29	サービスにおける人の役割	よい接客のために・接客の実践①②③④⑤

30	サービスにおける人の役割	接客におけるトラブルと対応・接客で発生が予想される問題・問題を深刻化させないための対策・対処
----	--------------	--

教育目標 ねらい (到達目標)	①経営者の考え方や経営者が果たす責任・役割を学ぶ ②人を雇うことの責任や働くうえで求められることを学ぶ ③顧客を満足させるサービスとは何か。それをどう実現するかについて学ぶ
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	第1編「経営者の視点」 経営が必要とされる理由から経営資源・経営計画・経営戦略が目指すものの概念をとらえ、それを理容業に当てはめる。資金管理に焦点をあて、資金管理の重要性、収支と損益、会計、コスト、税金についての理解。 第2編「人という資源 従業員としての視点」 経営資源のうち、「人」に注目し、人という資源の特徴、給与・福利厚生・労働者の権利から健康安全な職場環境実現への課題、従業員としての視点から社会保険（年金・医療・労働）を考える。 第3編「顧客のために」 顧客が求める価値や満足の実現、その価値の実態や多様性を考えた上でマーケティングに対する要因の見方考え方を考察する。最後にサービスにおける人の役割として「接客」について考える。
評価方法	まずは出席率75%以上必要。出席時間不足のための補習は行うが別途有料になる。単位認定は定期試験60点以上。レポート課題は特に予定していない。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。
資格対応	美容師国家試験
関連科目	美容総合理論「サービスマナー」
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター「運営管理」テキスト

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	理容技術理論						
対象科	理容科	学年	1年	必選	必須	単位数	2（60時間）
担当教員 (実務経験の有無)	磯部臣史[有]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1	序章 理容技術を学ぶにあたって	効率よく技術を習得するために技術理論を学ぶことを理解する
2～4	第1章理容技術の基礎①	人体各部の名称について、人の頭部顔部を施術する理容技術のため名称を正しく学ぶ
5～7	理容技術の基礎②③	理容技術における技術姿勢について、安全で正確な技術を行うために正しく理解する
8～11	第2章理容用具①②③	理容用具について、基礎的な知識を学び衛生的な取り扱いや物を切る原理を学ぶ
12～16	理容用具④⑤⑥	シザーズ、レザー、クリッパーという理容の主になる用具について名称から機能まで学ぶ
17～20	理容用具⑦⑧⑨⑩⑪	コームやブラシなどそれぞれの名称から機能までを学ぶ
21～24	第8章シェービング①②③	理容の主要な技術であるシェービングについて、特に皮膚とひげのことを十分理解する
25～28	シェービング④⑤	シェービングの基本技術と要領についてレザーの扱い方操作の原理など十分に理解する
29～32	シェービング⑥⑦⑧	国家試験技術にもあるメンズシェービングについて技術的な観点から理論的に学ぶ
33～34	シェービング⑨	レディースシェービングについて女性の繊細な肌に効果的に技術を行うための知識を理解する
35～38	第9章理容エステティック①②	エステティック本来の目的が人間の内面的部分まで及ぶ総合的なものであることを学ぶ
39～42	理容エステティック③	国家試験技術にもあるフェイシャルケアについて技術的観点から理論を学ぶ
43～44	理容エステティック④⑤⑥	ネイルなどのハンドケアやフットケアなどエステティック分野にある心地よさが伝わる技術を学ぶ
45～46	第12章理容マッサージ①②③④	理容で行うマッサージについて理解し手技を学ぶ
47～50	第3章ヘアデザイン①②③	技術と同時に必要なヘアデザインについて造形の原理や条件を学ぶ
51～54	第4章カッティング①②③	ヘアスタイルを実際に作る手段として髪を切る技術であるカッティングについて理解する
55～57	カッティング④⑤⑥⑦⑧	カッティングの基本的な条件や原理について学びスタンダードヘアのスタイルを学ぶ
58～60	カッティング⑨⑩⑪⑫	デザインヘアを作るための基本原則や考え方を学ぶ

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	理容の業務に必要な基本的技術を身につけるとともに、これらの技術を組み合わせた総合的な理容技術を身につける。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	教室において講義形式にて授業を進める。教科書全般だけではなく教科書から重点的な部分をさらに掘り下げ、現場での体験を織り交ぜてより理解度を深めてもらう。
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出欠状況 3. 授業受講の熱心さ
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。小テストをおこないます。定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	理容師国家試験受験資格
関連科目	理容実習、理容総合技術
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター 理容技術理論 1・理容技術理論 2

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	理容師免許を有し理容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表

教科名	理容技術理論						
対象科	理容科	学年	2 年	必選	必須	単位数	3 (90時間)
担当教員 (実務経験の有無)	磯部臣史[有]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1～2	第5章ヘアセッティング①②	カッティングと並んでヘアスタイルを作るには重要な技術であるヘアセッティング。多様な技術を習得する。
3～6	ヘアセッティング③	スタンダードヘアの基本セットやデザインヘアの多様なセットに対する技術とそれに伴う整髪料について理解する。
7	ヘアセッティング④	レディースヘアのスタイリングについて、ブラシ、ドライヤー、アイロンなどを用いた毛髪の損傷に注意した技術を学ぶ。
8～12	第6章パーマメントセット①	パーマメントウェーブを美しく仕上げるために、用剤の種類や特徴、かかる仕組みを理解する。
13～15	パーマメントセット②	ワインディングについて、パーマをかけるためにどのように配列し、どのように巻き込むかを理解する。
16～20	パーマメントセット③④⑤	パーマを実際にかける上での工程や手順についてを学ぶ。また、アイロンパーマやデジタルパーマについても理解する。
21～22	第7章ヘアカラーリング①②③	ヘアカラーリングの歴史や効用について理解し、各染毛剤の種類とその原理について学ぶ。
23	ヘアカラーリング④	染毛剤の安全性と使用上の注意点について、間違った使用による事故を防ぐためにも十分に理解する。
24～25	ヘアカラーリング⑤⑥⑦	ヘアカラーリング技術のプロセスや手順を学び、発色の仕組みを理解する。
26～28	第11章シャンプーイング&リンシング①	頭皮・毛髪を清潔に保つことが毛髪美の根本であることを理解し、シャンプー剤や技法について科学的理解を求める。
29～33	シャンプーイング&リンシング②	シャンプーイングの方法の種類についての理解と、それぞれのメリット・デメリットを確認する。
34～38	シャンプーイング&リンシング③④	シャンプーイングの各技法について、効果的に汚れを落としマッサージ効果を高める方法を理論からしっかり学ぶ。
39～44	第13章ヘアトリートメント①②③	ヘアトリートメントの目的や種類について理解し、一例を通して技法を学ぶ。
45～50	第14章スカルプトリートメント①②③	頭皮に対するトラブルに対しての処置を理解し、一例を元に方法を理解する。
51～90	まとめ・国家試験対策	理容技術理論について全般に理解度を高め、理容師国家試験に合格するための対策として全般に学びなおす。

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	理容の業務に必要な基本的技術を身につけるとともに、これらの技術を組み合わせた総合的な理容技術を身につける。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	教室において講義形式にて授業を進める。教科書全般だけではなく教科書から重点的な部分をさらに掘り下げ、現場での体験を織り交ぜてより理解度を深めてもらう。
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出欠状況 3. 授業受講の熱心さ
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。小テストをおこないます。定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	理容師国家試験受験資格
関連科目	理容実習、理容総合技術
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター 理容技術理論 1・理容技術理論 2

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	理容師免許を有し理容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表

教科名	美容技術理論						
対象科	美容科	学年	1年	必選	必須	単位数	2 (60時間)
担当教員 (実務経験の有無)	水野 亮[有]						

授業計画 (授業の方法及び内容)		
回	項目	内容
1～2	序章 美容技術を学ぶにあたって	理論と技術、作業姿勢、人体各部の名称を説明し暗記させる
3～8	1章 美容用具	美容道具・器具・機械・コーム・ブラシ・シザーズ・レザー・ピン・ロッド・ローラー・ヘアアイロン・ヘアドライヤー・ヘアスチーマー・遠赤外線機を個別に説明し現場での現在も伝える
9～14	2章 シャンプーイング①	シャンプーイング総論、サイドシャンプー、バックシャンプーの理論と技術手順を紹介
15～16	シャンプーイング②	リンス・コンディショナー・トリートメントの内容成分と効能を説明
17～20	シャンプーイング③	スカルプトリートメント、ヘッドスパの知識と手順を説明
21～24	5章 パーマネントウェービング①	歴史と現在、ウェーブ理論、パーマ材の分類、パーマに関する注意事項は要必須項目なのでしっかり伝える。
25～26	パーマネントウェービング②	パーマ技術・バリエーション・縮毛矯正を紹介
27～28	8章 エステティック①	エステティック概論、皮膚の構造、カウンセリングの大事さを伝える。
29～30	エステティック②	マッサージ理論、フェイシャルケア、フェイシャルケア・デコルテマッサージは要所なのでしっかり伝える。
31～32	エステティック③	フェイシャルパックは国家試験でも重要性があるのでしっかり伝える。ボディークア、ボディーマッサージを紹介。
33～34	10章 メイクアップ①	メイクアップ理論、顔の形態学的な観察、メイクの色彩は造形・色彩学に通じているので基本的な部分を伝える。
26～27	メイクアップ②	メイクアップ道具、スキンケア、ベースメイクアップはかなり細かいところまで伝え覚えさせる。
35～36	メイクアップ③	アイメイクアップ、アイブロウメイクアップ、リップメイクはかなり細かいところまで伝え覚えさせる。
37～38	メイクアップ④	ブラッシュオンメイクアップ、まつ毛エクステンションは現在の現状交えて説明。
39～42	6章 ヘアセッティング①	ヘアパーティング、ヘアシェーピング含めヘアセッティングとは何かを説明。
42～45	ヘアセッティング②	ヘアカーリング、ヘアウエービング、ローラーカーリング、ブロードライの詳細を伝える。
46～49	ヘアセッティング③	アイロンセッティング、バックコーミング、アップスタイル、ウィッグ・ヘアピースの詳細を伝える。
50～43	7章 ヘアカラーリング①	ヘアカラーリング概論、ヘアカラーの種類、タイプ別特徴、染毛のメカニズムはすべて重要な箇所なのでしっかり説明。
54～57	ヘアカラーリング②	色の基本、アンダートーン、パッチテスト、染毛時の注意事項、ヘアカラーリングの道具はすべて重要な箇所なのでしっかり説明。

58～60	ヘアカラーリング③	酸化染毛剤の技術手順、ヘアブリーチなどはサロンの現状を含め説明。
-------	-----------	----------------------------------

教育目標 ねらい (到達目標)	美容技術を理論的に理解することの重要性をしっかりと学ばせる。実体験では覚えきれない技術や理論を覚えることにより効率的な実習授業へと導く。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	ふつう教室にて面接形式の授業を行う。必要最低限の知識は、時に練習プリントと小テストを交え覚えてもらう。
評価方法	実技授業での理解度を観察し、定期試験結果で判断する。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	教科書を中心に行う。定期試験では60点以上を合格ラインとしている。
資格対応	美容師国家試験受験資格
関連科目	美容実習、美容総合技術
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター 美容技術理論 1・美容技術理論 2

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。
※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。
[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表

教科名	美容技術理論						
対象科	美容科	学年	2年	必選	必須	単位数	3 (90時間)
担当教員 (実務経験の有無)	岡村清美[有]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1～2	3章 ヘアデザイン	ヘアデザインの基本的を考える。
3～4	4章 ヘアカット①	ヘアカットとは、シザー、レザーの使い方などを美容技術の重要事項として伝える。
5～6	ヘアカット②	美容刃物、カットの正しい姿勢を理論的に説明。
7～8	ヘアカット③	ブロー、ヘアカットの基礎理論は重要事項として伝える。
9～12	ヘアカット④	ベーシックなカット技法はバリエーションとして、シザー、レザーによるカット技法はサロンの現状含めて伝える。
13～15	9章 ネイル技術①	ネイル技術概論、ネイル技術の種類はサロンの現状含め伝える。爪の構造と機能は暗記させる。
16～18	ネイル技術②	爪のカット形状は暗記させる。ネイル技術と公衆衛生はサロンの現状含め伝える。
19～21	ネイル技術③	カウンセリングはサロンの現状含め伝える。ネイルケアの基本的知識を伝える。
22～24	ネイル技術④	アーティフィシャルネイルの基本的知識を伝える。手と足のマッサージは実演を絡めて覚えてもらう。
25～26	11章 日本髪①	日本髪の由来、各部の名称、種類と特徴などを紹介。
27～28	日本髪②	日本髪と調和、装飾品、結髪道具などを実物を触りながら紹介。
29～30	日本髪③	結髪技術、日本髪の手入れを紹。かつらは実物を触りながら紹介する。
31～32	12章着付けの理論と技術①	着付の目的、礼装、着物と季節、着物の色々を説明。
33～34	着付けの理論と技術②	帯、小物、着物各部の名称は詳細までしっかり伝える。着物のたたみ方を紹介。
35～36	着付けの理論と技術③	着付の一般的要領、留袖、振袖の着付技術を手順的に説明。
37～38	着付けの理論と技術④	帯締め、帯揚げの結び方、男子礼装、羽織・袴の技術を手順的に説明。
38～39	着付けの理論と技術⑤	羽織の紐の結び方、女子袴着付け技術を手順的に説明。
40～44	着付けの理論と技術⑥	婚礼着付けの際の注意事項、和装花嫁、洋装花嫁は詳細までサロンの現状含め伝える。
45～90	技術理論 筆記試験対策授業	技術理論1・2のまとめと練習問題による総理解。

教育目標 ねらい (到達目標)	美容技術を理論的に理解することの重要性をしっかりと学ばせる。実体験では覚えきれない技術や理論を覚えることにより効率的な実習授業へと導く。	
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	ふつう教室にて面接形式の授業を行う。必要最低限の知識は、時に練習プリントと小テストを交え覚えてもらう。	
評価方法	実技授業での理解度を観察し、定期試験結果で判断する。	
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	教科書を中心に行う。定期試験では60点以上を合格ラインとしている。	
資格対応	美容師国家試験受験資格	
関連科目	美容実習、美容総合技術	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター 美容技術理論 1・美容技術理論 2	

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度		○	○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○	○	

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表

教科名	理容実習						
対象科	理容科	学年	1年	必選	必須	単位数	13 (420時間)
担当教員 (実務経験の有無)	池山英一〔有〕 稲嶋拓也〔有〕 磯部 臣史〔有〕 ヘアサロンにて9年スタイリストして勤務						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1～7	1章 スタンダードヘア① 基本姿勢、用具の持ち方と操作	初めてのウィッグの取り扱い、用具の取り扱いや技術を行う際の姿勢について学ぶ。
8～27	ワインディング用ウィッグのカット	ワインディング技術を行うための、準備。ワインディング用のウィッグを全部長さをそろえてカットしていく。
28～38	ワインディング①	1 2ブロッキング、ロッドの巻き方を学ぶ。
39～49	ワインディング②	センターのブロッキング、ロッド配置を理解し、ある程度コンスタントに負けるようにする。
50～70	ワインディング③	センターに合わせて、サイドのロッド配置、巻き方を学ぶ。
71～128	ワインディング④	全頭を巻けるようにし、大会に向けてタイム測定（40分）を行いながら、技術の向上をさせる。各自、時間配分を身につけさせる。
129～149	1章 スタンダードヘア②	理容の基本ヘア（ミディアムヘア、ブロー）について、カットの仕方、技術姿勢を学ぶ。
150～157	2章 デザインヘア①	デザインヘアカットの用具の持ち方、カットの仕方の基本的なことを学ぶ。
158～178	2章 デザインヘア②	ワンレングス、グラデーション、レイヤー、スクエアなど、実際のカットの基礎技術を学ぶ。また、ブラントカット、ストロークカット、チョップカット、レザーカット等の技法について理解させる。
179～189	7章 シェービング① フェイシャルトリートメント	シェービング後の、顔面処置（てん包法、清拭法、クリームマッサージ、クリームふき取り）を、国家試験の手順に沿って学ぶ。
190～210	7章 シェービング② メンズフェイスシェービング	フェイスシェービングの基本技術について学ぶ。 運行順序をきちんと学び、国家試験の手順を身につけさせる。
210～213	7章 シェービング③ メンズネックシェービング	ネックシェービングについて、国家試験の手順に沿って基本技術を学ぶ。
214～254	7章 シェービング④ メンズシェービングまとめ	国家試験の手順に沿った、顔面処置が身についたか、確認・復習をする。
255～277	7章 シェービング⑤ レディースシェービング スキンケア	レディースシェービング、スキンケアについての基本技術について、メンズシェービングとの違いに注意しながら学ぶ。
278～285	8章 ネイルケア 9章 フットケア	ハンド、フットの簡単なケアについて学ぶ。
286～293	8章 ハンド&アームマッサージ	相モデルを通して、ハンドマッサージの基本的な技術を学ぶ。
323～324	クラシカルカットとセット①	2年次の大会に向けて、クラシカルセットの為のカットを行う。 合わせて、クラシカルボンバージュセットについて基本的なドライヤーセットの技術を学ぶ。
324～420	ワインディング⑤	2年次の大会に向けて、技術の向上をさせる。 タイム測定30分で、Cカールワインディングとする。

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	理容の業務に必要な基本的技術を身に着けると共に、 これらの技術を組み合わせた総合的な理容技術を対人できるようにする。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	主に、基本的な姿勢、技術
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出欠状況 3. 授業態度
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い、授業を受けてもらいます。 必要に応じて、小テストを行います。 定期試験は、60点以上を合格とします。
資格対応	理容師国家試験受験資格
関連科目	理容技術理論、理容総合技術
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発刊 理容実習1・2 理容技術理論1・2 公益社団法人理容師美容師試験研修センター発刊 技術の解説 アリアーレビューティー専門学校 理容師実技試験マニュアル

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力		○	

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	理容師免許を有し理容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表

教科名	理容実習						
対象科	理容科	学年	2年	必選	必須	単位数	15（480時間）
担当教員 (実務経験の有無)	池山英一〔有〕 稲嶋拓也〔有〕 磯部 臣史〔有〕 ヘアサロンにて9年スタイリストして勤務						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1～40	ワインディング	Cカールワインディング（30分タイム計測）で次に控える大会の入賞を目指して技術の向上をさせる。
41～60	10章 ヘアクリニック	技術理論で学んだヘアとスカルプチェックを実際に相モデルで行い、体験と経験を積ませる事により、今後の仕事に役立てられるようにする。
61～80	3章 ヘアセッティング	セットコームやブラシ、ドライヤーを用い、国家試験課題はもちろん、その他色々な場面でのドライヤーセットを学ぶ。
94～160	クラシカルカットとセット①	競技会に向けてウィッグを用い、クラシカルセットに使えるようにカットをしていき、カットを終えたらセットを順次学んでいく。
161～184	4章 パーマネントウェーブ	これまでやってきたCカール以外の巻き方や特殊な巻き方、実際パーマ液を使ってウィッグにパーマをかけて体感して経験をつむ。
185～205	クラシカルセット③	次期大会に向けてタイム計測をしながら、競技会の入賞を目指して技術の向上をさせる。
206～225	11章 シャンプーイングとリンシング	スタンドシャンプーやバックシャンプー、ヘッドマッサージを相モデルで行い、対人の感覚をつかんで今後に活かせるようにする
226～245	10章 ヘアトリートメント	技術理論で学んだヘアトリートメントを実際に相モデルで行い体験と経験を積み、実際に傷んだ髪の実生徒にはトリートメント効果を体感させることにより、今後活かせるようにする。
246～270	スカルプトリートメント	ヘアクリニックで学んだ事をさらに昇華させて、より細かな施術の対応が行えるように学ぶ。
271～315	国家試験対策 顔面処置	1年次で行ったことをもう一度国家試験前に思い出し、国家試験で合格するようにタイムも計りつつ国家試験用ウィッグを使っながら技術向上を目指す。
316～365	国家試験対策 ミディアムカット①	国家試験で行うカットを手順からおって学びつつ運行手順、運行位置を覚える。
366～415	国家試験対策 ミディアムカット②	国家試験で行うカットを時間内にできようと、より良い完成度を目指し国家試験にむけて行う。
416～455	国家試験模擬	国家試験と同じように、タイム計測を行い国家試験実技科目を全てを行っていくことによって国家試験合格を目指す。
456～480	まとめ	これまでやってきたすべてをまとめて、カット、シェービング、シャンプー、カラー、パーマ、トリートメント、マッサージが行えるかを審査する。

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	理容の業務に必要な基本的技術を身につけるとともに、これらの技術を組み合わせた総合的な理容技術を対人でできるようにする。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	主に実習室において実習形式にて授業を進める。教科書全般だけではなく教科書から重点的な部分をさらに掘り下げ、現場での体験を織り交ぜてより理解度を深めてもらう
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出欠状況 3. 授業受講の熱心さ
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。小テストをおこないます。定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	理容師国家試験受験資格
関連科目	理容技術理論、理容総合技術
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発刊 理容実習1・2 理容技術理論1・2 公益社団法人理容師美容師試験研修センター発刊 技術の解説 アリアーレビューティー専門学校 理容師実技試験マニュアル

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力		○	

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	理容師免許を有し理容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表

教科名	美容実習						
対象科	美容科	学年	1年	必選	必須	単位数	14（420時間）
担当教員 (実務経験の有無)	水野 亮[有]						

授業計画（授業の方法及び内容）							
回	項目			内容			
1～21	ワインディング 1			ワインディング技術を円滑にする為のブロッキング練習をして、ある程度理解が出来たらワインディング用のカットをする。			
22～36	ワインディング 2			カットを終えたウィッグでワインディング用の12ブロッキングのタイムを計り、目標は3分以内を目指して行っていく。ワインディング技術である巻き方の上巻きと下巻きの指導を行う。			
37～65	ワインディング 3			ブロッキングと巻き方を理解したらセンター巻きのタイム計測を行い、目標は10分以内を目指す。出来るようになったらサイド巻きのタイム計測も行い目標タイムは右が15分左が12分で計測する。			
66～122	ワインディング 4			全頭の巻き方を理解したところで全体のタイムを計る。目標タイムは40分以内を目指して行う。			
123～135	浴衣着付け 1			帯の締め方を理解し自分自身で浴衣を着れるようにする。			
136～142	浴衣着付け 2			2人一組でペアになりお互いに浴衣を着付ける。お互いで指摘し合い綺麗に着付けが出来るようにする。			
143～157	ヘアウエービング 1			ウエーブ技術を円滑に行うためにウィッグにパーマをかけ、出来上がったウィッグに専用のローションを使用しフィンガーウエーブの準備をしていく。最初はハーフウエーブから作って出来たハーフウエーブにリッジを作っていく。			
158～200	ヘアウエービング 2			フィンガーウエーブのみで7段構成を作っていく練習をする。1段目は馬蹄形にウエーブを作っていく。2段目は1段目とのつながりに気をつけてウエーブを作り、3段目はバランスに気をつけて作る。			
201～236	ヘアウエービング 3			4段目から7段目までを作る。その際に5段目、6段目のウエーブは耳にあたらないように作るようにする。			
237～279	ヘアウエービング 4			ノーパートフィンガーウエーブ7段構成のタイムを計測する。目標タイムは40分。			
280～288	ネイル 1			爪の形を綺麗に整えるためにファイリングを行い、その後キューティクル処理を行って、カラーエナメル等が綺麗に塗れる準備をする。			
289～301	ネイル 2			爪の形と表面が綺麗になっている状態でカラーエナメルを塗布する。その後より綺麗にみせるためのトップコートを塗布する。			
302～320	ノーパート 7 段構成 1			1段目と3段目スカルプチュアカールの作り方とバランスとピンの打ち方の理解と実践。			
321～338	ノーパート 7 段構成 2			4段目リフトカール作り方とクローズ打ち 5段目リフトカール作り方とオープン打ちどちらもバランスをみながら作る。			
339～355	ノーパート 7 段構成 3			1段目から5段目までのピンカールを理解したら、そこまでの構成のタイムを計る。目標は25分。			
356～374	ノーパート 7 段構成 4			6段目メイボールカール7段目クロッキノールカールの作り方とバランスとピンの打ち方の理解と実践。			
375～399	ノーパート 7 段構成 5			ノーパート7段構成のタイムを計る。目標は40分。その際のバランスや仕上がりが綺麗に作れるようにする。			
400～406	エステ 1			ターバンをしてクレンジングの際に毛髪が邪魔にならないようにする。その後はポイントメイク落としをしてクレンジング剤を使用して、顔とデコルテのクレンジングを行う。			
407～413	エステ 2			あらかじめ人肌程度にマッサージオイルを温めて塗布していきデコルテから顔へとまんべんなくのばして、マッサージをする。			

414～420	エステ 3	デコルテからマッサージをしてその後フェイシャルマッサージを手順に沿って行っていく スチームタオルでふき取りをした後に収れん化粧水で仕上げをする。
---------	-------	---

教育目標 ねらい (到達目標)	国家試験科目である技術の基礎を身につけること。他の美容技術への理解と実践
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	国家試験科目は主に教室で行い、必要に応じて教員も見本例などを展示する。他の美容技術は主に実習室を使用し、専門道具等の使い方を理解する。
評価方法	定期試験、実技試験、授業態度
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	美容師国家試験受験資格
関連科目	美容技術理論 美容総合技術
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発刊 美容実習1・2 美容技術理論1・2 公益社団法人理容師美容師試験研修センター発刊 技術の解説

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○	○	○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- 〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- 〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- 〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- 〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表							
教科名	美容実習						
対象科	美容科	学年	2年	必選	必須	単位数	16（480時間）
担当教員 （実務経験の有無）	高橋 秀典〔有〕						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	時には自己表現も含めた自由な課題制作や、選択した課題に向けて取り組ませ到達レベルに合った期限と水準を求めることにより、社会の厳しさなども体感してもらう。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	コンテスト、作品制作、フォトシューティング、サロンで必要な技術を経験させ身に着けさせる。また、国家試験実技課題の練習を1年間で繰り返し行い基本技術と自信を身につけさせる。
評価方法	担任の指定した基準を提出期限含め審査する。担任だけでなく外部（プロ・一般）の投票や意見も反映させた評価方法をとる。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	課題の完成や到達レベルには自己研鑽が必要なことを心掛けさせる。
資格対応	コンテスト入賞、美容師国家試験の合格を目指す。
関連科目	美容実習1、美容技術理論1・2、衛生管理
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発刊 美容実習1・2 美容技術理論1・2 公益社団法人理容師美容師試験研修センター発刊 技術の解説

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度		○	○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力		○	○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表

教科名	理容総合理論【接遇】						
対象科	理容科	学年	1年	必選	選択	単位数	1（30時間）
担当教員 (実務経験の有無)	服部緑子[無]						

授業計画（授業の方法及び内容）

回	項目	内容
1	オリエンテーション 当校のルールとマナーについて 第1章基本のマナー社会人としての心構え①	学生と社会人の違いについて学ぶ。社会人・企業人・職業人のバランスが何故大切なのかを具体的例をあげ理解を深める。
2～4	基本のマナー第一印象の5原則②③④	表情・挨拶・身だしなみ・立ち振る舞い・言葉遣いについて、講師が手本を見せ基本動作を学ぶ。演習を通じ日常を振り返り気付きと必要性を理解する
5～7	第2章 ビジネス会話のマナー①②③	ビジネスシーンでの正しい言葉遣い尊敬語・謙譲語・クッション言葉の基本を学ぶ。練習問題を継続して実施し理解を深める。
8	ビジネス会話のマナー④	話し方、聴き方の基本を学ぶ。相手に伝わる効果的な会話をする為のテクニックと傾聴姿勢の基本について演習を通じ体感することで理解を深める。
9	ビジネス会話のマナー⑤	言葉遣いを総合演習。「5年後の私」をテーマに1分間スピーチを作成する
10	ビジネス会話のマナー⑥	人前で話すことに慣れる（就職面接・就職後の自己紹介等）「5年後の私」をテーマに理・美容師を選んだ理由、自分の強み、学校での学びや取り組み姿勢等を発表。
11～13	第3章 コミュニケーションツールの活用 電話対応の基本・携帯電話Fax①②③	ツールの特徴とメリットやデメリットを学び適切な連絡手段を学ぶ。美容室での電話対応の基本の受け方、かけ方を学ぶ。演習を通し振り返り課題を明確にする。
14, 15	接遇検定実技試験対策①②	理・美容師アシスタントとしての接遇・マナースキルの確認。第1印象を高める挨拶・表情・整容・立ち振る舞い・言葉遣いについて総合演習。検定スケジュールと当日の確認。
16, 17	接遇検定実技試験対策③④	理・美容師アシスタントとしての接遇・マナースキルの確認。第2印象を高める挨拶・表情・整容・立ち振る舞い・言葉遣いについて総合演習。検定スケジュールと当日の確認。
18～21	接遇検定実技試験対策⑤⑥	美容室でアシスタントとして必要な接客サービス能力：挨拶、姿勢、表情、態度、言葉遣い立ち方、歩き方、話し方、座り方、スピード、話す内容を含む実技試験60点以上合格を目指す。
22～24	第4章 コミュニケーションツールの活用 ビジネス文書について①②③	ビジネス文書の種類と基本を学ぶ。面接後の「お礼状」を実際に作成することで手紙・封書の書き方の基本を学ぶ。
25, 26	就職活動対策①②	履歴書の書き方の実践とリアルでの面接対策、入室から退室まで演習を通して学ぶ。
27	就職活動対策③	就職活動対策オンラインでの面接対策、入室から退室の対応の基本とオンラインならではの注意ポイントを学ぶ。
28, 29	第5章 来客対応と訪問のマナー ①②	来客対応の基本を学ぶ（お出迎え、ご案内、席次、名刺交換、お茶出し、お会計、お見送り）接客場面別に演習を通し習得する。
30	第6章 食事のマナー 第7章 冠婚葬祭	テーブルマナーの基礎知識。西洋料理、日本料理のマナーの基本を学ぶ。懐紙の使い方、正しい箸の使い方等。 冠婚葬祭の予備知識について学ぶ

教育目標 ねらい (到達目標)	①基本的なビジネスマナーを身につける。 ②積極的なコミュニケーションを作り出せる。 ③状況に応じて適切に判断し活用できる。	
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	①講義形式でマナーの知識、必要性を学びます。 ②演習を通し基本の形を学びます。 ③ 応対される側（お客様）と応対する側（スタッフ）の立場の理解を深めます。	
評価方法	①定期試験 ②授業の出席状況 ③学習態度、取り組み状況等	
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	①就職活動及び理容室の現場に準じた受講内容。 ②定期試験は、60点以上を合格とする。 ③接客検定実技試験は、60点以上を合格とする。	
資格対応	①アリアーレ接客検定実技試験	
関連科目	①運営管理 ②インターンシップ	
テキスト 及び 参考文献	「接客サービスマナーベーシックマニュアル」NP0法人日本サービスマナー協会監修	

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。
※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。
[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験
の有無について

- ①専門学校に対する教育・指導歴
- ②企業・福祉施設の依頼による社内教育・研修

授業計画表

教科名	理容総合理論【接遇】						
対象科	理容科	学年	1年	必選	選択	単位数	1（30時間）
担当教員 (実務経験の有無)	服部緑子[無]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1	オリエンテーション 当校のルールとマナーについて 第1章基本のマナー社会人としての心構え①	学生と社会人の違いについて学ぶ。社会人・企業人・職業人のバランスが何故大切なのかを具体的例をあげ理解を深める。
2～4	基本のマナー第一印象の5原則②③④	表情・挨拶・身だしなみ・立ち振る舞い・言葉遣いについて、講師が手本を見せ基本動作を学ぶ。演習を通じ日常を振り返り気付きと必要性を理解する
5～7	第2章 ビジネス会話のマナー①②③	ビジネスシーンでの正しい言葉遣い尊敬語・謙譲語・クッション言葉の基本を学ぶ。練習問題を継続して実施し理解を深める。
8	ビジネス会話のマナー④	話し方、聴き方の基本を学ぶ。相手に伝わる効果的な会話をする為のテクニックと傾聴姿勢の基本について演習を通じ体感することで理解を深める。
9	ビジネス会話のマナー⑤	言葉遣いを総合演習。「5年後の私」をテーマに1分間スピーチを作成する
10	ビジネス会話のマナー⑥	人前で話すことに慣れる（就職面接・就職後の自己紹介等）「5年後の私」をテーマに理・美容師を選んだ理由、自分の強み、学校での学びや取り組み姿勢等を発表。
11～13	第3章 コミュニケーションツールの活用 電話対応の基本・携帯電話Fax①②③	ツールの特徴とメリットやデメリットを学び適切な連絡手段を学ぶ。美容室での電話対応の基本の受け方、かけ方を学ぶ。演習を通し振り返り課題を明確にする。
14, 15	接遇検定実技試験対策①②	理・美容師アシスタントとしての接遇・マナースキルの確認。第1印象を高める挨拶・表情・整容・立ち振る舞い・言葉遣いについて総合演習。検定スケジュールと当日の確認。
16, 17	接遇検定実技試験対策③④	理・美容師アシスタントとしての接遇・マナースキルの確認。第2印象を高める挨拶・表情・整容・立ち振る舞い・言葉遣いについて総合演習。検定スケジュールと当日の確認。
18～21	接遇検定実技試験対策⑤⑥	美容室でアシスタントとして必要な接客サービス能力：挨拶、姿勢、表情、態度、言葉遣い立ち方、歩き方、話し方、座り方、スピード、話す内容を含む実技試験60点以上合格を目指す。
22～24	第4章 コミュニケーションツールの活用 ビジネス文書について①②③	ビジネス文書の種類と基本を学ぶ。面接後の「お礼状」を実際に作成することで手紙・封書の書き方の基本を学ぶ。
25, 26	就職活動対策①②	履歴書の書き方の実践とリアルでの面接対策、入室から退室まで演習を通して学ぶ。
27	就職活動対策③	就職活動対策オンラインでの面接対策、入室から退室の対応の基本とオンラインならではの注意ポイントを学ぶ。
28, 29	第5章 来客対応と訪問のマナー ①②	来客対応の基本を学ぶ（お出迎え、ご案内、席次、名刺交換、お茶出し、お会計、お見送り）接客場面別に演習を通し習得する。
30	第6章 食事のマナー 第7章 冠婚葬祭	テーブルマナーの基礎知識。西洋料理、日本料理のマナーの基本を学ぶ。懐紙の使い方、正しい箸の使い方等。 冠婚葬祭の予備知識について学ぶ

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	①基本的なビジネスマナーを身につける。 ②積極的なコミュニケーションを作り出せる。 ③状況に応じて適切に判断し活用できる。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	①講義形式でマナーの知識、必要性を学びます。 ②演習を通し基本の形を学びます。 応対される側（お客様）と応対する側（スタッフ）の立場の理解を深めます。
評価方法	①定期試験 ②授業の出席状況 ③学習態度、取り組み状況等
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	①就職活動及び理容室の現場に準じた受講内容。 ②定期試験は、60点以上を合格とする。 ③接客検定実技試験は、60点以上を合格とする。
資格対応	①アリアーレ接客検定実技試験
関連科目	①運営管理 ②インターンシップ
テキスト 及び 参考文献	「接客サービスマナーベーシックマニュアル」NP0法人日本サービスマナー協会監修

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験
の有無について

- ①専門学校に対する教育・指導歴
- ②企業・福祉施設の依頼による社内教育・研修

授業計画表							
教科名	理容総合理論【色彩】						
対象科	理容科	学年	1年	必選	選択	単位数	1（30時間）
担当教員 （実務経験の有無）	榎本 祐美子〔有〕						

授業計画		
回	項目	内容
1	第2章 色彩理論・色の仕組み	色とは何か？色についての基礎を学びます
2～4	第2章 色彩理論 CUS表色系・	テキストの配色システムになる色の表現方法なので理解できるまでしっかり学びます
5・6	第2章 色彩理論 CUS配色効果	このテキストの特徴であるアンダートーンによる色の表現方法なので理解できるまでしっかり学びます
7	第2章 色彩理論 対比と同化現象	テキストを読み、ポイントを抑えながら学び、理解する
8	第3章 色彩理論 色の感情効果	テキストを読み、ポイントを抑えながら学び、理解する
9	第4章 色彩理論 CUSの復習	練習問題を使い復習する。
10・11	パーソナルカラー実習	実際にドレープ（専用の布）を使ってパーソナルカラー診断を行う
12・13	第1章色彩と文化・日本の色の歴史	テキストのポイントを抑えながら学ぶ
14・15	第3章 色彩とファッション・フアッ ション概論等	テキストのポイントを抑えながら学ぶ
16	第4章パーソナルカラー・皮膚の構造	テキストのポイントを抑えながら学ぶ
17～19	第4章パーソナルカラー ・パーソナルカラーの特徴	テキストのポイントを抑えながら学び理解する
20～29	検定対策	問題慣れの為過去問を使い全体の復習をして検定に備える
30	改めて色とは	1年間のまとめとして、今後も知っておいてほしい色の知識を伝える。

教育目標 ねらい	今後の業務に関係する色彩知識やセンスを身につけるとともに「自分の色」をみつけてもらう
授業の概要	教室において講義形式でテキストを進めるが、単に色ではなく色とのつながりの深さを理解してもらう
評価方法	・定期試験 ・授業の出欠状況 ・授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます 練習問題や作品を提出してもらいます 定期試験は60点以上を合格とします

資格対応	パーソナルカリスト検定 3級 (希望者のみ2級)
関連科目	モード
テキスト 及び 参考文献	日本カリスト協会、パーソナルカリスト検定3級公式テキスト

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関 係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		
※表内の○印を評価の対象とする。 ※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。 [Sレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標を満たしている。 [Aレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標を一部分満たしている。			

担当教員の実務経験 の有無について	パーソナルカラーアナリストとして各方面で指導
----------------------	------------------------

授業計画表							
教科名	理容総合理論【色彩】						
対象科	理容科	学年	1年	必選	選択	単位数	1（30時間）
担当教員 （実務経験の有無）	榎本 祐美子〔有〕						

授業計画		
回	項目	内容
1	第2章 色彩理論・色の仕組み	色とは何か？色についての基礎を学びます
2～4	第2章 色彩理論 CUS表色系・	テキストの配色システムになる色の表現方法なので理解できるまでしっかり学びます
5・6	第2章 色彩理論 CUS配色効果	このテキストの特徴であるアンダートーンによる色の表現方法なので理解できるまでしっかり学びます
7	第2章 色彩理論 対比と同化現象	テキストを読み、ポイントを抑えながら学び、理解する
8	第3章 色彩理論 色の感情効果	テキストを読み、ポイントを抑えながら学び、理解する
9	第4章 色彩理論 CUSの復習	練習問題を使い復習する。
10・11	パーソナルカラー実習	実際にドレープ（専用の布）を使ってパーソナルカラー診断を行う
12・13	第1章色彩と文化・日本の色の歴史	テキストのポイントを抑えながら学ぶ
14・15	第3章 色彩とファッション・フアッ ション概論等	テキストのポイントを抑えながら学ぶ
16	第4章パーソナルカラー・皮膚の構造	テキストのポイントを抑えながら学ぶ
17～19	第4章パーソナルカラー ・パーソナルカラーの特徴	テキストのポイントを抑えながら学び理解する
20～29	検定対策	問題慣れの為過去問を使い全体の復習をして検定に備える
30	改めて色とは	1年間のまとめとして、今後も知っておいてほしい色の知識を伝える。

教育目標 ねらい	今後の業務に関係する色彩知識やセンスを身につけるとともに「自分の色」をみつけてもらう
授業の概要	教室において講義形式でテキストを進めるが、単に色ではなく色とのつながりの深さを理解してもらう
評価方法	・定期試験 ・授業の出欠状況 ・授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます 練習問題や作品を提出してもらいます 定期試験は60点以上を合格とします

資格対応	パーソナルカリスト検定 3級 (希望者のみ2級)
関連科目	モード
テキスト 及び 参考文献	日本カリスト協会、パーソナルカリスト検定3級公式テキスト

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関 係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		
※表内の○印を評価の対象とする。 ※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。 [Sレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標を満たしている。 [Aレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標を一部分満たしている。			

担当教員の実務経験 の有無について	パーソナルカラーアナリストとして各方面で指導
----------------------	------------------------

授業計画表

教科名	理容総合理論【関係法規制度】						
対象科	理容科	学年	2年	必選	選択	単位数	1（30時間）
担当教員 (実務経験の有無)	山口 孝[無]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1～2	法制度の概要と公衆衛生法規の概要	物理的強制とは何かを理解させ、次に法と道德の違いを理解させる。法が成立する過程を理解させ国家とのかかわりを理解させる。
3～4	衛生行政の概要	法と行政、衛生行政の種類と衛生行政機関（保健所等）について理解させる。厚生労働省の機構。
5～6	小テスト	
7～8	小テストの解説、理容師法①	理容師法の目的と歴史、理容師法の体系について理解させる（法律上の定義）
9～10	理容師法②	理容師（国家試験、免許制度について。資格関連法規。）
11～12	理容師法③	理容所（理容所の開設、業を行う場所について。業務関連法規。）
13～14	理容師法④	違反者等に対する行政処分（業務停止・免許取消等の行政処分について）
15～16	理容師法⑤	立入検査と環境衛生監視員（立入検査について）
17～18	小テスト	
19～20	小テストの解説、理容師法⑥	公衆衛生のあらまし、理容の業務と消毒の関係
21～22	理容師法⑦	理容所の環境衛生
23～24	理容師法⑧	消毒法総論
25～26	関係法規	理容師法の今後の課題（理容師法をめぐる論議、理容業と法規制）と生活衛生関係営業の料金等の規制や同業組合、振興計画、独立経営に際して必要となる諸規定、地域保健や感染症関連の法規等。
27～28	小テスト	
29～30	総復習	理容師法の復習（理容師法の難しさ、理容師法の内容）

教育目標 ねらい (到達目標)	理容師の資格は法律により規定され、理容師でなければ理容を業とすることはできない。このため理容師に必要な法知識を習得する必要がある。1年生の時（関係法規・制度）に法制度の概要からわが国の衛生行政、理容師法の要求する理容師・理容所についての規定を理解したが、理容師法以外の関係法規についても知識を深めることとする。	
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	「理（美）容師養成施設の教科課目の基準の運用について」を意識して授業を進める。理容師法以外の関係法規は、他の教科課目においても同様の内容が含まれていることから、法規として何を学ぶために学習するのかを整理した上で、理容に関係する「一般衛生法規」、「公衆衛生法規」、「生活衛生法規」を中心とした内容にする。	
評価方法	成績は基本的に期末試験の得点によって評価する。なお、期末試験の得点が60点未満の者に対しては再試験をし60点以上を合格、再度60点未満の場合はテスト補習を行う。	
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。	
資格対応	理容師国家試験受験資格に準ずる	
関連科目	関係法規・制度、運営管理	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター 関係法規・制度、運営管理、社会福祉	

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	美容総合理論【関係法規制度】						
対象科	美容科	学年	2年	必選	選択	単位数	1（30時間）
担当教員 （実務経験の有無）	山口 孝[無]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1～2	法制度の概要と公衆衛生法規の概要	物理的強制とは何かを理解させ、次に法と道德の違いを理解させる。法が成立する過程を理解させ国家とのかかわりを理解させる。
3～4	衛生行政の概要	法と行政、衛生行政の種類と衛生行政機関（保健所等）について理解させる。厚生労働省の機構。
5～6	小テスト	
7～8	小テストの解説、美容師法①	美容師法の目的と歴史、美容師法の体系について理解させる（法律上の定義）
9～10	美容師法②	美容師（国家試験、免許制度について。資格関連法規。）
11～12	美容師法③	美容所（美容所の開設、業を行う場所について。業務関連法規。）
13～14	美容師法④	違反者等に対する行政処分（業務停止・免許取消等の行政処分について）
15～16	美容師法⑤	立入検査と環境衛生監視員（立入検査について）
17～18	小テスト	
19～20	小テストの解説、美容師法⑥	公衆衛生のあらまし、美容の業務と消毒の関係
21～22	美容師法⑦	美容所の環境衛生
23～24	美容師法⑧	消毒法総論
25～26	関係法規	美容師法の今後の課題（美容師法をめぐる論議、美容業と法規制）と生活衛生関係営業の料金等の規制や同業組合、振興計画、独立経営に際して必要となる諸規定、地域保健や感染症関連の法規等。
27～28	小テスト	
29～30	総復習	美容師法の復習（美容師法の難しさ、美容師法の内容）

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	理容師の資格は法律により規定され、理容師でなければ理容を業とすることはできない。このため理容師に必要な法知識を習得する必要がある。1年生の時（関係法規・制度）に法制度の概要からわが国の衛生行政、理容師法の要求する理容師・理容所についての規定を理解したが、理容師法以外の関係法規についても知識を深めることとする。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	「理（美）容師養成施設の教科課目の基準の運用について」を意識して授業を進める。美容師法以外の関係法規は、他の教科課目においても同様の内容が含まれていることから、法規として何を学ぶために学習するのかを整理した上で、美容に関係する「一般衛生法規」、「公衆衛生法規」、「生活衛生法規」を中心とした内容にする。
評価方法	成績は基本的に期末試験の得点によって評価する。なお、期末試験の得点が60点未満の者に対しては再試験をし60点以上を合格、再度60点未満の場合はテスト補習を行う。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。
資格対応	美容師国家試験受験資格に準ずる
関連科目	関係法規・制度、運営管理
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター 関係法規・制度、運営管理、社会福祉

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	理容総合理論【運営管理】						
対象科	理容科	学年	2年	必修	選択	単位数	1（30時間）
担当教員 (実務経験の有無)	山口 孝[無]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1～2	オリエンテーション	授業の進め方と心構えについて
3～4	障害者福祉	障害者福祉の概要・障害者基本法・障害者総合支援法
5～6	高齢者福祉	高齢者福祉・老人福祉法
7～8	労務管理①	理容業と労務管理、労務管理に関する知識
9～10	労務管理②	理容業と人事管理、理容業と社会保障制度
11～12	経営管理①	企業の形態、理容業と料金
13～14	経営管理②	理容業と経理、理容業の簿記と税務
15～16	マーケティング①	なぜマーケティングを学ぶのか、マーケティングの基本的な考え方
17～18	マーケティング②	マーケティング戦略、競争とポジショニング
19～20	マーケティング③	理容業のためのマーケティング、戦略の立て方
21～22	顧客満足経営	顧客満足経営とはどのような経営なのか、売上志向から顧客志向へ
23～24	サロン起業①	サロンの起業とはどのようなものか、サロンの起業には何が必要か
25～26	サロン起業②	繁盛店を考えてみよう①
27～28	サロン起業③	繁盛店を考えてみよう②
29～30	理容ビジネスの将来	今後の理容業はどうなっていくのか

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	2020年3月美容師国家試験より「運営管理」が試験課目に追加されます。運営管理とはその名の通り（店舗）を運営し、（人・モノ・お金）を管理することであり、この授業では、大きく分けて業務を行う人を行う場所（施設）の2つを対象として、規制のしくみを考えます。人として「しなければならない」事や「してはならない」事の決まりを同様に施設（経営者）の視点からも考える。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	「理（美）容師養成施設の教科課目の基準の運用について」を意識して授業を進める。最近の生徒は日常のあいさつができない等社会人としてのマナーに欠けている部分が多く見られることから、ビジネスマナー等「接客法」をより詳細に学習する。
評価方法	成績は基本的に期末試験の得点によって評価する。なお、期末試験の得点が60点未満の者に対しては再試験をし60点以上を合格、再度60点未満の場合はテスト補習を行う。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。
資格対応	美容師国家試験受験資格に準ずる
関連科目	関係法規・制度、運営管理
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター 関係法規・制度、運営管理、社会福祉

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	美容総合理論【運営管理】						
対象科	美容科	学年	2年	必選	選択	単位数	1（30時間）
担当教員 (実務経験の有無)	山口 孝[無]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1～2	オリエンテーション	授業の進め方と心構えについて
3～4	障害者福祉	障害者福祉の概要・障害者基本法・障害者総合支援法
5～6	高齢者福祉	高齢者福祉・老人福祉法
7～8	労務管理①	美容業と労務管理、労務管理に関する知識
9～10	労務管理②	美容業と人事管理、美容業と社会保障制度
11～12	経営管理①	企業の形態、美容業と料金
13～14	経営管理②	美容業と経理、美容業の簿記と税務
15～16	マーケティング①	なぜマーケティングを学ぶのか、マーケティングの基本的な考え方
17～18	マーケティング②	マーケティング戦略、競争とポジショニング
19～20	マーケティング③	美容業のためのマーケティング、戦略の立て方
21～22	顧客満足経営	顧客満足経営とはどのような経営なのか、売上志向から顧客志向へ
23～24	サロン起業①	サロンの起業とはどのようなものか、サロンの起業には何が必要か
25～26	サロン起業②	繁盛店を考えてみよう①
27～28	サロン起業③	繁盛店を考えてみよう②
29～30	美容ビジネスの将来	今後の美容業はどうなっていくのか

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	2020年3月美容師国家試験より「運営管理」が試験課目に追加されます。運営管理とはその名の通り（店舗）を運営し、（人・モノ・お金）を管理することであり、この授業では、大きく分けて業務を行う人を行う場所（施設）の2つを対象として、規制のしくみを考えます。人として「しなければならない」事や「してはならない」事の決まりを同様に施設（経営者）の視点からも考える。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	「理（美）容師養成施設の教科課目の基準の運用について」を意識して授業を進める。最近の生徒は日常のあいさつができない等社会人としてのマナーに欠けている部分が多く見られることから、ビジネスマナー等「接客法」をより詳細に学習する。
評価方法	成績は基本的に期末試験の得点によって評価する。なお、期末試験の得点が60点未満の者に対しては再試験をし60点以上を合格、再度60点未満の場合はテスト補習を行う。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。
資格対応	美容師国家試験受験資格に準ずる
関連科目	関係法規・制度、運営管理
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター 関係法規・制度、運営管理、社会福祉

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表							
教科名	理容総合理論【他】						
対象科	理容科	学年	1年	必選	選択	単位数	1（30時間）
担当教員 （実務経験の有無）	磯部臣史〔無〕						

[illegible]

教育目標 ねらい	理容技術理論、理容実習、理容総合技術等で得た技術をより今後のサロンワークに活かせるよう、さらに細かいところまで知識の向上を目指す。
授業の概要	教室において講義形式にて授業を進める。教科書全般だけではなく教科書から重点的な部分をさらに掘り下げ、現場での体験を織り交ぜてより理解度を深めてもらう。
評価方法	1. 授業の出欠状況 2. 授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます。小テストをおこないます。
資格対応	
関連科目	理容技術理論、理容実習、理容総合技術
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 理容技術理論 1・理容技術理論 2

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表							
教科名	美容総合理論【他】						
対象科	美容科	学年	1年	必選	選択	単位数	1（30時間）
担当教員 （実務経験の有無）	水野亮〔有〕						

[illegible]

教育目標 ねらい	理容技術理論、理容実習、理容総合技術等で得た技術をより今後のサロンワークに活かせるよう、さらに細かいところまで知識の向上を目指す。
授業の概要	教室において講義形式にて授業を進める。教科書全般だけではなく教科書から重点的な部分をさらに掘り下げ、現場での体験を織り交ぜてより理解度を深めてもらう。
評価方法	1. 授業の出欠状況 2. 授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます。小テストをおこないます。
資格対応	
関連科目	理容技術理論、理容実習、理容総合技術
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 理容技術理論 1・理容技術理論 2

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務
------------------	-------------------

授業計画表							
教科名	理容総合理論【他】						
対象科	理容科	学年	2年	必選	選択	単位数	4（120時間）
担当教員 （実務経験の有無）	磯部臣史〔有〕						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい	対サロンワークで今後実際に起こりうるであろう外国人対策と、国家試験（筆記）を合格するために、 いろいろな問題集などを用い理解度を深める。
授業の概要	教室において講義形式にて授業を進める。教科書全般だけではなく問題集などから理解度を深め、国家 試験（筆記）の合格率を高める。
評価方法	1. 授業の出欠状況 2. 授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます。小テストをおこないます。
資格対応	
関連科目	関係法規、運営管理、衛生管理、理容保健、香粧品化学、理容文化論、理容技術理論
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 ワークブック、外国語

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関 係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	理容師免許を有し理容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表

教科名	美容総合理論【他】						
対象科	美容科	学年	2年	必選	選択	単位数	4（120時間）
担当教員 （実務経験の有無）	高橋 秀典[有]						

授業計画		
回	項目	内容
1～10	法規・制度 ワークブック①	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
11～20	法規・制度 ワークブック②	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
21～30	技術理論 ワークブック①	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
31～40	技術理論 ワークブック②	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
41～50	技術理論 ワークブック③	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
21～60	美容保健 ワークブック①	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
61～70	美容保健 ワークブック②	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
71～80	物理・香粧品化学 ワークブック①	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
81～90	物理・香粧品化学 ワークブック②	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
91～100	衛生管理 ワークブック①	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
101～120	衛生管理 ワークブック②	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
121～130	衛生管理 ワークブック③	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
131～140	衛生管理 練習問題	質疑応答&解答考察・・・練習問題により多角的・応用的に理解を深める。
141～150	物理・香粧品化学 練習問題	質疑応答&解答考察・・・練習問題により多角的・応用的に理解を深める。
151～160	美容保健 練習問題	質疑応答&解答考察・・・練習問題により多角的・応用的に理解を深める。
161～170	技術理論 練習問題	質疑応答&解答考察・・・練習問題により多角的・応用的に理解を深める。
171～175	法規・制度 練習問題	質疑応答&解答考察・・・練習問題により多角的・応用的に理解を深める。
176～180	筆記対策模擬テスト	総合評価確認のため5科目を模擬筆記試験形式で行う。マークシートの記入要領も指導。自己採点をさせ欠点を洗い出す。

教育目標 ねらい	国家試験筆記対策として当該科目の理解度を高める。
授業の概要	ワークブック、練習問題教材を使用して多角的に理解させる。
評価方法	事項採点、自己解決の方式もとるが、模擬テストでは細分化したテスト結果を総合評価（順位発表）をして勉強の取組自体を考えさせる。
受講心得	1か月の期間にどこまで受験対策ができるかを常に心得させます。
資格対応	美容師国家資格取得を目指す。
関連科目	関係法規・制度、衛生管理、美容保健、物理・香粧品化学、技術理論
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行・・・関係法規・制度、衛生管理、美容保健、物理・香粧品化学、技術理論1・2、ワークブックなど

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務
------------------	-------------------

授業計画表

教科名	理容モード理論						
対象科	理容科	学年	1年	必選	選択	単位数	2（60時間）
担当教員 (実務経験の有無)	稲垣千津子[無]						

授業計画		
回	項目	内容
1～2	第1章 鉛筆の削り方 第2章 顔のプロポーション	短時間で形のよい顔のプロポーションの描き方を数字的に分割する方法を理解しながら鉛筆で下描きしていく。
3～4	第3章 顔の部分練習、基礎編 第4章 顔の描き方、正面向き	レディースの正面向きで目の描き方、鼻の描き方、口の描き方等書いていく。
5～6	第6章 ヘアの描き方	球体を線で表現する方法を学び、毛先の表現、陰影のつけ方、ヘアスタイルを考え、レディースの下描きを完成させる
7～10	第2章、第3章、第6章のまとめ	メンズの正面向きの下書き、ヘアスタイルを考え、下描きを完成させる。
11～12	応用イラスト	下描きしたメンズ、レディースのヘアスタイル画をケント紙に描き写す。
13～14	応用イラスト	パステル、色鉛筆の画材の使い方を学ぶ
15～18	応用イラスト	パステル、色鉛筆、ねり消しゴム、コットン綿棒等を使用して、メンズ、レディースのヘアスタイル画を着色し完成させる。
19～20	第4章 顔の描き方、斜め向き レディース、メンズ	正面向きと比べ左右のバランスの違いを理解する。 鉛筆下描き。
21～24	第4章 顔の描き方、斜め向き レディース、メンズ	斜め向きは、トップ・サイド・ネープと見えるので、ヘアデザインを考えてケント紙にパステル、色鉛筆で着色する。
25～26	コンテの使い方	身近な果物、リンゴを使い、コンテの使い方、陰影、球体の表現方法のテクニックを学ぶ。
27～28	写実的な描き方	写真のヘアスタイルを見ながら、下描きを描く。
29～34	写実的な描き方	画用紙に下描きを描き写し、コンテで着色していく。 消しゴム、さっ筆、綿棒等を使い、髪の毛の流れや光を表現していく。
35～38	第4章 顔の描き方、横向き レディース、メンズ	横向きのヘアスタイルのデザインをし、画材は黒のサインペンのみで仕上げる。背景を点描画でデザインする。
39～42	修了作品 製作	2年生時の学生大会提出用の作品に取りかかる。自分の描きたいヘアスタイル、ポーズ等を考え、B3サイズに下描きする。
43～44	ファッションの基礎知識①	世界5大コレクション・ブランド名・洋服の名称（1）等を理解する。
45～46	修了作品製作	下描きを完成させ、B3ボードに描いていく。
47～54	修了作品製作	コンテ、消しゴム、さっ筆等を使用し、髪の毛の流れや光の当たり方等、丁寧に描き込む。
55～56	ファッションの基礎知識②	洋服の名称（2）テキスタイル、靴の名称を理解する。
57～60	修了作品製作	背景を考え、テーマに沿ったイメージで全体的にバランスよく仕上げていく。

--	--	--

教育目標 ねらい	ヘアスタイル画を描きながら、顔のバランス等を正確に観察する力を養い、自分のイメージしたデザインを言葉だけでなくデザイン画で表現できるようにする。又、ヘアデザインの創作的な技術やトータルファッションの知識も身につけセンスや感性を磨いていく。
授業の概要	教科書や写真、実物を見ながら色々な画材を使い、デザイン画の作品を仕上げていく。
評価方法	1、定期試験 2、授業の出欠状況 3、作品物提出 4、授業受講の熱心さ
受講心得	テーマごとの作品を仕上げます。 定期試験は60点以上を合格とし、その中に作品の点数も含まれます。
資格対応	特になし。
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	社団法人日本理美容教育センター ヘアスタイルによるトータルファッション 織部企画 新ファッションビジネス基礎用語辞典

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の 関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○	○	

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	理容モード理論						
対象科	理容科	学年	1年	必選	選択	単位数	2（60時間）
担当教員 (実務経験の有無)	稲垣千津子[無]						

授業計画		
回	項目	内容
1～2	第1章 鉛筆の削り方 第2章 顔のプロポーション	短時間で形のよい顔のプロポーションの描き方を数式的に分割する方法を理解しながら鉛筆で下描きしていく。
3～4	第3章 顔の部分練習、基礎編 第4章 顔の描き方、正面向き	レディースの正面向きで目の描き方、鼻の描き方、口の描き方等書いていく。
5～6	第6章 ヘアの描き方	球体を線で表現する方法を学び、毛先の表現、陰影のつけ方、ヘアスタイルを考え、レディースの下描きを完成させる
7～10	第2章、第3章、第6章のまとめ	メンズの正面向きの下書き、ヘアスタイルを考え、下描きを完成させる。
11～12	応用イラスト	下描きしたメンズ、レディースのヘアスタイル画をケント紙に描き写す。
13～14	応用イラスト	パステル、色鉛筆の画材の使い方を学ぶ
15～18	応用イラスト	パステル、色鉛筆、ねり消しゴム、コットン綿棒等を使用して、メンズ、レディースのヘアスタイル画を着色し完成させる。
19～20	第4章 顔の描き方、斜め向き レディース、メンズ	正面向きと比べ左右のバランスの違いを理解する。 鉛筆下描き。
21～24	第4章 顔の描き方、斜め向き レディース、メンズ	斜め向きは、トップ・サイド・ネープと見えるので、ヘアデザインを考えてケント紙にパステル、色鉛筆で着色する。
25～26	コンテの使い方	身近な果物、リンゴを使い、コンテの使い方、陰影、球体の表現方法のテクニックを学ぶ。
27～28	写実的な描き方	写真のヘアスタイルを見ながら、下描きを描く。
29～34	写実的な描き方	画用紙に下描きを描き写し、コンテで着色していく。 消しゴム、さっ筆、綿棒等を使い、髪の毛の流れや光を表現していく。
35～38	第4章 顔の描き方、横向き レディース、メンズ	横向きのヘアスタイルのデザインをし、画材は黒のサインペンのみで仕上げる。背景を点描画でデザインする。
39～42	修了作品 製作	2年生時の学生大会提出用の作品に取りかかる。自分の描きたいヘアスタイル、ポーズ等を考え、B3サイズに下描きする。
43～44	ファッションの基礎知識①	世界5大コレクション・ブランド名・洋服の名称（1）等を理解する。
45～46	修了作品製作	下描きを完成させ、B3ボードに描いていく。
47～54	修了作品製作	コンテ、消しゴム、さっ筆等を使用し、髪の毛の流れや光の当たり方等、丁寧に描き込む。
55～56	ファッションの基礎知識②	洋服の名称（2）テキスタイル、靴の名称を理解する。
57～60	修了作品製作	背景を考え、テーマに沿ったイメージで全体的にバランスよく仕上げていく。

教育目標 ねらい	ヘアスタイル画を描きながら、顔のバランス等を正確に観察する力を養い、自分のイメージしたデザインを言葉だけでなくデザイン画で表現できるようにする。又、ヘアデザインの創作的な技術やトータルファッションの知識も身につけセンスや感性を磨いていく。
授業の概要	教科書や写真、実物を見ながら色々な画材を使い、デザイン画の作品を仕上げていく。
評価方法	1、定期試験 2、授業の出欠状況 3、作品物提出 4、授業受講の熱心さ
受講心得	テーマごとの作品を仕上げます。 定期試験は60点以上を合格とし、その中に作品の点数も含まれます。
資格対応	特になし。
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	社団法人日本理美容教育センター ヘアスタイルによるトータルファッション 織部企画 新ファッションビジネス基礎用語辞典

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の 関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○	○	

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表							
教科名	理容総合技術						
対象科	理容科	学年	1年	必選	選択	単位数	3（90時間）
担当教員 （実務経験の有無）	佐藤真弥〔有〕						

[illegible]

教育目標 ねらい	理容実習で覚えた技術をさらに発展、向上させることにより、技術大会や今後のサロンワークに役立てられるようにしたり、より実践的な技術を覚える。	
授業の概要	教室や実習室を使い、講義形式や相モデル等を用い実習形式で授業を行う。行う項目により別紙テキストを用いてより細かな知識を得て今後現場にて役立てられるようにする。	
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出欠状況 3. 授業受講の熱心さ	
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上を合格とします。	
資格対応		
関連科目	理容実習、理容技術理論	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 理容技術理論 1・理容技術理論 2 理容実習 1・理容実習 2	

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	理容師免許を有し理容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表							
教科名	美容総合技術						
対象科	美容科	学年	1年	必選	選択	単位数	3（100時間）
担当教員 (実務経験の有無)	鈴木 ゆかり〔無〕						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	サロンワークやトータルビューティアーの技術を身につけること。他の美容技術への理解と実践。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	主に実習室を使用し、専門道具等の使い方を理解する。
評価方法	定期試験、授業態度、各種検定結果
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	美容師国家資格、JNECネイリスト3級検定、JNAメイク3級検定、
関連科目	美容技術理論 美容実習
テキスト 及び 参考文献	美容技術理論 美容実習 JNAテクニカルベーシック

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○	○	○
※表内の○印を評価の対象とする。 ※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。 [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。			

担当教員の実務経験
の有無について

美容師免許を有し美容所において勤務

授業計画表	
-------	--

教科名	美容総合技術						
対象科	美容科	学年	1年	必選	選択	単位数	3（90時間）
担当教員 (実務経験の有無)	赤嶺 麻衣[無]						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	サロンワークやトータルビューティ어의技術を身につけること。他の美容技術への理解と実践。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	主に実習室を使用し、専門道具等の使い方を理解する。
評価方法	定期試験、授業態度、各種検定結果
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	美容師国家資格、JNECネイリスト3級検定、JNAメイク3級検定、
関連科目	美容技術理論 美容実習
テキスト 及び 参考文献	美容技術理論 美容実習 JNAテクニカルベーシック

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○	○	○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表							
教科名	美容総合技術						
対象科	美容科	学年	1年	必選	選択	単位数	3（90時間）
担当教員 (実務経験の有無)	鈴木 ゆかり[無]						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	サロンワークやトータルビューティアーの技術を身につけること。他の美容技術への理解と実践。
授業の概要 (授業期間全体を通じて授業の進め方)	主に実習室を使用し、専門道具等の使い方を理解する。
評価方法	定期試験、授業態度、各種検定結果
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	美容師国家資格、JNECネイリスト3級検定、JNAメイク3級検定、
関連科目	美容技術理論 美容実習
テキスト 及び 参考文献	美容技術理論 美容実習 JNAテクニカルベーシック

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○	○	○
※表内の○印を評価の対象とする。 ※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。 [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。			

担当教員の実務経験
の有無について

美容師免許を有し美容所において勤務

授業計画表							
教科名	美容総合技術						
対象科	美容科	学年	1年	必選	選択	単位数	3（90時間）
担当教員 (実務経験の有無)	水野 亮[有]						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	サロンワークやトータルビューティアーの技術を身につけること。他の美容技術への理解と実践。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	主に実習室を使用し、専門道具等の使い方を理解する。
評価方法	定期試験、授業態度、各種検定結果
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	美容師国家資格、JNECネイリスト3級検定、JNAメイク3級検定、
関連科目	美容技術理論 美容実習
テキスト 及び 参考文献	美容技術理論 美容実習 JNAテクニカルベーシック

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○	○	○
※表内の○印を評価の対象とする。 ※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。 [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。			

担当教員の実務経験 の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表							
教科名	美容総合技術						
対象科	美容科	学年	1年	必選	選択	単位数	3（90時間）
担当教員 (実務経験の有無)	中瀬 小夜香[無]						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	サロンワークやトータルビューティアーの技術を身につけること。他の美容技術への理解と実践。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	主に実習室を使用し、専門道具等の使い方を理解する。
評価方法	定期試験、授業態度、各種検定結果
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	美容師国家資格、JNECネイリスト3級検定、JNAメイク3級検定、
関連科目	美容技術理論 美容実習
テキスト 及び 参考文献	美容技術理論 美容実習 JNAテクニカルベーシック

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○	○	○
※表内の○印を評価の対象とする。 ※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。 [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。			

担当教員の実務経験 の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表							
教科名	美容総合技術						
対象科	美容科	学年	1年	必修	選択	単位数	3（90時間）
担当教員 （実務経験の有無）	服部 緑子[無]						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	サロンワークやトータルビューティアーの技術を身につけること。他の美容技術への理解と実践。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	主に実習室を使用し、専門道具等の使い方を理解する。
評価方法	定期試験、授業態度、各種検定結果
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	美容師国家資格、JNECネイリスト3級検定、JNAメイク3級検定、
関連科目	美容技術理論 美容実習
テキスト 及び 参考文献	美容技術理論 美容実習 JNAテクニカルベーシック

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○	○	○
※表内の○印を評価の対象とする。 ※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。 [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。			

担当教員の実務経験
の有無について

美容師免許を有し美容所において勤務

授業計画表							
教科名	理容総合技術						
対象科	理容科	学年	2年	必選	選択	単位数	3（80時間）
担当教員 （実務経験の有無）	佐藤真弥〔有〕						

[illegible]

教育目標 ねらい	理容実習で覚えた技術をさらに発展、向上させることにより、技術大会や今後のサロンワークに役立てられるようにしたり、より実践的な技術を覚える。	
授業の概要	教室や実習室を使い、講義形式や相モデル等を用い実習形式で授業を行う。行う項目により別紙テキストを用いてより細かな知識を得て今後現場にて役立てられるようにする。	
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出欠状況 3. 授業受講の熱心さ	
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上を合格とします。	
資格対応		
関連科目	理容実習、理容技術理論	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 理容技術理論 1・理容技術理論 2 理容実習 1・理容実習 2	

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	理容師免許を有し理容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表

教科名	美容総合技術						
対象科	美容科	学年	2年	必選	選択	単位数	3 (80時間)
担当教員 (実務経験の有無)	高橋 秀典[有]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1～3	フォトコン作品制作①	アップスタイルなどヘアセッティングを学ぶ。まずは色彩、造形学、過去の作品を参考にしながら各自のデザインを考えさせる。
4～7	フォトコン作品制作②	ウィッグをカット、カラーリング、セットなどを施しながら完成形に近づけていく。
8～12	フォトコン作品制作③	完成した作品のアピールポイントを自分で撮影し、立体的なヘアスタイル造形の難しさを知る。
13～17	サロン実習 シャンプー、ブロー①	サロンで使えるサイド・バックシャンプー、ブロー仕上げを反復練習させる。
18～22	サロン実習 シャンプー、パーマ①	サロンで使えるパーマ施術手順を人体で練習させる。またバリエーションを習得させる。
23～27	サロン実習 ヘアカラー、パーマ②	サロンで使えるパーマ施術手順を人体で練習させる。またバリエーションを習得させる。
28～32	サロン実習 ヘアカラー塗布①	サロンで使えるヘアカラー塗布、パーマ施術手順を人体で練習させる。
33～37	サロン実習 ヘアカラー塗布②	サロンで使えるヘアカラー塗布、パーマ施術手順を人体で練習させる。
38～42	サロン実習 ハンドマッサージ	相モデルによりハンドマッサージの手順を確認し、覚える。
43～47	サロン実習 ネイルケア	相モデルによりネイルケアの全工程を確認する。
48～52	サロン実習 ヘアセット	相モデルによりホットカーラー、アップスタイルのゴムの使い方、ピンの刺し方、シニョン、全体のバランスなどを確認させる。
53～63	国家試験衛生実技試験①	国家試験実技に際し衛生実技試験の内容を確認する。
64～74	国家試験衛生実技試験②	テスト形式で理解度を確認する。
75～80	婚礼着付け	袴、留袖、白無垢、かつら装着、婚礼小物の展示講習により理解を深めさせる。

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	時には自己表現も含めた自由な課題制作や、選択した課題に向けて取り組ませ到達レベルに合った期限と水準を求めることにより、社会の厳しさなども体感してもらう。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	コンテスト、作品制作、フォトシューティング、サロンで必要な技術を経験させ身に着けさせる。また、国家試験実技課題の練習を1年間で繰り返し行い基本技術と自信を身につけさせる。
評価方法	担任の指定した基準を提出期限含め審査する。担任だけでなく外部（プロ・一般）の投票や意見も反映させた評価方法をとる。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	課題の完成や到達レベルには自己研鑽が必要なことを心掛けさせる。
資格対応	コンテスト入賞、美容師国家試験の合格を目指す。
関連科目	美容実習1、美容技術理論1・2、衛生管理
テキスト 及び 参考文献	美容実習1、美容技術理論1・2、衛生管理、パーソナルカラーリスト検定テキスト、美容師国家試験「技術の解説」、美容師国家試験「受験案内」、美容衛生読本

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表							
教科名	社会保険						
対象科	美容科	学年	1年	必選	選択	単位数	1（30時間）
担当教員 (実務経験の有無)	山口 孝[無]						

[illegible]

教育目標 ねらい (到達目標)	私たちが生まれてから死ぬまでの一生の間には、就職や結婚、出産や育児などを経験すると共に病気やけが、転職や失業、また高齢になって収入がなくなったり、介護が必要になったりとさまざまな生活上の困難に直面します。その事態を緩和・軽減する社会保障に関する基礎的な知識を身につけることを目標とする。	
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	・「社会保障」 生活水準の低下を防ぐ所得保障、傷病の治療と健康の維持・回復を目的とする医療保障、高齢者・障害者及び母子家庭など生活上のハンディキャップをもつ人々に対し個別のサービスを提供する社会福祉を学ぶ。 ・「福祉社会」 高齢者や障害者をはじめとして誰にでもやさしい福祉社会を実現することを学ぶ。本来、社会とは小さな子ども、障害者や高齢者などさまざまな人々で成り立っており、福祉社会とはすべての人々が協力して幸せな生活を送ることを意味する。	
評価方法	まずは出席率75%以上必要。出席時間不足のための補習は行うが別途有料になる。単位認定は定期試験60点以上。レポート課題は特に予定していない。	
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。	
資格対応	美容師国家試験（運営管理）	
関連科目	「運営管理」第2編 第3章 従業員としての視点から（公的年金・医療保険・労働保険）	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター「社会福祉」テキスト	

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表							
教科名	社会保険						
対象科	美容科	学年	1年	必選	選択	単位数	1（30時間）
担当教員 (実務経験の有無)	山口 孝[無]						

[illegible]

教育目標 ねらい (到達目標)	私たちが生まれてから死ぬまでの一生の間には、就職や結婚、出産や育児などを経験すると共に病気やけが、転職や失業、また高齢になって収入がなくなったり、介護が必要になったりとさまざまな生活上の困難に直面します。その事態を緩和・軽減する社会保障に関する基礎的な知識を身につけることを目標とする。	
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	・「社会保障」 生活水準の低下を防ぐ所得保障、傷病の治療と健康の維持・回復を目的とする医療保障、高齢者・障害者及び母子家庭など生活上のハンディキャップをもつ人々に対し個別のサービスを提供する社会福祉を学ぶ。 ・「福祉社会」 高齢者や障害者をはじめとして誰にでもやさしい福祉社会を実現することを学ぶ。本来、社会とは小さな子ども、障害者や高齢者などさまざまな人々で成り立っており、福祉社会とはすべての人々が協力して幸せな生活を送ることを意味する。	
評価方法	まずは出席率75%以上必要。出席時間不足のための補習は行うが別途有料になる。単位認定は定期試験60点以上。レポート課題は特に予定していない。	
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。	
資格対応	美容師国家試験（運営管理）	
関連科目	「運営管理」第2編 第3章 従業員としての視点から（公的年金・医療保険・労働保険）	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター「社会福祉」テキスト	

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	関係法規・制度						
対象科	美容科	学年	1年	必選	必須	単位数	1（30時間）
担当教員 （実務経験の有無）	山口 孝[無]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1～2	法制度の概要	法の役割・法とは何か・法の実際
3～4	衛生法規の概要	衛生法規の意義・分類・概観
5～6	衛生行政の概要	国と地方の行政・衛生行政の意義と歴史・衛生行政の動向
7～8	衛生行政の種類と行政機関	衛生行政のしくみ・保健所の役割と機構
9～10	美容師法	美容師法の目的と歴史・美容師法の構成
11～12	用語の定義	美容・美容師・美容所
13～14	美容師	美容師養成施設・美容師試験・免許と登録
15～16	美容師	管理美容師・業務に従事する美容師の義務
17～18	美容所	美容所の開設
19～20	美容所	美容所開設者が講ずべき衛生措置・美容所以外での業務
21～22	立入検査	立入検査・環境衛生監視員
23～24	行政処分	行政処分・行政処分手続き・審査請求・意義申立て
25～26	罰則	罰則
27～28	関係法規	生衛法・地域保健法・感染症
29～30	関係法規	労働基準法・消費者基本法・廃棄物処理法・美容師法の課題

教育目標 (到達目標)	理容師・理容所に関連する法規を理解させることによって、理容師・理容所開設者が持つべき社会的責任の重さを学生に認識させ、さらに、責任を持って理容の業を実践していくことが社会貢献であるとしてその職業意識を育成していくことを目的とする。重点項目として、理（美）容師法、生活衛生関係営業の運営の適正化及び振興に関する法律、・保健所の役割、・衛生行政、・政策金融の意義と仕組み、・消費者保護の仕組み	
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	第1章「法制度の概要」 道徳慣習などの社会生活に身近な社会規範から、法の内容、憲法など法律の種類および衛生法規。 第2章「衛生行政の概要」 衛生行政の意義・歴史、衛生行政の種類、厚生労働省の機構、保健所の役割。 第3章「理容師法・美容師法」 理容師法の歴史、現在の理容師法の体系、理容師/理容所の法律上の定義、理容師の資格関連法規、理容所業務関連法規、環境衛生監視員の立入検査や違反者等に対する行政処分・罰則。 第4章「関連法規」 生活衛生関係営業の料金等の規制や同業組合、振興計画、その他、独立経営に際して必要となる諸法規、地域保健や感染症関連の法規等。	
評価方法	法律に関心を持って学習しようとしているか、法律一般について意欲的に理解しようとしているか等を評価します。また法律関連の事柄から課題を見出し、それらを多面的・多角的に考察しているかどうか、さらに学習を通じて思考力や判断力が身に付いているかどうか等評価します。テスト法を中心として評価し、各学期1回定期試験を実施、100点満点中60点を合格とします。	
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。	
資格対応	美容師国家試験受験資格	
関連科目	「衛生管理」第1編 第1章 公衆衛生の概要、第2編 第1章 環境衛生、第2章 理容所・美容所の環境衛生、第3編 第1章 感染症の総論、第2章 理容・美容と感染症、第4編 第1章 消毒法総論、第2章 消毒法各論、第3章 消毒法実習	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター「関係法規・制度」テキスト	

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	衛生管理						
対象科	理容科	学年	1年	必選	必須	単位数	1 (30時間)
担当教員 (実務経験の有無)	中山 武[無]						

授業計画 (授業の方法及び内容)		
回	項目	内容
1	公衆衛生の意義と課題	公衆衛生の定義を理解する。
2・3	歴史と消毒法の歴史	古代から中世現在への流れを理解する。
4・5	保健所と理容業	保健所の役割を理解する。
6	母子保健	出生数・乳児死亡率を学ぶ。
7・8	成人・高齢者保健	死亡率・平均寿命・死亡原因を学ぶ。
9～11	生活習慣病	がん、心臓病、糖尿病について学ぶ。
12・13	環境の存在	環境の種類を理解する。
14・15	空気環境と温度	空気成分と有害物質を学ぶ。
16～19	衣服住居の衛生	衣服、住居衛生、採光・換気を理解する。
20～23	上水道・下水道	上水のでき方、下水処理の方法を学ぶ。
24・25	廃棄物	ごみ処理、産業廃棄物の処理方法を理解する。
26～28	衛生害虫とネズミ	ハエ・カ・ゴキブリ・シラミの生態と感染症を学ぶ。
29	人獣共通感染症	ペスト、狂犬病を学ぶ。
30	環境保全	水質汚濁を学ぶ。

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	自分自身の身近な環境と衛生、地域とのつながりにおける衛生を知る
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	公衆衛生の歴史から、環境について
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出席状況
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い、授業を受けてもらいます。 定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	理容師国家試験受験資格
関連科目	理容実習
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 衛生管理

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		○

※表内の○印を評価の対象とする。
※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。
[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	衛生管理						
対象科	美容科	学年	1年	必選	必須	単位数	1 (30時間)
担当教員 (実務経験の有無)	高橋 秀典[無]						

授業計画 (授業の方法及び内容)							
回	項目			内容			
1～2	公衆衛生の意義と課題	公		世界的な動きと日本での公衆衛生サービスを考える	欧米		
	衆衛生発展の歴史			と日本の公衆衛生を理解し比較してみる。			
3	理容師美容師と公衆衛生			理美容師の社会的な在り方を問う。			
	保健所と美容業						
5	保健所と美容業			保健所の事業と理美容業の関係を確認。			
6	保健・母子保健①			出生数、出生率、合計特殊出生率などを教科書記載の調査数値を含めて説明。			
7	保健・母子保健②			乳児死亡率、妊産婦死亡率などを母子保健法と絡めて覚える。			
8	保健・成人・高齢者保健・精神保健			死亡率、死亡要因、平均寿命を教科書記載の調査数値を含めて説明。			
10	保健・成人・高齢者保健・精神保健			高齢者保健、介護保険制度・精神疾患に関する要因と、地域精神福祉の概要を説明。			
11	環境衛生の概要			環境衛生の目的と意義、活動などを説明。			
12～13	空気環境、温熱環境			大気中の空気組成、温熱環境の現在を説明。			
14～15	衣服、住居			衣服の衛生、住居の採光、換気、冷暖房。			
16	上水道			上水道の現在（供給過程、浄水操作、水質基準）の現在説明。			
17	下水道・廃棄物①			下水道と廃棄物の現在を各自の生活様式を考えながら環境との関連を覚える。			
18	廃棄物②			下水道と廃棄物の現在を各自の生活様式を考えながら環境との関連を覚える。			
19	衛生害虫			各衛生害虫のもたらす外と、水質汚濁に対する取組を説明。			
20	ネズミ・環境保全			ネズミの害と駆除方法、水質汚濁の原因と対策を紹介し考える。			
21～22	感染症総論 人と感染症・・歴史			中性から現在までの感染症との戦いの歴史を紹介し、感染症学の大事さを伝える。			
23～24	法律・分類			法による分類・侵入経路による分類・微生物による分類を紹介し、項目によっては暗記させる。			
25～26	病原微生物①			微生物の種類、形、大きさの詳細を伝え理解を深める。			
27～28	病原微生物②			微生物の構造、生活環境などを伝え理解を深める。			

29～30	感染症の予防	微生物の病原性、人体の感受性、感染症発症の要因と予防の3原則を説明し、理解させる。
-------	--------	---

教育目標 ねらい (到達目標)	サロンの現状を教えつつ衛生管理の重要性を理解させる。実際の消毒ができるところまで教育する。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	教科書を中心に、画像・関連資料を紹介し、理解の動機付けを図る。
評価方法	授業態度、定期試験の成績、まとめプリントの完成度を見る
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	学んだことが現実に自分と関係してくることを意識するよう指導するので、将来の自分をイメージしながら受講することを薦める。
資格対応	美容師国家試験受験資格
関連科目	関係法規、美容保健
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 衛生管理

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	衛生管理						
対象科	理容科	学年	2年	必選	必須	単位数	2（60時間）
担当教員 (実務経験の有無)	中山 武[無]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1	人と感染症	感染症の歴史を学ぶ。
2～8	感染症の法律と侵入経路	1類から5類、呼吸器侵入、消化器侵入、細菌、ウィルス学ぶ。
9～12	病原微生物	微生物の種類、おおきさ、構造を理解。
13～15	備瀬物の増殖と環境	細菌をウィルスの増殖について学ぶ。
16～17	病原性と感受性	毒素感染はつびょうについて学ぶ。
18～21	予防接種と感染症発生の要因	定期の予防接種と感染源、感染経路を理解する。
22～24	空気・飛沫を介しての感染症	結核・サーズ・マーズ・インフルエンザ等を理解する。
25～30	飲食物を介しての感染症	赤痢・O-157・A型肝炎を理解する。
31～32	血液を介しての感染症	B型肝炎、C型肝炎、エイズ等の理解する。
33～34	動物・節足動物を介しての感染症	ラッサ熱・ペスト・デング熱等の理解する。
35～37	消毒の原理と意義	殺菌・消毒・滅菌について学ぶ。
38～43	消毒法各論	理学的・科学的消毒の理解。
44～46	消毒法実習	各種消毒薬の濃度と希釈を理解。
47	衛生的取り扱い	施設・設備器具類のしょうどくについての理解
48～49	消毒の自主的管理体制	血液付着器具類の消毒についての理解
50～52	まとめ・国家試験対策	全般について学びなおす。

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	感染症について、的確な知識、技能を会得
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	感染症の具体例と消毒法についての実習
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出席状況
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い、授業を受けてもらいます。 定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	理容師国家試験受験資格
関連科目	理容実習
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 衛生管理

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○	○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	衛生管理						
対象科	美容科	学年	2年	必選	必須	単位数	2（60時間）
担当教員 (実務経験の有無)	高橋 秀典[無]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1～4	2章感染症各論 / 主な感染症①	呼吸器を介しての感染症を具体例を中心に確認させる。
5～8	主な感染症②	消化器、血液、動物を介しての感染症を具体例を中心に確認させる。
9～12	主な感染症③	血液、動物を介しての感染症を具体例を中心に確認させる。
15～17	具体的な対策の例	現実の予防策と、店内感染の対策を説明。
18	4編 衛生管理技術 1章 消毒総論 消毒法とは	病原微生物がと非病原微生物、消毒の原理を解説。
19～20	消毒の意義	汚染・感染・発病と消毒について、又殺菌・消毒滅菌・防腐の定義を覚える。
21～23	理美容の業務と消毒との関係	各消毒に関する法の規定と、怠った場合の危険と責任を説く。
24～25	消毒法と適用上の注意	消毒法の種類、殺菌に必要な条件、病原微生物の抵抗力、消毒薬保存上の注意。
26～27	2章消毒法各論 / 理学的消毒法	紫外線・煮沸・蒸気消毒の詳細、その他の理学的消毒法の紹介。
28～31	化学的消毒法	エタノール・次亜塩素酸・逆性石鹼、両性界面活性剤製剤・グルコン酸クロルヘキシジン・その他化学的消毒法の紹介。
32～33	優れた消毒法の条件	優れた消毒法の条件と、消毒を行う際の注意点。
34～35	3章消毒法実習 / 各種消毒薬	消毒薬の概要、器具の使い方、常備する消毒薬と希釈の仕方。
36～37	理美容所の消毒の実際	サロンにおける消毒お原則、消毒設備、用途に合った消毒の選定、手指の消毒、サロンの消毒の現状。
38～39	理美容所の消毒の実際	清潔保持と清掃、洗剤による洗浄、洗い場の構造、カットした毛の処理と汚物箱の洗浄、衛生害虫の駆除。
40～41	5編 衛生管理実践例 章理美容所における衛生管理要領 ¹	衛生的取り扱い、自主管理体制を紹介・確認。
42～43	美容所の自主管理点検表	自主管理点検表の詳細を確認。
44～45	消毒法実習	実際の消毒薬や消毒設備を使って汚染器具の消毒を行うグループワーク。
46～50	国家試験対策問題	過去問題、練習問題を解説。

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	サロンの現状を教えつつ衛生管理の重要性を理解させる。実際の消毒ができるところまで教育する
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	教科書を中心に、画像・関連資料を紹介し、理解の動機付けを図る
評価方法	授業態度、定期試験の成績、まとめプリントの完成度を見る
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	学んだことが現実に関係してくることを意識するよう指導するので、将来の自分をイメージしながら受講することを薦める
資格対応	美容師国家試験受験資格
関連科目	関係法規、美容保健
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 衛生管理

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	保健						
対象科	理容科	学年	1年	必選	必須	単位数	2（60時間）
担当教員 (実務経験の有無)	中山武[有]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1・2	保健を学ぶにあたって	保険と健康の意味を学ぶ
3～10	第1章 頭部・顔部の解剖学	当尾部・顔部の名称、眼の周辺、鼻・口の周辺の名称
11～13	第2章 骨格系	骨の構造と名称を学ぶ。
14～16	第3章 筋系	筋の種類と名称を学ぶ。
17～20	第4章 神経系	脳と脊髄、自律神経を学ぶ。
21～23	第5章 感覚系	5つの感覚と、その他の感覚を学ぶ。
24～28	第6章 血液・循環系	血液の内容と心臓を理解する
29～31	第7章 呼吸器系	気道とガス交換・肺を学ぶ。
32～36	第8章 消化器系	消化管・肝臓・膵臓を理解する。
37～42	1章 皮膚の構造①	皮膚の断面・表皮の角化細胞を理解する。
43～46	皮膚の構造②	真皮と皮下組織を理解する。
47～50	2章 皮膚の付属機関①	毛の構造と性情を学ぶ。
51	皮膚の付属機関②	立毛筋を学ぶ。
52～55	皮膚の付属機関③	脂腺と汗腺を理解する。
56	皮膚の付属機関④	爪を学ぶ。
57	3章 皮膚の循環器系と神経①	皮膚の血管を学ぶ。
58	皮膚の循環器系と神経②	皮膚のリンパを学ぶ。
59・60	皮膚の循環器系と神経②	皮膚の神経を学ぶ。

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	理・美容師としての人体について体調管理や精神的な面も強化する
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	教科書全般ではなく、さらに掘り下げて現場と時代の動きとともに学習する
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出席状況
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い、授業を受けてもらいます。 定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	理容師国家試験受験資格
関連科目	理容実習 理容技術理論
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 理容・美容保健

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○	○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	保健						
対象科	美容科	学年	1年	必選	必須	単位数	2（60時間）
担当教員 （実務経験の有無）	高橋 秀典[無]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1～6	人体外部の名称	体の部位の名称の取得
7～9	骨格	骨のはたらきと名称
10～12	筋	筋の構造と名称
13～16	神経	脳のはたらきと構造、自律神経
17～19	感覚	五感とその他の感覚を体感する
20～21	血液	成分とそのはたらきを理解する
22～24	循環	心臓と血圧を学ぶ
25～27	呼吸	肺の仕組みと気道を学ぶ
28～31	消化	食物と栄養、消化管の名称を学ぶ
32～36	皮膚の構造と断面	ケラチンやメラニンをつくる細胞を学ぶ
37～38	真皮	コラーゲンや、エラスチンを学ぶ
39～40	皮下組織	体内脂肪について学ぶ
40～42	毛の構造と断面	毛の名称について学ぶ
43～45	毛の型と性状	毛の成分について学ぶ
46～47	立毛筋	構造とはたらきについて理解する
48～52	脂腺と汗腺	どのような分泌腺か理解する
52～55	爪	構造と成分について学ぶ
56～60	皮膚の循環と神経	皮膚の色と知覚を理解する

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	理・美容師としての人体について体調管理や精神的な面も強化する
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	教科書全般ではなく、さらに掘り下げて 現場と時代の動きとともに学習する
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出席状況
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い、授業を受けてもらいます。 定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	美容師国家試験受験資格
関連科目	美容実習 美容技術理論
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 理容・美容保健

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○	○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	保健						
対象科	理容科	学年	2年	必選	必須	単位数	1 (30時間)
担当教員 (実務経験の有無)	中山 武[有]						

授業計画 (授業の方法及び内容)		
回	項目	内容
	第4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能	
1～3	対外保護作用	皮膚が外力、紫外線、科学的刺激対して保護を理解する。
4	体温調節作用	外気温が高いとき、低いときの保護を学ぶ。
5～7	分泌排泄作用	皮脂と発汗について理解する。
8	吸収作用	吸収がどのようにして行うか学ぶ。
9	再生作用	皮膚の損傷が治るのを学ぶ。
	第5章 皮膚と付属器官の保健	
10～12	皮膚と前進状態①②③	貧血、心臓病、肝臓脾臓の障害と皮膚を学ぶ。
13	皮膚と栄養④	栄養素が必要かを学ぶ。
14・15	皮膚の乾皮脂性ホルモンとの関係⑤⑥	乾皮・脂性の皮膚について学ぶ。
	第6章 皮膚と付属機関の疾患	
16	皮膚疾患の原因と治療法	皮膚疾患のアレルギーと感染について学ぶ。
17・18	湿疹、皮膚炎	かぶれの原因を理解する。
19・20	角化異常 分泌異常	ニキビや腋臭症を学ぶ。
21・22	化膿菌・ウィルス・真菌	トビヒ。ヘルペス、ミズムシを学ぶ。
23～25	衛生害虫・毛と爪・腫瘍	ヒゼン、脱毛症について学ぶ。
26～30	まとめ・国家試験対策	全般を学びなおす。

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	皮膚疾患について理解する
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	皮膚についての多面的な部分を学習する
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出席状況
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い、授業を受けてもらいます。 定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	理容師国家試験受験資格
関連科目	理容実習 理容技術理論
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 理容・美容保健

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	保健						
対象科	美容科	学年	2年	必選	必須	単位数	1（30時間）
担当教員 (実務経験の有無)	高橋秀典[有]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1～2	皮膚の生理機能 外力や光線に対する	外力や光線に対してどのように保護しているかを学ぶ
3	体温調節作用	暑いとき寒いときの皮膚がどのようなようになるかを学ぶ
4	知覚作用	皮膚の感覚を学ぶ
5～7	分泌排泄作用	皮脂と汗の分泌、及び酸膜を理解する
8～9	呼吸と吸収作用	皮膚からはどのような物質が吸収されるのかを学ぶ
10～11	免疫・再生作用	傷がなぜ治るのかを学ぶ
12～14	皮膚と全身状態	体内の器官が障害を受けると皮膚の変化を学ぶ
15～16	皮膚の水分と脂の状態	しわ、乾皮、あぶら性について理解する
17	ホルモンの影響	男性ホルモン、女性ホルモンが作用することを理解する
18～19	皮膚の保護と手入れ	ひげそりあとの手入れ、ふけ症について学ぶ
20～21	皮膚の異常と接触性皮膚炎	皮膚疾患による変化を学ぶ
22	温熱・寒冷の障害	熱傷、凍傷を理解する
23～24	色素異常、角化異常	原因が何かを学ぶ
25～27	化膿菌、ウイルス、真菌による異常	感染症による皮膚疾患を理解する
28～29	衛生害虫の影響と、毛、爪の異常	害虫による皮膚の異常を学ぶ
30	皮膚の腫瘍	皮膚の癌について理解する

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	皮膚疾患について理解する
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	皮膚についての多面的な部分を学習する
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出席状況
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い、授業を受けてもらいます。 定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	美容師国家試験受験資格
関連科目	美容実習 美容技術理論
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 理容・美容保健

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	香粧品化学						
対象科	理容科	学年	1年	必選	必須	単位数	1（30時間）
担当教員 (実務経験の有無)	恒川 幸伸[有]						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい	理美容に使用する香粧品にかかわる化学的知識を身につける
授業の概要	テキスト巻末の化学の基礎知識をしっかり定着させ、次に学習していく香粧品の内容についての理解をを深めさせる
評価方法	テスト、出欠状況、授業の受け方・態度
受講心得	定期テストで60点以上を合格とする
資格対応	理容師・美容師 国家試験受験資格
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター発刊 香粧品化学

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。
※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。
[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	名古屋市立中学校において理科を指導。
----------------------	--------------------

授業計画表

教科名	香粧品化学						
対象科	美容科	学年	1年	必選	必須	単位数	1（30時間）
担当教員 (実務経験の有無)	恒川 幸伸〔有〕						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい	理美容に使用する香粧品にかかわる化学的知識を身につける
授業の概要	テキスト巻末の化学の基礎知識をしっかり定着させ、次に学習していく香粧品の内容についての理解をを深めさせる
評価方法	テスト、出欠状況、授業の受け方・態度
受講心得	定期テストで60点以上を合格とする
資格対応	理容師・美容師 国家試験受験資格
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター発刊 香粧品化学

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	名古屋市立中学校において理科を指導。
----------------------	--------------------

授業計画表							
教科名	香粧品化学						
対象科	理容科	学年	2年	必選	必須	単位数	1（30時間）
担当教員 （実務経験の有無）	恒川 幸伸[有]						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい	理美容に使用する香粧品の知識を身につける
授業の概要	香粧品の原料、肌の香粧品、毛髪にかかる香粧品を中心に テキストの内容についての理解を深めさせる
評価方法	定期テスト 出席状況 授業の受け方・態度
受講心得	定期テストで60点以上の合格
資格対応	理容師、美容師、国家試験受験資格
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター発刊 香粧品化学

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関 係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	名古屋市立中学校において理科を指導。
----------------------	--------------------

授業計画表							
教科名	香粧品化学						
対象科	美容科	学年	2年	必選	必須	単位数	1（30時間）
担当教員 （実務経験の有無）	恒川 幸伸[有]						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい	理美容に使用する香粧品の知識を身につける
授業の概要	香粧品の原料、肌の香粧品、毛髪にかかる香粧品を中心に テキストの内容についての理解を深めさせる
評価方法	定期テスト 出席状況 授業の受け方・態度
受講心得	定期テストで60点以上の合格
資格対応	理容師、美容師、国家試験受験資格
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター発刊 香粧品化学

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関 係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	名古屋市立中学校において理科を指導。
----------------------	--------------------

授業計画表							
教科名	文化論						
対象科	理容科	学年	1年	必選	必須	単位数	1（30時間）
担当教員 （実務経験の有無）	堀江忠史〔無〕						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	日本の髪型・服飾文化を時代の流れと共に理解する。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	講義形式において授業を進める。
評価方法	①定期試験 ②授業の出欠状況 ③受講の熱心さ
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上をもって合格とする。
資格対応	国家試験筆記試験
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 文化論

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表							
教科名	文化論						
対象科	美容科	学年	1年	必選	必須	単位数	1（30時間）
担当教員 （実務経験の有無）	水野 亮[無]						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	日本の髪型・服飾文化を時代の流れと共に理解する。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	講義形式において授業を進める。
評価方法	①定期試験 ②授業の出欠状況 ③受講の熱心さ
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上をもって合格とする。
資格対応	国家試験筆記試験
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 文化論

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。
※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。
[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	文化論						
対象科	理容科	学年	2年	必選	必須	単位数	1 (30時間)
担当教員 (実務経験の有無)	堀江忠史[無]						

授業計画 (授業の方法及び内容)		
回	項目	内容
1～2	日本ファッション文化史 現代Ⅱ	戦後経済復興により、シーズンごとの流行色などをアピールの消費を促した。若者ファッションの流行。
3～5	現代Ⅲ	女性の社会進出、性のボーダレス化。茶髪の流行とガングロ、マスカラ、ツケマツゲ多様化するファッションを学ぶ
6～7	古代エジプト、古代ギリシャ 古代ローマ、古代ゲルマン	地中海地方を中心に古代文明が発生、各文化圏の髪型、ファッション化粧を知る。
8～9	中世ヨーロッパ	キリスト教の身体への否定的思考が強く、体を覆い隠す文化であった。
10～11	近世Ⅰ 16世紀	ルネサンスの時代制圧から個人の人間に目が向けられた。ファッションは貴族たちに独占された。
12～13	近世Ⅱ 17世紀	王とカトリック教会の権力を誇示する時代。長いかつらが流行。ベルサイユ宮殿
14	近世Ⅲ 18世紀	王朝を中心に華麗な貴族たちのファッション、大臣の髪型、スカートファッション。
15～16	近代Ⅰ 18世紀末～19世紀初	フランス革命により市民の権利意識が高まり貴族的なファッションはすたれた。
17～18	近代Ⅱ 19世紀	産業革命によりブルジョア社会が拡大した。女性は巨大なスカートがはやった。
19～20	現代Ⅰ 1910～1920	パーマネントウェーブが登場。男性は背広が定着していく。スポーツが流行していく。
20～21	現代Ⅱ 1930～1940	第2次世界大戦に向かい、自由な気風は影を潜めた。
22～23	現代Ⅲ 1940～1950	映画スターの髪型の影響が大きく、ショートカットが流行する。コールドパーマネントウェーブが普及
24～26	現代Ⅳ 1960年代	若者文化に寄り添うヘアスタイル、ビートルズ、モヒカン等があげられる。
27～28	現代Ⅴ 1970年代	多種多様な若者文化とヘアスタイル。日本人デザイナーの活躍。
29	現代Ⅵ 1980年代	女性の職場進出を反映して実用的なスーツが流行。
30	現代Ⅶ 1990～2010	ベルリンの壁が崩壊し国や政治経済の枠組みが崩れた時代。多様なファッションが反映した。

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	日本の髪型・服飾文化を時代の流れと共に理解する。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	講義形式において授業を進める。
評価方法	①定期試験 ②授業の出欠状況 ③受講の熱心さ
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上をもって合格とする。
資格対応	国家試験筆記試験
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 文化論

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	文化論						
対象科	美容科	学年	2年	必選	必須	単位数	1（30時間）
担当教員 (実務経験の有無)	水野亮[無]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1～2	日本ファッション文化史 現代Ⅱ	戦後経済復興により、シーズンごとの流行色などをアピールの消費を促した。若者ファッションの流行。
3～5	現代Ⅲ	女性の社会進出、性のボーダレス化。茶髪の流行とガングロ、マスカラ、ツケマツゲ多様化するファッションを学ぶ
6～7	古代エジプト、古代ギリシャ 古代ローマ、古代ゲルマン	地中海地方を中心に古代文明が発生、各文化圏の髪型、ファッション化粧を知る。
8～9	中世ヨーロッパ	キリスト教の身体への否定的思考が強く、体を覆い隠す文化であった。
10～11	近世Ⅰ 16世紀	ルネサンスの時代制圧から個人の人間に目が向けられた。ファッションは貴族たちに独占された。
12～13	近世Ⅱ 17世紀	王とカトリック教会の権力を誇示する時代。長いかつらが流行。ベルサイユ宮殿
14	近世Ⅲ 18世紀	王朝を中心に華麗な貴族たちのファッション、大臣の髪型、スカートファッション。
15～16	近代Ⅰ 18世紀末～19世紀初	フランス革命により市民の権利意識が高まり貴族的なファッションはすたれた。
17～18	近代Ⅱ 19世紀	産業革命によりブルジョア社会が拡大した。女性は巨大なスカートがはやった。
19～20	現代Ⅰ 1910～1920	パーマネントウェーブが登場。男性は背広が定着していく。スポーツが流行していく。
20～21	現代Ⅱ 1930～1940	第2次世界大戦に向かい、自由な気風は影を潜めた。
22～23	現代Ⅲ 1940～1950	映画スターの髪型の影響が大きく、ショートカットが流行する。コールドパーマネントウェーブが普及
24～26	現代Ⅳ 1960年代	若者文化に寄り添うヘアスタイル、ビートルズ、モヒカン等があげられる。
27～28	現代Ⅴ 1970年代	多種多様な若者文化とヘアスタイル。日本人デザイナーの活躍。
29	現代Ⅵ 1980年代	女性の職場進出を反映して実用的なスーツが流行。
30	現代Ⅶ 1990～2010	ベルリンの壁が崩壊し国や政治経済の枠組みが崩れた時代。多様なファッションが反映した。

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	日本の髪型・服飾文化を時代の流れと共に理解する。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	講義形式において授業を進める。
評価方法	①定期試験 ②授業の出欠状況 ③受講の熱心さ
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上をもって合格とする。
資格対応	国家試験筆記試験
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 文化論

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	運営管理						
対象科	理容科	学年	1年	必選	必須	単位数	1 (30時間)
担当教員 (実務経験の有無)	山口 孝[無]						

授業計画 (授業の方法及び内容)		
回	項目	内容
1～2	理・美容業の経営環境 (少子高齢化と理・美容業)	・ 総人口の推移、・ 若年、生産、老年3区分による将来人口推計
3～4	理・美容業の経営環境 (少子高齢化と理・美容業)	・ 人口の減少と構造変化が理・美容業に及ぼす影響と対応策
5～6	理・美容業の経営環境 (理・美容業の動向)	・ 理、美容所及び従業者の動向と課題
7～8	資金の管理 (経理)	・ 収支と損益、・ 貸借対照表とその意義、・ 損益計算書とその意義
9～10	資金の管理 (税金)	・ 個人経営、法人経営別税金の種類と納付時期、・ 税に関する罰則、・ 青色申告制度
11～12	年金保険 (公的年金)	・ 国民皆年金制度、・ 制度別被保険者と財源負担、・ 制度別給付の概要
13～14	医療・介護保険 (医療保険)	・ 国民皆保険制度、・ 制度別保険者と被保険者、・ 医療費一部負担金の割合、・ 現金給付の概要
15～16	医療・介護保険 (介護保険)	・ 介護保険法の目的、・ 被保険者と財源負担、・ 給付制度の概要
17～18	労働関係法規 (労働基準法)	・ 労働条件の原則、・ 労働時間 休憩 休日 年次有給休暇等
19	労働関係法規 (労働安全衛生法)	・ 労働安全衛生法の目的、・ 健康管理の仕組み、・ 健康診断
20～21	労働関係法規 (雇用・労災)	・ 雇用保険法の目的、・ 給付制度の概要、・ 労働者災害補償保険法の目的、・ 給付制度の概要
22	人という資源	人という資源とは・ 人の能力を高める・ 人をやる気にさせるために
23	健康・安全な職場環境の実現	健康管理の基礎・ 理容の仕事と健康・ 理容業に特徴的な健康課題
24	従業員としての視点から・サービスデザイン	仕事をするうえで考えるべきこと・ 顧客が求める価値・ 価値の実態
25	サービス・デザイン	顧客満足の実現のためのシステム・ 最も重要な価値「人」・ 価値の多様性 顧客が求めるもの
26	サービス・デザイン、マーケティング	サービスの範囲・ 理容業のマーケティング・ マーケティングミックス
27	マーケティング	マーケティング・ ミックスの要因 (短期・長期)
28	マーケティング・サービスにおける人の役割	マーケティング・ ミックスの要因 (長期)・ サービスのシステム化・ 接客についての理解
29	サービスにおける人の役割	よい接客のために・ 接客の実践①②③④⑤

30	サービスにおける人の役割	接客におけるトラブルと対応・接客で発生が予想される問題・問題を深刻化させないための対策・対処
----	--------------	--

教育目標 ねらい (到達目標)	①経営者の考え方や経営者が果たす責任・役割を学ぶ ②人を雇うことの責任や働くうえで求められることを学ぶ ③顧客を満足させるサービスとは何か。それをどう実現するかについて学ぶ
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	第1編「経営者の視点」 経営が必要とされる理由から経営資源・経営計画・経営戦略が目指すものの概念をとらえ、それを理容業に当てはめる。資金管理に焦点をあて、資金管理の重要性、収支と損益、会計、コスト、税金についての理解。 第2編「人という資源 従業員としての視点」 経営資源のうち、「人」に注目し、人という資源の特徴、給与・福利厚生・労働者の権利から健康安全な職場環境実現への課題、従業員としての視点から社会保険（年金・医療・労働）を考える。 第3編「顧客のために」 顧客が求める価値や満足の実現、その価値の実態や多様性を考えた上でマーケティングに対する要因の見方考え方を考察する。最後にサービスにおける人の役割として「接客」について考える。
評価方法	まずは出席率75%以上必要。出席時間不足のための補習は行うが別途有料になる。単位認定は定期試験60点以上。レポート課題は特に予定していない。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。
資格対応	理容師国家試験
関連科目	理容総合理論「サービスマナー」
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター「運営管理」テキスト

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- 〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- 〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- 〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- 〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	運営管理						
対象科	美容科	学年	1年	必選	必須	単位数	1 (30時間)
担当教員 (実務経験の有無)	山口 孝[無]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1～2	理・美容業の経営環境（少子高齢化と理・美容業）	・総人口の推移、・若年、生産、老年3区分による将来人口推計
3～4	理・美容業の経営環境（少子高齢化と理・美容業）	・人口の減少と構造変化が理・美容業に及ぼす影響と対応策
5～6	理・美容業の経営環境（理・美容業の動向）	・理、美容所及び従業者の動向と課題
7～8	資金の管理（経理）	・収支と損益、・貸借対照表とその意義、・損益計算書とその意義
9～10	資金の管理（税金）	・個人経営、法人経営別税金の種類と納付時期、・税に関する罰則、・青色申告制度
11～12	年金保険（公的年金）	・国民皆年金制度、・制度別被保険者と財源負担、・制度別給付の概要
13～14	医療・介護保険（医療保険）	・国民皆保険制度、・制度別保険者と被保険者、・医療費一部負担金の割合、・現金給付の概要
15～16	医療・介護保険（介護保険）	・介護保険法の目的、・被保険者と財源負担、・給付制度の概要
17～18	労働関係法規（労働基準法）	・労働条件の原則、・労働時間 休憩 休日 年次有給休暇等
19	労働関係法規（労働安全衛生法）	・労働安全衛生法の目的、・健康管理の仕組み、・健康診断
20～21	労働関係法規（雇用・労災）	・雇用保険法の目的、・給付制度の概要、・労働者災害補償保険法の目的、・給付制度の概要
22	人という資源	人という資源とは・人の能力を高める・人をやる気にさせるために
23	健康・安全な職場環境の実現	健康管理の基礎・理容の仕事と健康・理容業に特徴的な健康課題
24	従業員としての視点から・サービスデザイン	仕事をするうえで考えるべきこと・顧客が求める価値・価値の実態
25	サービス・デザイン	顧客満足の実現のためのシステム・最も重要な価値「人」・価値の多様性 顧客が求めるもの
26	サービス・デザイン、マーケティング	サービスの範囲・理容業のマーケティング・マーケティングミックス
27	マーケティング	マーケティング・ミックスの要因（短期・長期）
28	マーケティング・サービスにおける人の役割	マーケティング・ミックスの要因（長期）・サービスのシステム化・接客についての理解
29	サービスにおける人の役割	よい接客のために・接客の実践①②③④⑤

30	サービスにおける人の役割	接客におけるトラブルと対応・接客で発生が予想される問題・問題を深刻化させないための対策・対処
----	--------------	--

教育目標 ねらい (到達目標)	①経営者の考え方や経営者が果たす責任・役割を学ぶ ②人を雇うことの責任や働くうえで求められることを学ぶ ③顧客を満足させるサービスとは何か。それをどう実現するかについて学ぶ
授業の概要 (授業期間全体を通じての授業の進め方)	第1編「経営者の視点」 経営が必要とされる理由から経営資源・経営計画・経営戦略が目指すものの概念をとらえ、それを理容業に当てはめる。資金管理に焦点をあて、資金管理の重要性、収支と損益、会計、コスト、税金についての理解。 第2編「人という資源 従業員としての視点」 経営資源のうち、「人」に注目し、人という資源の特徴、給与・福利厚生・労働者の権利から健康安全な職場環境実現への課題、従業員としての視点から社会保険（年金・医療・労働）を考える。 第3編「顧客のために」 顧客が求める価値や満足の実現、その価値の実態や多様性を考えた上でマーケティングに対する要因の見方考え方を考察する。最後にサービスにおける人の役割として「接客」について考える。
評価方法	まずは出席率75%以上必要。出席時間不足のための補習は行うが別途有料になる。単位認定は定期試験60点以上。レポート課題は特に予定していない。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。
資格対応	美容師国家試験
関連科目	美容総合理論「サービスマナー」
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター「運営管理」テキスト

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	理容技術理論						
対象科	理容科	学年	1年	必選	必須	単位数	2（60時間）
担当教員 (実務経験の有無)	磯部臣史[有]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1	序章 理容技術を学ぶにあたって	効率よく技術を習得するために技術理論を学ぶことを理解する
2～4	第1章理容技術の基礎①	人体各部の名称について、人の頭部顔部を施術する理容技術のため名称を正しく学ぶ
5～7	理容技術の基礎②③	理容技術における技術姿勢について、安全で正確な技術を行うために正しく理解する
8～11	第2章理容用具①②③	理容用具について、基礎的な知識を学び衛生的な取り扱いや物を切る原理を学ぶ
12～16	理容用具④⑤⑥	シザーズ、レザー、クリッパーという理容の主になる用具について名称から機能まで学ぶ
17～20	理容用具⑦⑧⑨⑩⑪	コームやブラシなどそれぞれの名称から機能までを学ぶ
21～24	第8章シェービング①②③	理容の主要な技術であるシェービングについて、特に皮膚とひげのことを十分理解する
25～28	シェービング④⑤	シェービングの基本技術と要領についてレザーの扱い方操作の原理など十分に理解する
29～32	シェービング⑥⑦⑧	国家試験技術にもあるメンズシェービングについて技術的な観点から理論的に学ぶ
33～34	シェービング⑨	レディースシェービングについて女性の繊細な肌に効果的に技術を行うための知識を理解する
35～38	第9章理容エステティック①②	エステティック本来の目的が人間の内面的部分まで及ぶ総合的なものであることを学ぶ
39～42	理容エステティック③	国家試験技術にもあるフェイシャルケアについて技術的観点から理論を学ぶ
43～44	理容エステティック④⑤⑥	ネイルなどのハンドケアやフットケアなどエステティック分野にある心地よさが伝わる技術を学ぶ
45～46	第12章理容マッサージ①②③④	理容で行うマッサージについて理解し手技を学ぶ
47～50	第3章ヘアデザイン①②③	技術と同時に必要なヘアデザインについて造形の原理や条件を学ぶ
51～54	第4章カッティング①②③	ヘアスタイルを実際に作る手段として髪を切る技術であるカッティングについて理解する
55～57	カッティング④⑤⑥⑦⑧	カッティングの基本的な条件や原理について学びスタンダードヘアのスタイルを学ぶ
58～60	カッティング⑨⑩⑪⑫	デザインヘアを作るための基本原則や考え方を学ぶ

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	理容の業務に必要な基本的技術を身につけるとともに、これらの技術を組み合わせた総合的な理容技術を身につける。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	教室において講義形式にて授業を進める。教科書全般だけではなく教科書から重点的な部分をさらに掘り下げ、現場での体験を織り交ぜてより理解度を深めてもらう。
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出欠状況 3. 授業受講の熱心さ
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。小テストをおこないます。定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	理容師国家試験受験資格
関連科目	理容実習、理容総合技術
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター 理容技術理論 1・理容技術理論 2

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- 〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- 〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- 〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- 〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	理容師免許を有し理容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表

教科名	理容技術理論						
対象科	理容科	学年	2 年	必選	必須	単位数	3 (90時間)
担当教員 (実務経験の有無)	磯部臣史[有]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1～2	第5章ヘアセッティング①②	カッティングと並んでヘアスタイルを作るには重要な技術であるヘアセッティング。多様な技術を習得する。
3～6	ヘアセッティング③	スタンダードヘアの基本セットやデザインヘアの多様なセットに対する技術とそれに伴う整髪料について理解する。
7	ヘアセッティング④	レディースヘアのスタイリングについて、ブラシ、ドライヤー、アイロンなどを用いた毛髪の損傷に注意した技術を学ぶ。
8～12	第6章パーマメントセット①	パーマメントウェーブを美しく仕上げるために、用剤の種類や特徴、かかる仕組みを理解する。
13～15	パーマメントセット②	ワインディングについて、パーマをかけるためにどのように配列し、どのように巻き込むかを理解する。
16～20	パーマメントセット③④⑤	パーマを実際にかける上での工程や手順についてを学ぶ。また、アイロンパーマやデジタルパーマについても理解する。
21～22	第7章ヘアカラーリング①②③	ヘアカラーリングの歴史や効用について理解し、各染毛剤の種類とその原理について学ぶ。
23	ヘアカラーリング④	染毛剤の安全性と使用上の注意点について、間違った使用による事故を防ぐためにも十分に理解する。
24～25	ヘアカラーリング⑤⑥⑦	ヘアカラーリング技術のプロセスや手順を学び、発色の仕組みを理解する。
26～28	第11章シャンプーイング&リンシング①	頭皮・毛髪を清潔に保つことが毛髪美の根本であることを理解し、シャンプー剤や技法について科学的理解を求める。
29～33	シャンプーイング&リンシング②	シャンプーイングの方法の種類についての理解と、それぞれのメリット・デメリットを確認する。
34～38	シャンプーイング&リンシング③④	シャンプーイングの各技法について、効果的に汚れを落としマッサージ効果を高める方法を理論からしっかり学ぶ。
39～44	第13章ヘアトリートメント①②③	ヘアトリートメントの目的や種類について理解し、一例を通して技法を学ぶ。
45～50	第14章スカルプトリートメント①②③	頭皮に対するトラブルに対しての処置を理解し、一例を元に方法を理解する。
51～90	まとめ・国家試験対策	理容技術理論について全般に理解度を高め、理容師国家試験に合格するための対策として全般に学びなおす。

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	理容の業務に必要な基本的技術を身につけるとともに、これらの技術を組み合わせた総合的な理容技術を身につける。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	教室において講義形式にて授業を進める。教科書全般だけではなく教科書から重点的な部分をさらに掘り下げ、現場での体験を織り交ぜてより理解度を深めてもらう。
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出欠状況 3. 授業受講の熱心さ
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。小テストをおこないます。定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	理容師国家試験受験資格
関連科目	理容実習、理容総合技術
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター 理容技術理論 1・理容技術理論 2

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。
※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。
[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	理容師免許を有し理容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表

教科名	美容技術理論						
対象科	美容科	学年	1年	必選	必須	単位数	2 (60時間)
担当教員 (実務経験の有無)	水野 亮[有]						

授業計画 (授業の方法及び内容)							
回	項目			内容			
1～2	序章 美容技術を学ぶにあたって			理論と技術、作業姿勢、人体各部の名称を説明し暗記させる			
3～8	1章 美容用具			美容道具・器具・機械・コーム・ブラシ・シザーズ・レザー・ピン・ロッド・ローラー・ヘアアイロン・ヘアドライヤー・ヘアスチーマー・遠赤外線機を個別に説明し現場での現在も伝える			
9～14	2章 シャンプーイング①			シャンプーイング総論、サイドシャンプー、バックシャンプーの理論と技術手順を紹介			
15～16	シャンプーイング②			リンス・コンディショナー・トリートメントの内容成分と効能を説明			
17～20	シャンプーイング③			スカルプトリートメント、ヘッドスパの知識と手順を説明			
21～24	5章 パーマネントウェービング①			歴史と現在、ウェーブ理論、パーマ材の分類、パーマに関する注意事項は要必須項目なのでしっかり伝える。			
25～26	パーマネントウェービング②			パーマ技術・バリエーション・縮毛矯正を紹介			
27～28	8章 エステティック①			エステティック概論、皮膚の構造、カウンセリングの大事さを伝える。			
29～30	エステティック②			マッサージ理論、フェイシャルケア、フェイシャルケア・デコルテマッサージは要所なのでしっかり伝える。			
31～32	エステティック③			フェイシャルパックは国家試験でも重要性があるのでしっかり伝える。ボディーケア、ボディーマッサージを紹介。			
33～34	10章 メイクアップ①			メイクアップ理論、顔の形態学的な観察、メイクの色彩は造形・色彩学に通じているので基本的な部分を伝える。			
26～27	メイクアップ②			メイクアップ道具、スキンケア、ベースメイクアップはかなり細かいところまで伝え覚えさせる。			
35～36	メイクアップ③			アイメイクアップ、アイブロウメイクアップ、リップメイクはかなり細かいところまで伝え覚えさせる。			
37～38	メイクアップ④			ブラッシュオンメイクアップ、まつ毛エクステンションは現在の現状交えて説明。			
39～42	6章 ヘアセッティング①			ヘアパーティング、ヘアシェーピング含めヘアセッティングとは何かを説明。			
42～45	ヘアセッティング②			ヘアカーリング、ヘアウエービング、ローラーカーリング、ブロードライの詳細を伝える。			
46～49	ヘアセッティング③			アイロンセッティング、バックコーミング、アップスタイル、ウィッグ・ヘアピースの詳細を伝える。			
50～43	7章 ヘアカラーリング①			ヘアカラーリング概論、ヘアカラーの種類、タイプ別特徴、染毛のメカニズムはすべて重要な箇所なのでしっかり説明。			
54～57	ヘアカラーリング②			色の基本、アンダートーン、パッチテスト、染毛時の注意事項、ヘアカラーリングの道具はすべて重要な箇所なのでしっかり説明。			

58～60	ヘアカラーリング③	酸化染毛剤の技術手順、ヘアブリーチなどはサロンの現状を含め説明。
-------	-----------	----------------------------------

教育目標 ねらい (到達目標)	美容技術を理論的に理解することの重要性をしっかりと学ばせる。実体験では覚えきれない技術や理論を覚えることにより効率的な実習授業へと導く。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	ふつう教室にて面接形式の授業を行う。必要最低限の知識は、時に練習プリントと小テストを交え覚えてもらう。
評価方法	実技授業での理解度を観察し、定期試験結果で判断する。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	教科書を中心に行う。定期試験では60点以上を合格ラインとしている。
資格対応	美容師国家試験受験資格
関連科目	美容実習、美容総合技術
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター 美容技術理論 1・美容技術理論 2

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表

教科名	美容技術理論						
対象科	美容科	学年	2年	必選	必須	単位数	3 (90時間)
担当教員 (実務経験の有無)	岡村清美[有]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1～2	3章 ヘアデザイン	ヘアデザインの基本的を考える。
3～4	4章 ヘアカット①	ヘアカットとは、シザー、レザーの使い方などを美容技術の重要事項として伝える。
5～6	ヘアカット②	美容刃物、カットの正しい姿勢を理論的に説明。
7～8	ヘアカット③	ブロー、ヘアカットの基礎理論は重要事項として伝える。
9～12	ヘアカット④	ベーシックなカット技法はバリエーションとして、シザー、レザーによるカット技法はサロンの現状含めて伝える。
13～15	9章 ネイル技術①	ネイル技術概論、ネイル技術の種類はサロンの現状含め伝える。爪の構造と機能は暗記させる。
16～18	ネイル技術②	爪のカット形状は暗記させる。ネイル技術と公衆衛生はサロンの現状含め伝える。
19～21	ネイル技術③	カウンセリングはサロンの現状含め伝える。ネイルケアの基本的知識を伝える。
22～24	ネイル技術④	アーティフィシャルネイルの基本的知識を伝える。手と足のマッサージは実演を絡めて覚えてもらう。
25～26	11章 日本髪①	日本髪の由来、各部の名称、種類と特徴などを紹介。
27～28	日本髪②	日本髪と調和、装飾品、結髪道具などを実物を触りながら紹介。
29～30	日本髪③	結髪技術、日本髪の手入れを紹。かつらは実物を触りながら紹介する。
31～32	12章着付けの理論と技術①	着付の目的、礼装、着物と季節、着物の色々を説明。
33～34	着付けの理論と技術②	帯、小物、着物各部の名称は詳細までしっかり伝える。着物のたたみ方を紹介。
35～36	着付けの理論と技術③	着付の一般的要領、留袖、振袖の着付技術を手順的に説明。
37～38	着付けの理論と技術④	帯締め、帯揚げの結び方、男子礼装、羽織・袴の技術を手順的に説明。
38～39	着付けの理論と技術⑤	羽織の紐の結び方、女子袴着付け技術を手順的に説明。
40～44	着付けの理論と技術⑥	婚礼着付けの際の注意事項、和装花嫁、洋装花嫁は詳細までサロンの現状含め伝える。
45～90	技術理論 筆記試験対策授業	技術理論1・2のまとめと練習問題による総理解。

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	美容技術を理論的に理解することの重要性をしっかりと学ばせる。実体験では覚えきれない技術や理論を覚えることにより効率的な実習授業へと導く。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	ふつう教室にて面接形式の授業を行う。必要最低限の知識は、時に練習プリントと小テストを交え覚えてもらう。
評価方法	実技授業での理解度を観察し、定期試験結果で判断する。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	教科書を中心に行う。定期試験では60点以上を合格ラインとしている。
資格対応	美容師国家試験受験資格
関連科目	美容実習、美容総合技術
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター 美容技術理論 1・美容技術理論 2

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度		○	○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○	○	

※表内の○印を評価の対象とする。
※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。
[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表

教科名	理容実習						
対象科	理容科	学年	1年	必選	必須	単位数	13（420時間）
担当教員 (実務経験の有無)	池山英一〔有〕 稲嶋拓也〔有〕 磯部 臣史〔有〕 ヘアサロンにて9年スタイリストして勤務						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1～7	1章 スタンダードヘア① 基本姿勢、用具の持ち方と操作	初めてのウィッグの取り扱い、用具の取り扱いや技術を行う際の姿勢について学ぶ。
8～27	ワインディング用ウィッグのカット	ワインディング技術を行うための、準備。ワインディング用のウィッグを全部長さをそろえてカットしていく。
28～38	ワインディング①	1 2ブロッキング、ロッドの巻き方を学ぶ。
39～49	ワインディング②	センターのブロッキング、ロッド配置を理解し、ある程度コンスタントに負けるようにする。
50～70	ワインディング③	センターに合わせて、サイドのロッド配置、巻き方を学ぶ。
71～128	ワインディング④	全頭を巻けるようにし、大会に向けてタイム測定（40分）を行いながら、技術の向上をさせる。各自、時間配分を身につけさせる。
129～149	1章 スタンダードヘア②	理容の基本ヘア（ミディアムヘア、ブロー）について、カットの仕方、技術姿勢を学ぶ。
150～157	2章 デザインヘア①	デザインヘアカットの用具の持ち方、カットの仕方の基本的なことを学ぶ。
158～178	2章 デザインヘア②	ワンレングス、グラデーション、レイヤー、スクエアなど、実際のカットの基礎技術を学ぶ。また、ブラントカット、ストロークカット、チョップカット、レザーカット等の技法について理解させる。
179～189	7章 シェービング① フェイシャルトリートメント	シェービング後の、顔面処置（てん包法、清拭法、クリームマッサージ、クリームふき取り）を、国家試験の手順に沿って学ぶ。
190～210	7章 シェービング② メンズフェイスシェービング	フェイスシェービングの基本技術について学ぶ。 運行順序をきちんと学び、国家試験の手順を身につけさせる。
210～213	7章 シェービング③ メンズネックシェービング	ネックシェービングについて、国家試験の手順に沿って基本技術を学ぶ。
214～254	7章 シェービング④ メンズシェービングまとめ	国家試験の手順に沿った、顔面処置が身についたか、確認・復習をする。
255～277	7章 シェービング⑤ レディースシェービング スキンケア	レディースシェービング、スキンケアについての基本技術について、メンズシェービングとの違いに注意しながら学ぶ。
278～285	8章 ネイルケア 9章 フットケア	ハンド、フットの簡単なケアについて学ぶ。
286～293	8章 ハンド&アームマッサージ	相モデルを通して、ハンドマッサージの基本的な技術を学ぶ。
323～324	クラシカルカットとセット①	2年次の大会に向けて、クラシカルセットの為のカットを行う。 合わせて、クラシカルボンバージュセットについて基本的なドライヤーセットの技術を学ぶ。
324～420	ワインディング⑤	2年次の大会に向けて、技術の向上をさせる。 タイム測定30分で、Cカールワインディングとする。

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	理容の業務に必要な基本的技術を身に着けると共に、 これらの技術を組み合わせた総合的な理容技術を対人できるようにする。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	主に、基本的な姿勢、技術
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出欠状況 3. 授業態度
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い、授業を受けてもらいます。 必要に応じて、小テストを行います。 定期試験は、60点以上を合格とします。
資格対応	理容師国家試験受験資格
関連科目	理容技術理論、理容総合技術
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発刊 理容実習1・2 理容技術理論1・2 公益社団法人理容師美容師試験研修センター発刊 技術の解説 アリアーレビューティー専門学校 理容師実技試験マニュアル

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力		○	

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	理容師免許を有し理容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表

教科名	理容実習						
対象科	理容科	学年	2年	必選	必須	単位数	15（480時間）
担当教員 (実務経験の有無)	池山英一〔有〕 稲嶋拓也〔有〕 磯部 臣史〔有〕 ヘアサロンにて9年スタイリストして勤務						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1～40	ワインディング	Cカールワインディング（30分タイム計測）で次に控える大会の入賞を目指して技術の向上をさせる。
41～60	10章 ヘアクリニック	技術理論で学んだヘアとスカルプチェックを実際に相モデルで行い、体験と経験を積ませる事により、今後の仕事に役立てられるようにする。
61～80	3章 ヘアセッティング	セットコームやブラシ、ドライヤーを用い、国家試験課題はもちろん、その他色々な場面でのドライヤーセットを学ぶ。
94～160	クラシカルカットとセット①	競技会に向けてウィッグを用い、クラシカルセットに使えるようにカットをしていき、カットを終えたらセットを順次学んでいく。
161～184	4章 パーマネントウェーブ	これまでやってきたCカール以外の巻き方や特殊な巻き方、実際パーマ液を使ってウィッグにパーマをかけて体感して経験をつむ。
185～205	クラシカルセット③	次期大会に向けてタイム計測をしながら、競技会の入賞を目指して技術の向上をさせる。
206～225	11章 シャンプーイングとリンシング	スタンドシャンプーやバックシャンプー、ヘッドマッサージを相モデルで行い、対人の感覚をつかんで今後に活かせるようにする
226～245	10章 ヘアトリートメント	技術理論で学んだヘアトリートメントを実際に相モデルで行い体験と経験を積み、実際に傷んだ髪の実生徒にはトリートメント効果を体幹させることにより、今後活かせるようにする。
246～270	スカルプトリートメント	ヘアクリニックで学んだ事をさらに昇華させて、より細かな施術の対応が行えるように学ぶ。
271～315	国家試験対策 顔面処置	1年次で行ったことをもう一度国家試験前に思い出し、国家試験で合格するようにタイムも計りつつ国家試験用ウィッグを使っながら技術向上を目指す。
316～365	国家試験対策 ミディアムカット①	国家試験で行うカットを手順からおって学びつつ運行手順、運行位置を覚える。
366～415	国家試験対策 ミディアムカット②	国家試験で行うカットを時間内にできようと、より良い完成度を目指し国家試験にむけて行う。
416～455	国家試験模擬	国家試験と同じように、タイム計測を行い国家試験実技科目を全てを行っていくことによって国家試験合格を目指す。
456～480	まとめ	これまでやってきたすべてをまとめて、カット、シェービング、シャンプー、カラー、パーマ、トリートメント、マッサージが行えるかを審査する。

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	理容の業務に必要な基本的技術を身につけるとともに、これらの技術を組み合わせた総合的な理容技術を対人でできるようにする。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	主に実習室において実習形式にて授業を進める。教科書全般だけではなく教科書から重点的な部分をさらに掘り下げ、現場での体験を織り交ぜてより理解度を深めてもらう
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出欠状況 3. 授業受講の熱心さ
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。小テストをおこないます。定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	理容師国家試験受験資格
関連科目	理容技術理論、理容総合技術
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発刊 理容実習1・2 理容技術理論1・2 公益社団法人理容師美容師試験研修センター発刊 技術の解説 アリアーレビューティー専門学校 理容師実技試験マニュアル

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力		○	

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	理容師免許を有し理容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表

教科名	美容実習						
対象科	美容科	学年	1年	必選	必須	単位数	14（420時間）
担当教員 (実務経験の有無)	水野 亮[有]						

授業計画（授業の方法及び内容）							
回	項目			内容			
1～21	ワインディング 1			ワインディング技術を円滑にする為のブロッキング練習をして、ある程度理解が出来たらワインディング用のカットをする。			
22～36	ワインディング 2			カットを終えたウィッグでワインディング用の12ブロッキングのタイムを計り、目標は3分以内を目指して行っていく。ワインディング技術である巻き方の上巻きと下巻きの指導を行う。			
37～65	ワインディング 3			ブロッキングと巻き方を理解したらセンター巻きのタイム計測を行い、目標は10分以内を目指す。出来るようになったらサイド巻きのタイム計測も行い目標タイムは右が15分左が12分で計測する。			
66～122	ワインディング 4			全頭の巻き方を理解したところで全体のタイムを計る。目標タイムは40分以内を目指して行う。			
123～135	浴衣着付け 1			帯の締め方を理解し自分自身で浴衣を着れるようにする。			
136～142	浴衣着付け 2			2人一組でペアになりお互いに浴衣を着付ける。お互いで指摘し合い綺麗に着付けが出来るようにする。			
143～157	ヘアウエービング 1			ウエーブ技術を円滑に行うためにウィッグにパーマをかけ、出来上がったウィッグに専用のローションを使用しフィンガーウエーブの準備をしていく。最初はハーフウエーブから作って出来たハーフウエーブにリッジを作っていく。			
158～200	ヘアウエービング 2			フィンガーウエーブのみで7段構成を作っていく練習をする。1段目は馬蹄形にウエーブを作っていく。2段目は1段目とのつながりに気をつけてウエーブを作り、3段目はバランスに気をつけて作る。			
201～236	ヘアウエービング 3			4段目から7段目までを作る。その際に5段目、6段目のウエーブは耳にあたらないように作るようにする。			
237～279	ヘアウエービング 4			ノーパートフィンガーウエーブ7段構成のタイムを計測する。目標タイムは40分。			
280～288	ネイル 1			爪の形を綺麗に整えるためにファイリングを行い、その後キューティクル処理を行って、カラーエナメル等が綺麗に塗れる準備をする。			
289～301	ネイル 2			爪の形と表面が綺麗になっている状態でカラーエナメルを塗布する。その後より綺麗にみせるためのトップコートを塗布する。			
302～320	ノーパート 7 段構成 1			1段目と3段目スカルプチュアカールの作り方とバランスとピンの打ち方の理解と実践。			
321～338	ノーパート 7 段構成 2			4段目リフトカール作り方とクローズ打ち 5段目リフトカール作り方とオープン打ちどちらもバランスをみながら作る。			
339～355	ノーパート 7 段構成 3			1段目から5段目までのピンカールを理解したら、そこまでの構成のタイムを計る。目標は25分。			
356～374	ノーパート 7 段構成 4			6段目メイボールカール7段目クロッキノールカールの作り方とバランスとピンの打ち方の理解と実践。			
375～399	ノーパート 7 段構成 5			ノーパート7段構成のタイムを計る。目標は40分。その際のバランスや仕上がりが綺麗に作れるようにする。			
400～406	エステ 1			ターバンをしてクレンジングの際に毛髪が邪魔にならないようにする。その後はポイントメイク落としをしてクレンジング剤を使用して、顔とデコルテのクレンジングを行う。			
407～413	エステ 2			あらかじめ人肌程度にマッサージオイルを温めて塗布していきデコルテから顔へとまんべんなくのばして、マッサージをする。			

414～420	エステ 3	デコルテからマッサージをしてその後フェイシャルマッサージを手順に沿って行っていく スチームタオルでふき取りをした後に収れん化粧水で仕上げをする。
---------	-------	---

教育目標 ねらい (到達目標)	国家試験科目である技術の基礎を身につけること。他の美容技術への理解と実践
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	国家試験科目は主に教室で行い、必要に応じて教員も見本例などを展示する。他の美容技術は主に実習室を使用し、専門道具等の使い方を理解する。
評価方法	定期試験、実技試験、授業態度
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	美容師国家試験受験資格
関連科目	美容技術理論 美容総合技術
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発刊 美容実習1・2 美容技術理論1・2 公益社団法人理容師美容師試験研修センター発刊 技術の解説

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○	○	○

※表内の○印を評価の対象とする。
※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。
[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表							
教科名	美容実習						
対象科	美容科	学年	2年	必選	必須	単位数	16（480時間）
担当教員 （実務経験の有無）	高橋 秀典〔有〕						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	時には自己表現も含めた自由な課題制作や、選択した課題に向けて取り組ませ到達レベルに合った期限と水準を求めることにより、社会の厳しさなども体感してもらう。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	コンテスト、作品制作、フォトシューティング、サロンで必要な技術を経験させ身に着けさせる。また、国家試験実技課題の練習を1年間で繰り返し行い基本技術と自信を身につけさせる。
評価方法	担任の指定した基準を提出期限含め審査する。担任だけでなく外部（プロ・一般）の投票や意見も反映させた評価方法をとる。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	課題の完成や到達レベルには自己研鑽が必要なことを心掛けさせる。
資格対応	コンテスト入賞、美容師国家試験の合格を目指す。
関連科目	美容実習1、美容技術理論1・2、衛生管理
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発刊 美容実習1・2 美容技術理論1・2 公益社団法人理容師美容師試験研修センター発刊 技術の解説

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度		○	○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力		○	○

※表内の○印を評価の対象とする。
※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。
[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表							
教科名	理容総合理論【接遇】						
対象科	理容科	学年	1年	必選	選択	単位数	1（30時間）
担当教員 （実務経験の有無）	服部緑子〔無〕						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	①基本的なビジネスマナーを身につける。 ②積極的なコミュニケーションを作り出せる。 ③状況に応じて適切に判断し活用できる。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	①講義形式でマナーの知識、必要性を学びます。 ②演習を通し基本の形を学びます。 応対される側（お客様）と応対する側（スタッフ）の立場の理解を深めます。
評価方法	①定期試験 ②授業の出席状況 ③学習態度、取り組み状況等
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	①就職活動及び理容室の現場に準じた受講内容。 ②定期試験は、60点以上を合格とする。 ③接客検定実技試験は、60点以上を合格とする。
資格対応	①アリアール接客検定実技試験
関連科目	①運営管理 ②インターンシップ
テキスト 及び 参考文献	「接客サービスマナーベーシックマニュアル」NP0法人日本サービスマナー協会監修

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。
※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。
[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験
の有無について

- ①専門学校に対する教育・指導歴
- ②企業・福祉施設の依頼による社内教育・研修

授業計画表							
教科名	理容総合理論【接遇】						
対象科	理容科	学年	2年	必選	選択	単位数	1（30時間）
担当教員 （実務経験の有無）	服部緑子〔無〕						

[illegible]

教育目標 ねらい (到達目標)	①基本的なビジネスマナーを身につける。 ②積極的なコミュニケーションを作り出せる。 ③状況に応じて適切に判断し活用できる。	
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	①講義形式でマナーの知識、必要性を学びます。 ②演習を通し基本の形を学びます。 ③対応される側（お客様）と、対応する側（スタッフ）の立場の理解を深めます。	
評価方法	①定期試験 ②授業の出席状況 ③学習態度、取り組み状況等	
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	①校則に準じた受講内容。 ②定期試験は、60点以上を合格とする。 ③接客検定実技試験は、60点以上を合格とする。	
資格対応	①アリアーレ接客検定実技試験	
関連科目	①運営管理 ②インターンシップ	
テキスト 及び 参考文献	「接客サービスマナーベーシックマニュアル」NP0法人日本サービスマナー協会監修	

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験
の有無について

①専門学校生徒に対する教育・指導歴
②企業・福祉施設の依頼による社内教育・研修

授業計画表							
教科名	美容総合理論【接遇】						
対象科	美容科	学年	1年	必選	選択	単位数	1（30時間）
担当教員 （実務経験の有無）	服部緑子〔無〕						

[illegible]

教育目標 ねらい (到達目標)	①基本的なビジネスマナーを身につける。 ②積極的なコミュニケーションを作り出せる。 ③状況に応じて適切に判断し活用できる。	
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	①講義形式でマナーの知識、必要性を学びます。 ②演習を通し基本の形を学びます。 ③ 応対される側（お客様）と応対する側（スタッフ）の立場の理解を深めます。	
評価方法	①定期試験 ②授業の出席状況 ③学習態度、取り組み状況等	
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	①就職活動及び理容室の現場に準じた受講内容。 ②定期試験は、60点以上を合格とする。 ③接客検定実技試験は、60点以上を合格とする。	
資格対応	①アリアーレ接客検定実技試験	
関連科目	①運営管理 ②インターンシップ	
テキスト 及び 参考文献	「接客サービスマナーベーシックマニュアル」NP0法人日本サービスマナー協会監修	

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験
の有無について

- ①専門学校に対する教育・指導歴
- ②企業・福祉施設の依頼による社内教育・研修

授業計画表							
教科名	美容総合理論【接遇】						
対象科	美容科	学年	2年	必選	選択	単位数	1（30時間）
担当教員 （実務経験の有無）	服部緑子〔無〕						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	①基本的なビジネスマナーを身につける。 ②積極的なコミュニケーションを作り出せる。 ③状況に応じて適切に判断し活用できる。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	①講義形式でマナーの知識、必要性を学びます。 ②演習を通し基本の形を学びます。 応対される側（お客様）と、応対する側（スタッフ）の立場の理解を深めます。
評価方法	①定期試験 ②授業の出席状況 ③学習態度、取り組み状況等
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	①校則に準じた受講内容。 ②定期試験は、60点以上を合格とする。 ③接客検定実技試験は、60点以上を合格とする。
資格対応	①アリアール接客検定実技試験
関連科目	①運営管理 ②インターンシップ
テキスト 及び 参考文献	「接客サービスマナーベーシックマニュアル」NP0法人日本サービスマナー協会監修

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。
※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。
[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験
の有無について

- ①専門学校生徒に対する教育・指導歴
- ②企業・福祉施設の依頼による社内教育・研修

授業計画表

教科名	理容総合理論【色彩】						
対象科	理容科	学年	1年	必選	選択	単位数	1（30時間）
担当教員 (実務経験の有無)	榎本 祐美子〔有〕						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい	今後の業務に関係する色彩知識やセンスを身につけるとともに「自分の色」をみつけてもらう
授業の概要	教室において講義形式でテキストを進めるが、単に色ではなく色とのつながりの深さを理解してもらう
評価方法	・ 定期試験 ・ 授業の出欠状況 ・ 授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます 練習問題や作品を提出してもらいます 定期試験は60点以上を合格とします
資格対応	パーソナルカラリスト検定 3級 （希望者のみ2級）
関連科目	モード
テキスト 及び 参考文献	日本カラリスト協会、パーソナルカラリスト検定3級公式テキスト

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の 関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- 〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- 〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- 〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- 〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	パーソナルカラーアナリストとして各方面で指導
----------------------	------------------------

授業計画表

教科名	理容総合理論【色彩】						
対象科	理容科	学年	1年	必選	選択	単位数	1（30時間）
担当教員 (実務経験の有無)	榎本 祐美子〔有〕						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい	今後の業務に関係する色彩知識やセンスを身につけるとともに「自分の色」をみつけてもらう
授業の概要	教室において講義形式でテキストを進めるが、単に色ではなく色とのつながりの深さを理解してもらう
評価方法	・ 定期試験 ・ 授業の出欠状況 ・ 授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます 練習問題や作品を提出してもらいます 定期試験は60点以上を合格とします
資格対応	パーソナルカラリスト検定 3級 （希望者のみ2級）
関連科目	モード
テキスト 及び 参考文献	日本カラリスト協会、パーソナルカラリスト検定3級公式テキスト

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の 関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- 〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- 〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- 〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- 〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	パーソナルカラーアナリストとして各方面で指導
----------------------	------------------------

授業計画表

教科名	理容総合理論【関係法規制度】						
対象科	理容科	学年	2年	必選	選択	単位数	1（30時間）
担当教員 (実務経験の有無)	山口 孝[無]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1～2	法制度の概要と公衆衛生法規の概要	物理的強制とは何かを理解させ、次に法と道德の違いを理解させる。法が成立する過程を理解させ国家とのかかわりを理解させる。
3～4	衛生行政の概要	法と行政、衛生行政の種類と衛生行政機関（保健所等）について理解させる。厚生労働省の機構。
5～6	小テスト	
7～8	小テストの解説、理容師法①	理容師法の目的と歴史、理容師法の体系について理解させる（法律上の定義）
9～10	理容師法②	理容師（国家試験、免許制度について。資格関連法規。）
11～12	理容師法③	理容所（理容所の開設、業を行う場所について。業務関連法規。）
13～14	理容師法④	違反者等に対する行政処分（業務停止・免許取消等の行政処分について）
15～16	理容師法⑤	立入検査と環境衛生監視員（立入検査について）
17～18	小テスト	
19～20	小テストの解説、理容師法⑥	公衆衛生のあらまし、理容の業務と消毒の関係
21～22	理容師法⑦	理容所の環境衛生
23～24	理容師法⑧	消毒法総論
25～26	関係法規	理容師法の今後の課題（理容師法をめぐる論議、理容業と法規制）と生活衛生関係営業の料金等の規制や同業組合、振興計画、独立経営に際して必要となる諸規定、地域保健や感染症関連の法規等。
27～28	小テスト	
29～30	総復習	理容師法の復習（理容師法の難しさ、理容師法の内容）

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	理容師の資格は法律により規定され、理容師でなければ理容を業とすることはできない。このため理容師に必要な法知識を習得する必要がある。1年生の時（関係法規・制度）に法制度の概要からわが国の衛生行政、理容師法の要求する理容師・理容所についての規定を理解したが、理容師法以外の関係法規についても知識を深めることとする。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	「理（美）容師養成施設の教科課目の基準の運用について」を意識して授業を進める。理容師法以外の関係法規は、他の教科課目においても同様の内容が含まれていることから、法規として何を学ぶために学習するのかを整理した上で、理容に関係する「一般衛生法規」、「公衆衛生法規」、「生活衛生法規」を中心とした内容にする。
評価方法	成績は基本的に期末試験の得点によって評価する。なお、期末試験の得点が60点未満の者に対しては再試験をし60点以上を合格、再度60点未満の場合はテスト補習を行う。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。
資格対応	理容師国家試験受験資格に準ずる
関連科目	関係法規・制度、運営管理
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター 関係法規・制度、運営管理、社会福祉

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	美容総合理論【関係法規制度】						
対象科	美容科	学年	2年	必選	選択	単位数	1（30時間）
担当教員 （実務経験の有無）	山口 孝[無]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1～2	法制度の概要と公衆衛生法規の概要	物理的強制とは何かを理解させ、次に法と道徳の違いを理解させる。法が成立する過程を理解させ国家とのかかわりを理解させる。
3～4	衛生行政の概要	法と行政、衛生行政の種類と衛生行政機関（保健所等）について理解させる。厚生労働省の機構。
5～6	小テスト	
7～8	小テストの解説、美容師法①	美容師法の目的と歴史、美容師法の体系について理解させる（法律上の定義）
9～10	美容師法②	美容師（国家試験、免許制度について。資格関連法規。）
11～12	美容師法③	美容所（美容所の開設、業を行う場所について。業務関連法規。）
13～14	美容師法④	違反者等に対する行政処分（業務停止・免許取消等の行政処分について）
15～16	美容師法⑤	立入検査と環境衛生監視員（立入検査について）
17～18	小テスト	
19～20	小テストの解説、美容師法⑥	公衆衛生のあらまし、美容の業務と消毒の関係
21～22	美容師法⑦	美容所の環境衛生
23～24	美容師法⑧	消毒法総論
25～26	関係法規	美容師法の今後の課題（美容師法をめぐる論議、美容業と法規制）と生活衛生関係営業の料金等の規制や同業組合、振興計画、独立経営に際して必要となる諸規定、地域保健や感染症関連の法規等。
27～28	小テスト	
29～30	総復習	美容師法の復習（美容師法の難しさ、美容師法の内容）

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	理容師の資格は法律により規定され、理容師でなければ理容を業とすることはできない。このため理容師に必要な法知識を習得する必要がある。1年生の時（関係法規・制度）に法制度の概要からわが国の衛生行政、理容師法の要求する理容師・理容所についての規定を理解したが、理容師法以外の関係法規についても知識を深めることとする。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	「理（美）容師養成施設の教科課目の基準の運用について」を意識して授業を進める。美容師法以外の関係法規は、他の教科課目においても同様の内容が含まれていることから、法規として何を学ぶために学習するのかを整理した上で、美容に関係する「一般衛生法規」、「公衆衛生法規」、「生活衛生法規」を中心とした内容にする。
評価方法	成績は基本的に期末試験の得点によって評価する。なお、期末試験の得点が60点未満の者に対しては再試験をし60点以上を合格、再度60点未満の場合はテスト補習を行う。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。
資格対応	美容師国家試験受験資格に準ずる
関連科目	関係法規・制度、運営管理
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター 関係法規・制度、運営管理、社会福祉

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	理容総合理論【運営管理】						
対象科	理容科	学年	2年	必選	選択	単位数	1（30時間）
担当教員 (実務経験の有無)	山口 孝[無]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1～2	オリエンテーション	授業の進め方と心構えについて
3～4	障害者福祉	障害者福祉の概要・障害者基本法・障害者総合支援法
5～6	高齢者福祉	高齢者福祉・老人福祉法
7～8	労務管理①	理容業と労務管理、労務管理に関する知識
9～10	労務管理②	理容業と人事管理、理容業と社会保障制度
11～12	経営管理①	企業の形態、理容業と料金
13～14	経営管理②	理容業と経理、理容業の簿記と税務
15～16	マーケティング①	なぜマーケティングを学ぶのか、マーケティングの基本的な考え方
17～18	マーケティング②	マーケティング戦略、競争とポジショニング
19～20	マーケティング③	理容業のためのマーケティング、戦略の立て方
21～22	顧客満足経営	顧客満足経営とはどのような経営なのか、売上志向から顧客志向へ
23～24	サロン起業①	サロンの起業とはどのようなものか、サロンの起業には何が必要か
25～26	サロン起業②	繁盛店を考えてみよう①
27～28	サロン起業③	繁盛店を考えてみよう②
29～30	理容ビジネスの将来	今後の理容業はどうなっていくのか

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	2020年3月美容師国家試験より「運営管理」が試験課目に追加されます。運営管理とはその名の通り（店舗）を運営し、（人・モノ・お金）を管理することであり、この授業では、大きく分けて業務を行う人を行う場所（施設）の2つを対象として、規制のしくみを考えます。人として「しなければならない」事や「してはならない」事の決まりを同様に施設（経営者）の視点からも考える。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	「理（美）容師養成施設の教科課目の基準の運用について」を意識して授業を進める。最近の生徒は日常のあいさつができない等社会人としてのマナーに欠けている部分が多く見られることから、ビジネスマナー等「接客法」をより詳細に学習する。
評価方法	成績は基本的に期末試験の得点によって評価する。なお、期末試験の得点が60点未満の者に対しては再試験をし60点以上を合格、再度60点未満の場合はテスト補習を行う。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。
資格対応	美容師国家試験受験資格に準ずる
関連科目	関係法規・制度、運営管理
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター 関係法規・制度、運営管理、社会福祉

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	美容総合理論【運営管理】						
対象科	美容科	学年	2年	必選	選択	単位数	1（30時間）
担当教員 (実務経験の有無)	山口 孝[無]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1～2	オリエンテーション	授業の進め方と心構えについて
3～4	障害者福祉	障害者福祉の概要・障害者基本法・障害者総合支援法
5～6	高齢者福祉	高齢者福祉・老人福祉法
7～8	労務管理①	美容業と労務管理、労務管理に関する知識
9～10	労務管理②	美容業と人事管理、美容業と社会保障制度
11～12	経営管理①	企業の形態、美容業と料金
13～14	経営管理②	美容業と経理、美容業の簿記と税務
15～16	マーケティング①	なぜマーケティングを学ぶのか、マーケティングの基本的な考え方
17～18	マーケティング②	マーケティング戦略、競争とポジショニング
19～20	マーケティング③	美容業のためのマーケティング、戦略の立て方
21～22	顧客満足経営	顧客満足経営とはどのような経営なのか、売上志向から顧客志向へ
23～24	サロン起業①	サロンの起業とはどのようなものか、サロンの起業には何が必要か
25～26	サロン起業②	繁盛店を考えてみよう①
27～28	サロン起業③	繁盛店を考えてみよう②
29～30	美容ビジネスの将来	今後の美容業はどうなっていくのか

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	2020年3月美容師国家試験より「運営管理」が試験課目に追加されます。運営管理とはその名の通り（店舗）を運営し、（人・モノ・お金）を管理することであり、この授業では、大きく分けて業務を行う人を行う場所（施設）の2つを対象として、規制のしくみを考えます。人として「しなければならない」事や「してはならない」事の決まりを同様に施設（経営者）の視点からも考える。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	「理（美）容師養成施設の教科課目の基準の運用について」を意識して授業を進める。最近の生徒は日常のあいさつができない等社会人としてのマナーに欠けている部分が多く見られることから、ビジネスマナー等「接客法」をより詳細に学習する。
評価方法	成績は基本的に期末試験の得点によって評価する。なお、期末試験の得点が60点未満の者に対しては再試験をし60点以上を合格、再度60点未満の場合はテスト補習を行う。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。
資格対応	美容師国家試験受験資格に準ずる
関連科目	関係法規・制度、運営管理
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター 関係法規・制度、運営管理、社会福祉

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。
※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。
[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表							
教科名	理容総合理論【他】						
対象科	理容科	学年	1年	必選	選択	単位数	1（30時間）
担当教員 （実務経験の有無）	磯部臣史〔無〕						

[illegible]

教育目標 ねらい	理容技術理論、理容実習、理容総合技術等で得た技術をより今後のサロンワークに活かせるよう、さらに細かいところまで知識の向上を目指す。
授業の概要	教室において講義形式にて授業を進める。教科書全般だけではなく教科書から重点的な部分をさらに掘り下げ、現場での体験を織り交ぜてより理解度を深めてもらう。
評価方法	1. 授業の出欠状況 2. 授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます。小テストをおこないます。
資格対応	
関連科目	理容技術理論、理容実習、理容総合技術
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 理容技術理論 1・理容技術理論 2

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表							
教科名	美容総合理論【他】						
対象科	美容科	学年	1年	必選	選択	単位数	1（30時間）
担当教員 （実務経験の有無）	水野亮〔有〕						

[illegible]

教育目標 ねらい	理容技術理論、理容実習、理容総合技術等で得た技術をより今後のサロンワークに活かせるよう、さらに細かいところまで知識の向上を目指す。
授業の概要	教室において講義形式にて授業を進める。教科書全般だけではなく教科書から重点的な部分をさらに掘り下げ、現場での体験を織り交ぜてより理解度を深めてもらう。
評価方法	1. 授業の出欠状況 2. 授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます。小テストをおこないます。
資格対応	
関連科目	理容技術理論、理容実習、理容総合技術
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 理容技術理論 1・理容技術理論 2

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。
※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。
[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表							
教科名	理容総合理論【他】						
対象科	理容科	学年	2年	必選	選択	単位数	4（120時間）
担当教員 （実務経験の有無）	磯部臣史〔有〕						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい	対サロンワークで今後実際に起こりうるであろう外国人対策と、国家試験（筆記）を合格するために、 いろいろな問題集などを用い理解度を深める。
授業の概要	教室において講義形式にて授業を進める。教科書全般だけではなく問題集などから理解度を深め、国家 試験（筆記）の合格率を高める。
評価方法	1. 授業の出欠状況 2. 授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます。小テストをおこないます。
資格対応	
関連科目	関係法規、運営管理、衛生管理、理容保健、香粧品化学、理容文化論、理容技術理論
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 ワークブック、外国語

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関 係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	理容師免許を有し理容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表

教科名	美容総合理論【他】						
対象科	美容科	学年	2年	必選	選択	単位数	4（120時間）
担当教員 （実務経験の有無）	高橋 秀典[有]						

授業計画		
回	項目	内容
1～10	法規・制度 ワークブック①	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
11～20	法規・制度 ワークブック②	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
21～30	技術理論 ワークブック①	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
31～40	技術理論 ワークブック②	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
41～50	技術理論 ワークブック③	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
21～60	美容保健 ワークブック①	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
61～70	美容保健 ワークブック②	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
71～80	物理・香粧品化学 ワークブック①	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
81～90	物理・香粧品化学 ワークブック②	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
91～100	衛生管理 ワークブック①	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
101～120	衛生管理 ワークブック②	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
121～130	衛生管理 ワークブック③	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
131～140	衛生管理 練習問題	質疑応答&解答考察・・・練習問題により多角的・応用的に理解を深める。
141～150	物理・香粧品化学 練習問題	質疑応答&解答考察・・・練習問題により多角的・応用的に理解を深める。
151～160	美容保健 練習問題	質疑応答&解答考察・・・練習問題により多角的・応用的に理解を深める。
161～170	技術理論 練習問題	質疑応答&解答考察・・・練習問題により多角的・応用的に理解を深める。
171～175	法規・制度 練習問題	質疑応答&解答考察・・・練習問題により多角的・応用的に理解を深める。
176～180	筆記対策模擬テスト	総合評価確認のため5科目を模擬筆記試験形式で行う。マークシートの記入要領も指導。自己採点をさせ欠点を洗い出す。

--	--	--

教育目標 ねらい	国家試験筆記対策として当該科目の理解度を高める。
授業の概要	ワークブック、練習問題教材を使用して多角的に理解させる。
評価方法	事項採点、自己解決の方式もとるが、模擬テストでは細分化したテスト結果を総合評価（順位発表）をして勉強の取組自体を考えさせる。
受講心得	1か月の期間にどこまで受験対策ができるかを常に心得させます。
資格対応	美容師国家資格取得を目指す。
関連科目	関係法規・制度、衛生管理、美容保健、物理・香粧品化学、技術理論
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行・・・関係法規・制度、衛生管理、美容保健、物理・香粧品化学、技術理論1・2、ワークブックなど

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表

教科名	理容モード理論						
対象科	理容科	学年	1年	必選	選択	単位数	2（60時間）
担当教員 (実務経験の有無)	稲垣千津子[無]						

授業計画		
回	項目	内容
1～2	第1章 鉛筆の削り方 第2章 顔のプロポーション	短時間で形のよい顔のプロポーションの描き方を数式的に分割する方法を理解しながら鉛筆で下描きしていく。
3～4	第3章 顔の部分練習、基礎編 第4章 顔の描き方、正面向き	レディースの正面向きで目の描き方、鼻の描き方、口の描き方等書いていく。
5～6	第6章 ヘアの描き方	球体を線で表現する方法を学び、毛先の表現、陰影のつけ方、ヘアスタイルを考え、レディースの下描きを完成させる
7～10	第2章、第3章、第6章のまとめ	メンズの正面向きの下書き、ヘアスタイルを考え、下描きを完成させる。
11～12	応用イラスト	下描きしたメンズ、レディースのヘアスタイル画をケント紙に描き写す。
13～14	応用イラスト	パステル、色鉛筆の画材の使い方を学ぶ
15～18	応用イラスト	パステル、色鉛筆、ねり消しゴム、コットン綿棒等を使用して、メンズ、レディースのヘアスタイル画を着色し完成させる。
19～20	第4章 顔の描き方、斜め向き レディース、メンズ	正面向きと比べ左右のバランスの違いを理解する。 鉛筆下描き。
21～24	第4章 顔の描き方、斜め向き レディース、メンズ	斜め向きは、トップ・サイド・ネープと見えるので、ヘアデザインを考えてケント紙にパステル、色鉛筆で着色する。
25～26	コンテの使い方	身近な果物、リンゴを使い、コンテの使い方、陰影、球体の表現方法のテクニックを学ぶ。
27～28	写実的な描き方	写真のヘアスタイルを見ながら、下描きを描く。
29～34	写実的な描き方	画用紙に下描きを描き写し、コンテで着色していく。 消しゴム、さっ筆、綿棒等を使い、髪の毛の流れや光を表現していく。
35～38	第4章 顔の描き方、斜め向き レディース、メンズ	横向きのヘアスタイルのデザインをし、画材は黒のサインペンのみで仕上げる。背景を点描画でデザインする。
39～42	修了作品 製作	2年生時の学生大会提出用の作品に取りかかる。自分の描きたいヘアスタイル、ポーズ等を考え、B3サイズに下描きする。
43～44	ファッションの基礎知識①	世界3大コレクション・ブランド名・洋服の名称（1）等を理解する。
45～46	修了作品製作	下描きを完成させ、B3ボードに描いていく。
47～54	修了作品製作	コンテ、消しゴム、さっ筆等を使用し、髪の毛の流れや光の当たり方等、丁寧に描き込む。
55～56	ファッションの基礎知識②	洋服の名称（2）テキスタイル、靴の名称を理解する。
57～60	修了作品製作	背景を考え、テーマに沿ったイメージで全体的にバランスよく仕上げていく。

--	--	--

教育目標 ねらい	ヘアスタイル画を描きながら、顔のバランス等を正確に観察する力を養い、自分のイメージしたデザインを言葉だけでなくデザイン画で表現できるようにする。又、ヘアデザインの創作的な技術やトータルファッションの知識も身につけセンスや感性を磨いていく。
授業の概要	教科書や写真、実物を見ながら色々な画材を使い、デザイン画の作品を仕上げていく。
評価方法	1、定期試験 2、授業の出欠状況 3、作品物提出 4、授業受講の熱心さ
受講心得	テーマごとの作品を仕上げます。 定期試験は60点以上を合格とし、その中に作品の点数も含まれます。
資格対応	特になし。
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	社団法人日本理美容教育センター ヘアスタイルによるトータルファッション 織部企画 新ファッションビジネス基礎用語辞典

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の 関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○	○	

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- 〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- 〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- 〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- 〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	美容モード理論						
対象科	美容科	学年	1年	必選	選択	単位数	2（60時間）
担当教員 (実務経験の有無)	稲垣千津子[無]						

授業計画		
回	項目	内容
1～2	第1章 鉛筆の削り方 第2章 顔のプロポーション	短時間で形のよい顔のプロポーションの描き方を数字的に分割する方法を理解しながら鉛筆で下描きしていく。
3～4	第3章 顔の部分練習、基礎編 第4章 顔の描き方、正面向き	レディースの正面向きで目の描き方、鼻の描き方、口の描き方等書いていく。
5～6	第6章 ヘアの描き方	球体を線で表現する方法を学び、毛先の表現、陰影のつけ方、ヘアスタイルを考え、レディースの下描きを完成させる
7～10	第2章、第3章、第6章のまとめ	メンズの正面向きの下書き、ヘアスタイルを考え、下描きを完成させる。
11～12	応用イラスト	下描きしたメンズ、レディースのヘアスタイル画をケント紙に描き写す。
13～14	応用イラスト	パステル、色鉛筆の画材の使い方を学ぶ
15～18	応用イラスト	パステル、色鉛筆、ねり消しゴム、コットン綿棒等を使用して、メンズ、レディースのヘアスタイル画を着色し完成させる。
19～20	第4章 顔の描き方、斜め向き レディース、メンズ	正面向きと比べ左右のバランスの違いを理解する。 鉛筆下描き。
21～24	第4章 顔の描き方、斜め向き レディース、メンズ	斜め向きは、トップ・サイド・ネープと見えるので、ヘアデザインを考えてケント紙にパステル、色鉛筆で着色する。
25～26	コンテの使い方	身近な果物、リンゴを使い、コンテの使い方、陰影、球体の表現方法のテクニックを学ぶ。
27～28	写実的な描き方	写真のヘアスタイルを見ながら、下描きを描く。
29～34	写実的な描き方	画用紙に下描きを描き写し、コンテで着色していく。 消しゴム、さっ筆、綿棒等を使い、髪の毛の流れや光を表現していく。
35～38	第4章 顔の描き方、斜め向き レディース、メンズ	横向きのヘアスタイルのデザインをし、画材は黒のサインペンのみで仕上げる。背景を点描画でデザインする。
39～42	修了作品 製作	2年生時の学生大会提出用の作品に取りかかる。自分の描きたいヘアスタイル、ポーズ等を考え、B3サイズに下描きする。
43～44	ファッションの基礎知識①	世界3大コレクション・ブランド名・洋服の名称（1）等を理解する。
45～46	修了作品製作	下描きを完成させ、B3ボードに描いていく。
47～54	修了作品製作	コンテ、消しゴム、さっ筆等を使用し、髪の毛の流れや光の当たり方等、丁寧に描き込む。
55～56	ファッションの基礎知識②	洋服の名称（2）テキスタイル、靴の名称を理解する。
57～60	修了作品製作	背景を考え、テーマに沿ったイメージで全体的にバランスよく仕上げていく。

教育目標 ねらい	ヘアスタイル画を描きながら、顔のバランス等を正確に観察する力を養い、自分のイメージしたデザインを言葉だけでなくデザイン画で表現できるようにする。又、ヘアデザインの創作的な技術やトータルファッションの知識も身につけセンスや感性を磨いていく。
授業の概要	教科書や写真、実物を見ながら色々な画材を使い、デザイン画の作品を仕上げていく。
評価方法	1、定期試験 2、授業の出欠状況 3、作品物提出 4、授業受講の熱心さ
受講心得	テーマごとの作品を仕上げます。 定期試験は60点以上を合格とし、その中に作品の点数も含まれます。
資格対応	特になし。
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	社団法人日本理美容教育センター ヘアスタイルによるトータルファッション 織部企画 新ファッションビジネス基礎用語辞典

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関 係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○	○	

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表							
教科名	理容総合技術						
対象科	理容科	学年	1年	必選	選択	単位数	3（90時間）
担当教員 （実務経験の有無）	佐藤真弥〔有〕						

[illegible]

教育目標 ねらい	理容実習で覚えた技術をさらに発展、向上させることにより、技術大会や今後のサロンワークに役立てられるようにしたり、より実践的な技術を覚える。	
授業の概要	教室や実習室を使い、講義形式や相モデル等を用い実習形式で授業を行う。行う項目により別紙テキストを用いてより細かな知識を得て今後現場にて役立てられるようにする。	
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出欠状況 3. 授業受講の熱心さ	
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上を合格とします。	
資格対応		
関連科目	理容実習、理容技術理論	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 理容技術理論 1・理容技術理論 2 理容実習 1・理容実習 2	

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。
※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。
[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	理容師免許を有し理容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表							
教科名	美容総合技術						
対象科	美容科	学年	1年	必選	選択	単位数	3（100時間）
担当教員 (実務経験の有無)	鈴木 ゆかり〔無〕						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	サロンワークやトータルビューティアーの技術を身につけること。他の美容技術への理解と実践。
授業の概要 (授業期間全体を通じて授業の進め方)	主に実習室を使用し、専門道具等の使い方を理解する。
評価方法	定期試験、授業態度、各種検定結果
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	美容師国家資格、JNECネイリスト3級検定、JNAメイク3級検定、
関連科目	美容技術理論 美容実習
テキスト 及び 参考文献	美容技術理論 美容実習 JNAテクニカルベーシック

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○	○	○

※表内の○印を評価の対象とする。
 ※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。
 [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験
の有無について

美容師免許を有し美容所において勤務

授業計画表							
教科名	美容総合技術						
対象科	美容科	学年	1年	必選	選択	単位数	3（90時間）
担当教員 （実務経験の有無）	赤嶺 麻衣〔無〕						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	サロンワークやトータルビューティアーの技術を身につけること。他の美容技術への理解と実践。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	主に実習室を使用し、専門道具等の使い方を理解する。
評価方法	定期試験、授業態度、各種検定結果
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	美容師国家資格、JNECネイリスト3級検定、JNAメイク3級検定、
関連科目	美容技術理論 美容実習
テキスト 及び 参考文献	美容技術理論 美容実習 JNAテクニカルベーシック

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○	○	○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表							
教科名	美容総合技術						
対象科	美容科	学年	1年	必選	選択	単位数	3（90時間）
担当教員 (実務経験の有無)	鈴木 ゆかり[無]						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	サロンワークやトータルビューティ어의技術を身につけること。他の美容技術への理解と実践。
授業の概要 (授業期間全体を通じて授業の進め方)	主に実習室を使用し、専門道具等の使い方を理解する。
評価方法	定期試験、授業態度、各種検定結果
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	美容師国家資格、JNECネイリスト3級検定、JNAメイク3級検定、
関連科目	美容技術理論 美容実習
テキスト 及び 参考文献	美容技術理論 美容実習 JNAテクニカルベーシック

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○	○	○
※表内の○印を評価の対象とする。 ※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。 [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。			

担当教員の実務経験 の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表							
教科名	美容総合技術						
対象科	美容科	学年	1年	必選	選択	単位数	3（90時間）
担当教員 (実務経験の有無)	水野 亮[有]						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	サロンワークやトータルビューティアーの技術を身につけること。他の美容技術への理解と実践。
授業の概要 (授業期間全体を通じて授業の進め方)	主に実習室を使用し、専門道具等の使い方を理解する。
評価方法	定期試験、授業態度、各種検定結果
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	美容師国家資格、JNECネイリスト3級検定、JNAメイク3級検定、
関連科目	美容技術理論 美容実習
テキスト 及び 参考文献	美容技術理論 美容実習 JNAテクニカルベーシック

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○	○	○
※表内の○印を評価の対象とする。 ※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。 [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。			

担当教員の実務経験
の有無について

美容師免許を有し美容所において勤務

授業計画表							
教科名	美容総合技術						
対象科	美容科	学年	1年	必選	選択	単位数	3（90時間）
担当教員 (実務経験の有無)	中瀬 小夜香[無]						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	サロンワークやトータルビューティアーの技術を身につけること。他の美容技術への理解と実践。
授業の概要 (授業期間全体を通じて授業の進め方)	主に実習室を使用し、専門道具等の使い方を理解する。
評価方法	定期試験、授業態度、各種検定結果
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	美容師国家資格、JNECネイリスト3級検定、JNAメイク3級検定、
関連科目	美容技術理論 美容実習
テキスト 及び 参考文献	美容技術理論 美容実習 JNAテクニカルベーシック

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○	○	○
※表内の○印を評価の対象とする。 ※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。 [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。			

担当教員の実務経験 の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表							
教科名	美容総合技術						
対象科	美容科	学年	1年	必選	選択	単位数	3（90時間）
担当教員 （実務経験の有無）	服部 緑子[無]						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	サロンワークやトータルビューティアーの技術を身につけること。他の美容技術への理解と実践。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	主に実習室を使用し、専門道具等の使い方を理解する。
評価方法	定期試験、授業態度、各種検定結果
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	美容師国家資格、JNECネイリスト3級検定、JNAメイク3級検定、
関連科目	美容技術理論 美容実習
テキスト 及び 参考文献	美容技術理論 美容実習 JNAテクニカルベーシック

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○	○	○
※表内の○印を評価の対象とする。 ※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。 [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。			

担当教員の実務経験 の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表							
教科名	理容総合技術						
対象科	理容科	学年	2年	必選	選択	単位数	3（80時間）
担当教員 （実務経験の有無）	佐藤真弥〔有〕						

[illegible]

教育目標 ねらい	理容実習で覚えた技術をさらに発展、向上させることにより、技術大会や今後のサロンワークに役立てられるようにしたり、より実践的な技術を覚える。	
授業の概要	教室や実習室を使い、講義形式や相モデル等を用い実習形式で授業を行う。行う項目により別紙テキストを用いてより細かな知識を得て今後現場にて役立てられるようにする。	
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出欠状況 3. 授業受講の熱心さ	
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上を合格とします。	
資格対応		
関連科目	理容実習、理容技術理論	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 理容技術理論 1・理容技術理論 2 理容実習 1・理容実習 2	

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。
※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。
[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	理容師免許を有し理容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表

教科名	美容総合技術						
対象科	美容科	学年	2年	必選	選択	単位数	3 (80時間)
担当教員 (実務経験の有無)	高橋 秀典[有]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1～3	フォトコン作品制作①	アップスタイルなどヘアセッティングを学ぶ。まずは色彩、造形学、過去の作品を参考にしながら各自のデザインを考えさせる。
4～7	フォトコン作品制作②	ウィッグをカット、カラーリング、セットなどを施しながら完成形に近づけていく。
8～12	フォトコン作品制作③	完成した作品のアピールポイントを自分で撮影し、立体的なヘアスタイル造形の難しさを知る。
13～17	サロン実習 シャンプー、ブロー①	サロンで使えるサイド・バックシャンプー、ブロー仕上げを反復練習させる。
18～22	サロン実習 シャンプー、パーマ①	サロンで使えるパーマ施術手順を人体で練習させる。またバリエーションを習得させる。
23～27	サロン実習 ヘアカラー、パーマ②	サロンで使えるパーマ施術手順を人体で練習させる。またバリエーションを習得させる。
28～32	サロン実習 ヘアカラー塗布①	サロンで使えるヘアカラー塗布、パーマ施術手順を人体で練習させる。
33～37	サロン実習 ヘアカラー塗布②	サロンで使えるヘアカラー塗布、パーマ施術手順を人体で練習させる。
38～42	サロン実習 ハンドマッサージ	相モデルによりハンドマッサージの手順を確認し、覚える。
43～47	サロン実習 ネイルケア	相モデルによりネイルケアの全工程を確認する。
48～52	サロン実習 ヘアセット	相モデルによりホットカーラー、アップスタイルのゴムの使い方、ピンの刺し方、シニョン、全体のバランスなどを確認させる。
53～63	国家試験衛生実技試験①	国家試験実技に際し衛生実技試験の内容を確認する。
64～74	国家試験衛生実技試験②	テスト形式で理解度を確認する。
75～80	婚礼着付け	袴、留袖、白無垢、かつら装着、婚礼小物の展示講習により理解を深めさせる。

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	時には自己表現も含めた自由な課題制作や、選択した課題に向けて取り組ませ到達レベルに合った期限と水準を求めることにより、社会の厳しさなども体感してもらう。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	コンテスト、作品制作、フォトシューティング、サロンで必要な技術を経験させ身に付けさせる。また、国家試験実技課題の練習を1年間で繰り返し行い基本技術と自信を身につけさせる。
評価方法	担任の指定した基準を提出期限含め審査する。担任だけでなく外部（プロ・一般）の投票や意見も反映させた評価方法をとる。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	課題の完成や到達レベルには自己研鑽が必要なことを心掛けさせる。
資格対応	コンテスト入賞、美容師国家試験の合格を目指す。
関連科目	美容実習1、美容技術理論1・2、衛生管理
テキスト 及び 参考文献	美容実習1、美容技術理論1・2、衛生管理、パーソナルカラーリスト検定テキスト、美容師国家試験「技術の解説」、美容師国家試験「受験案内」、美容衛生読本

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。
※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。
[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表							
教科名	社会保険						
対象科	理容科	学年	1年	必選	選択	単位数	1（30時間）
担当教員 （実務経験の有無）	山口 孝[無]						

[illegible]

教育目標 ねらい (到達目標)	私たちが生まれてから死ぬまでの一生の間には、就職や結婚、出産や育児などを経験すると共に病気やけが、転職や失業、また高齢になって収入がなくなったり、介護が必要になったりとさまざまな生活上の困難に直面します。その事態を緩和・軽減する社会保障に関する基礎的な知識を身につけることを目標とする。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	・「社会保障」 生活水準の低下を防ぐ所得保障、傷病の治療と健康の維持・回復を目的とする医療保障、高齢者・障害者及び母子家庭など生活上のハンディキャップをもつ人々に対し個別のサービスを提供する社会福祉を学ぶ。 ・「福祉社会」 高齢者や障害者をはじめとして誰にでもやさしい福祉社会を実現することを学ぶ。本来、社会とは小さな子ども、障害者や高齢者などさまざまな人々で成り立っており、福祉社会とはすべての人々が協力して幸せな生活を送ることを意味する。
評価方法	まずは出席率75%以上必要。出席時間不足のための補習は行うが別途有料になる。単位認定は定期試験60点以上。レポート課題は特に予定していない。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。
資格対応	理容師国家試験（運営管理）
関連科目	「運営管理」第2編 第3章 従業員としての視点から（公的年金・医療保険・労働保険）
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター「社会福祉」テキスト

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表							
教科名	社会保険						
対象科	美容科	学年	1年	必選	選択	単位数	1（30時間）
担当教員 （実務経験の有無）	山口 孝[無]						

[illegible]

教育目標 ねらい (到達目標)	私たちが生まれてから死ぬまでの一生の間には、就職や結婚、出産や育児などを経験すると共に病気やけが、転職や失業、また高齢になって収入がなくなったり、介護が必要になったりとさまざまな生活上の困難に直面します。その事態を緩和・軽減する社会保障に関する基礎的な知識を身につけることを目標とする。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	・「社会保障」 生活水準の低下を防ぐ所得保障、傷病の治療と健康の維持・回復を目的とする医療保障、高齢者・障害者及び母子家庭など生活上のハンディキャップをもつ人々に対し個別のサービスを提供する社会福祉を学ぶ。 ・「福祉社会」 高齢者や障害者をはじめとして誰にでもやさしい福祉社会を実現することを学ぶ。本来、社会とは小さな子ども、障害者や高齢者などさまざまな人々で成り立っており、福祉社会とはすべての人々が協力して幸せな生活を送ることを意味する。
評価方法	まずは出席率75%以上必要。出席時間不足のための補習は行うが別途有料になる。単位認定は定期試験60点以上。レポート課題は特に予定していない。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。
資格対応	美容師国家試験（運営管理）
関連科目	「運営管理」第2編 第3章 従業員としての視点から（公的年金・医療保険・労働保険）
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター「社会福祉」テキスト

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表	
-------	--

教科名	相互導入						
対象科	トータル科	学年	1年	必選	選択	単位数	1（30時間）
担当教員 (実務経験の有無)	山口 孝[無]						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい	地域のイベント等を通して地域社会や文化とのつながりを体験的に学ぶ。社会貢献の意義と目的とを学ばせるとともに、福祉施設や地域におけるボランティア活動などを通じてその重要性を認識させる。
授業の概要	地域イベント等の準備や後片づけ、参加者等への説明などの経験を通じ、座学では得られない社会とのコミュニケーション力を学ぶ。
評価方法	1. 授業の出欠状況 2. 授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い試験を受けてもらいます。
資格対応	特になし。
関連科目	特になし。
テキスト 及び 参考文献	特になし。

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。
※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。
[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	なし。
----------------------	-----

授業計画表

教科名	相互導入						
対象科	トータル科	学年	2年	必選	選択	単位数	1（30時間）
担当教員 (実務経験の有無)	山口 孝[無]						

授業計画		
回	項目	内容
31～32	障害者支援施設 養楽荘	理容・美容の知識・技術を生かした地域福祉活動に関すること。
33～34	障害者支援施設 養楽荘	〃
35～36	学園祭	学園祭に友人を招き、学校についてプレゼンテーションを行う。
37～38	学園祭	〃
39～40	学園祭	学園祭に参加し、他学科の学生と交流する。
41～42	学園祭	〃
43～44	他学科授業	他学科の授業に参加し、知識を広げる。
45～46	他学科授業	〃
47～48	学校行事	学校の行事に参加し、ショーについての知識を広げる。
49～50	学校行事	〃
51～52	オープンキャンパス	オープンキャンパスの運営スタッフとして、来られる方とコミュニケーションをとることができる。
53～54	オープンキャンパス	〃
55～56	他学科授業	他学科の授業に参加し、知識を広げる。
57～58	他学科授業	〃
59～60	他学科授業	〃

--	--	--

教育目標 ねらい	さまざまな学内行事や学外行事に参加し、チームとしての役割や動きを理解することで、責任感と行動力、表現力を身に付ける授業を行う。
授業の概要	地域イベント等の準備や後片づけ、参加者等への説明などの経験を通じ、座学では得られない社会とのコミュニケーション力を学ぶ。
評価方法	1. 授業の出欠状況 2. 授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い試験を受けてもらいます。
資格対応	特になし。
関連科目	特になし。
テキスト 及び 参考文献	特になし。

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。
※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。
[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	なし。
----------------------	-----

授業計画表

教科名	接遇マナー						
対象科	トータル科	学年	1年	必選	選択	単位数	2（60時間）
担当教員 (実務経験の有無)	山口 孝[無]						

授業計画		
回	項目	内容
1～3	言語知識（文字・語彙）	現状の確認を行う。
4～6	漢字読み	漢字で書かれた語の読み方。
7～9	表記	ひらがなで書かれた語が、漢字でどのように書かれるか。
10～12	文脈規定	文脈によって意味的に規定される語が何であるか。
13～15	言い換え類義	出題される語や表現と意味的に近い語や表現。
16～18	用法	言語が文の中でどのように使われるのか。
19～21	言語知識・読解（文法・読解）	現状の確認を行う。
22～24	文法（文法形式の判断）	文の内容に合った文法形式かどうかを判断することができるか。
25～27	文法（文の組み立て）	統語的に正しく、かつ、意味が通る文を組み立てることができる。
28～30	文章の文法	文章の流れに合った文かどうかを判断することができる。
31～33	内容理解（短文）	生活・仕事などいろいろな話題も含め、説明文や指示文など、150～200字程度の書き下ろしのテキストを読んで内容理解。
34～36	内容理解（中文）	書き下ろした解説、エッセイなど350字程度のテキストを読んで、キーワードや因果関係を理解。
37～39	内容理解（長文）	解説、エッセイ、手紙など550字程度のテキストを読んで、概要や論理の展開を理解する。
40～42	情報検索	広告、パンフレットなどの書き下ろした情報素材の中から必要な情報を探し出してみる。
43～45	聴解	現状の確認を行う。
46～48	課題理解	具体的な課題解決に必要な情報を聞き取ることができるようにする。
49～51	ポイント理解	〃
52～54	概要理解	話者の意図や主張がなどができるかどうかの確認をする。
55～57	発話表現	イラストを見ながら、状況説明を聞いて、適切な発話ができるようにする。

58～60	即時応答	質問などの短い発話を聞いて、適切な応答の確認。
-------	------	-------------------------

教育目標 ねらい	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。社会生活における基本的規範やコミュニケーション技術などを学ぶことによって、社会人としての心構えを養う。
授業の概要	教室において講義形式にて授業を進める。教科書全般だけではなく問題集などから理解度を深める。
評価方法	1. 授業の出欠状況 2. 授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます。小テストをおこないます。
資格対応	日本語能力試験
関連科目	相互理解
テキスト 及び 参考文献	日本国際教育支援協会テキスト

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- 〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- 〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- 〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- 〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	理容師免許を有し理容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表

教科名	日本文化						
対象科	トータル科	学年	2年	必修	選択	単位数	2（60時間）
担当教員 (実務経験の有無)	山口 孝[無]						

授業計画		
回	項目	内容
1～4	総論、理容・美容の語義	理容と美容の現代社会との関わり方、その姿勢を考える。
5～8	理容業・美容業の歴史	理容業・美容業はどのように発生したのか。庶民や武士の関わり合い方を理解する。
9～12	江戸幕府と髪結業のかかわり	江戸時代の制度に守られた理容業はどう発展していったのか。女髪結いの弾圧や抵抗を学ぶ。
13～16	明治から昭和の理容と美容	明治時代の西洋文化の流れの中での理容業、美容業、第二次世界大戦後の発展を学ぶ。
17～20	日本のファッション文化史	縄文・弥生・古墳時代の髪型・服装・装身具を創造してみよう。
21～24	古代 飛鳥・奈良・平安時代	大陸文化の影響を受けたファッションの世界を理解する。
25～28	中世	平安時代の独自のファッションの世界を学ぶ。
29～32	中世	平安時代の独自のファッションの世界を学ぶ。
33～36	中世	平安時代の独自のファッションの世界を学ぶ。
37～40	近世前期 戦国時代 安土桃山時代	戦乱の時代から新時代の成立のあたり、化粧、髪型、服装の変化を理解する。
41～44	近世後期 江戸時代中・後期	男性の髪型は職業によって区別されるようになり、女性の髪型は日本髪特有のスタイルの完成を学ぶ。
45～48	近代 明治・大正・昭和20年まで	明治期の西洋文化の導入による髪型、ファッションによる変化。大正・明治20年までの変化を解消する。
49～52	現代 I 1945～1950	日本的美的意識が優れていき個人の選択にゆだねられる時代とアメリカの影響を学ぶ。
53～56	〃	〃
57～60	〃	〃

--	--	--

教育目標 ねらい	日本の髪型・服飾文化を時代の流れと共に理解する。
授業の概要	教室において講義形式にて授業を進める。教科書全般だけではなく問題集などから理解度を深める。
評価方法	1. 授業の出欠状況 2. 授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます。小テストをおこないます。
資格対応	特になし
関連科目	特になし
テキスト 及び 参考文献	公益財団法人 日本理美容教育センター発行 文化論

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の 関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	理容師免許を有し理容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表							
教科名	ヘアメイク						
対象科	トータル科	学年	1年	必修	選択	単位数	9（270時間）
担当教員 （実務経験の有無）	高橋秀典、岡村清美〔有〕						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	1年間かけて髪をデザインすることを学ぶ。技術の習得・似合わせ・道具の使い方・事故防止・などヘアメイクを通じて酔うようなことを学習する。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	髪を「まとめる」ことから「デザインする」ところまでを1年間で体感する。その際「洗う」「乾かす」ことを覚えることによって繰り返し練習可能となる。
評価方法	学期末定期試験で、ウィッグを使った作品を1人1体作成する。課題内容・審査基準・計測時間・は事前に通知し、全員同基準で審査をする。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	設備や道具・器具の使い方や注意点を理解しておく。また、人体の構造、特に髪の構造を理解する。
資格対応	無し
関連科目	ブライダルヘアメイク
テキスト 及び 参考文献	技術理論1

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○	○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		○
※表内の○印を評価の対象とする。 ※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。 [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。			

担当教員の実務経験
の有無について

美容室での実務経験が20年以上の教員が担当します。

授業計画表

教科名	ヘアメイク						
対象科	トータル科	学年	2年	必選	選択	単位数	7（210時間）
担当教員 （実務経験の有無）	高橋秀典、岡村清美〔有〕						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
271～280	ウィック	時間内にイメージした作品を完成する事ができるようになる。 細部を意識し完成度を高める。
281～290	ウィック	時間内にイメージした作品を完成する事ができるようになる。 細部を意識し完成度を高める。
291～300	ウィック	1セメスターで習得した技術を使いヘアスタイルを完成させる事が出来るようになる。
301～310	トレンドヘアを知る	コラージュシートを完成させることが出来る。今のトレンドを踏まえ自分好みを見つけることができる。
311～320	ヘア道具の種類	ヘア道具の種類や、スタイリング剤の特徴を知り、使い分けの仕方を理解する。
321～330	コテ、アイロンの使い方	コテ、アイロンの使い方を理解し色々な巻き方のバリエーションプレゼンができる。
331～340	ヘアピン、ヘアゴムの使い方	ヘアピン、ヘアゴムの種類や特徴を理解し、ピニングが出来る。
341～350	編み込みの仕方	バランスの取れた裏編み、表編み、ローブ編みの3種類の編み込みができる。
351～360	トレンドヘア カジュアル	トレンドを生かしカジュアルでモデルに似合うバランスの取れたヘアアレンジができる。
361～370	相モデル実習	コテ、アイロンを使ってモデルの髪を綺麗に巻くことができる。
371～380	トレンドヘア シンプル	トレンドを生かし、カジュアルでモデルの髪を綺麗に巻くことができる。
381～390	トレンドヘア キュート	トレンドを生かしキュートで動きのあるヘアアレンジをプレゼンできる。
391～400	トレンドヘア クール	トレンドを生かしクールで面の綺麗なヘアアレンジが出来る。
401～420	ヘアアレンジレシピ制作①	これまでの実習を踏まえトレンドを生かしたオリジナルのヘアアレンジを考案することができる。
421～440	ヘアアレンジ制作②	トレンドを生かしたオリジナルのヘアアレンジレシピを元に、ウィックを使用し形にする。
441～450	ヘアアクセサリ制作	オリジナルのヘアアレンジに似合ったアクセサリを制作してプレゼンすることができる。
451～460	オリジナルヘアアレンジ	オリジナルレシピを元にヘアアレンジを行い、ヘアアクセサリをバランスよく装飾することができる。
461～480	トレンドヘア 模写	コレクションのヘアアレンジを模写することが出来る。

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	ヘアアレンジの基本、ヘア道具の使い分けとトレンドヘアのアレンジの仕方を伝え、トレンドヘアのポイントを生かしたオリジナルのヘアアレンジを習得する。
授業の概要 (授業期間全体を通じての授業の進め方)	「イメージ」「テーマ」「シチュエーション」に応じたヘアデザインのパターン及び技術を習得する。
評価方法	学期末定期試験で、ウィッグを使った作品を1人1体作成する。課題内容・審査基準・計測時間・は事前に通知し、全員同基準で審査をする。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	設備や道具・器具の使い方や注意点を理解しておく。また、人体の構造、特に髪の構造を理解する。
資格対応	無し
関連科目	ブライダルヘアメイク
テキスト 及び 参考文献	技術理論1

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○	○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		○
※表内の○印を評価の対象とする。 ※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。 [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。			

担当教員の実務経験
の有無について

美容室での実務経験が20年以上の教員が担当します。

授業計画表

教科名	美容技術理論						
対象科	トータル科	学年	1年	必選	選択	単位数	2（60時間）
担当教員 （実務経験の有無）	高橋秀典、水野亮〔有〕						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1～4	美容技術を学ぶにあたって	美容技術における作業姿勢や、技術に必要な人体各部の名称を案内する。
5～9	美容用具1	動議・器具・機械などの分類や、コーム・ブラシ・ピン類の種類や使い方を学ぶ。
10～13	美容用具2	カーラー・アイロン・ヘアドライヤーの使い方を学ぶ。
14～18	ヘアセッティング	アップスタイルのバリエーションを紹介し、知識を蓄える。
19～22	メイクアップ1	メイクアップと色彩や道具の種類を学ぶ。
23～26	メイクアップ2	スキンケアからベースメイクアップまでを学ぶ。
27～30	メイクアップ3	アイメイクからリップメイクを学ぶ。
31～34	エステティック1	美容におけるマッサージ理論を学ぶ。
35～38	エステティック2	フェイシャルケア技術を学ぶ
39～42	エステティック3	フェイシャルパック技術を学ぶ。
43～46	ネイル技術1	ネイル技術の種類を学ぶ。
47～50	ネイル技術2	ネイルの道具から爪のカット形状を学ぶ。
51～54	ネイル技術3	ネイルケアを学ぶ。
55～58	着付1	着付技術の種類を学ぶ。
59～60	着付2	洋装花嫁としてウェディングドレスの種類を学ぶ。

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	実技と理論の両輪を学ぶことによって理解を深めることが狙い。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	教科書「技術理論1・2」を使い、又は展示作品などを見せながら理解を深めてもらう。
評価方法	学期末定期試験で、ペーパーテストをし、理解度を確認する。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	予習、復習を重ねて理解度を増していただく。
資格対応	無し。
関連科目	ヘア、メイク、ネイル、ブライダル、エステティック、着付などの実技科目。
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行の「美容技術理論1及び2」。 内閣府非営利活動法人日本アーティストユニオン発行「プロフェッショナルメイクアップアーティスト公式テキスト」使用。

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		○
※表内の○印を評価の対象とする。 ※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。 [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。			

担当教員の実務経験
の有無について

美容室での実務経験が20年以上の教員が担当します。

授業計画表

教科名	美容技術理論						
対象科	トータル科	学年	2年	必選	選択	単位数	2（60時間）
担当教員 （実務経験の有無）	高橋秀典、水野亮〔有〕						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
60～64	ワインディング 1	ブロッキング練習、ワインディング用カット
65～68	ワインディング 2	センター巻き10分、サイド右15分 左12分
69～72	浴衣着付け	帯の締め方を理解し、自分自身で着れるようになる。
73～76	ヘアウエービング 1	ウィックにパーマをかけ、専用のローションでフィンガーウエーブの準備をしていく。
77～80	ヘアウエービング 2	フィンガーウエーブのみで7段構成を作る練習をする。
81～84	ヘアウエービング 3	4段目から7段目を作る。
85～88	ヘアウエービング 4	ノーパートフィンガーウエーブ7段構成のタイムを計測する。
89～92	ネイル	ファイリング、キューティクル処理、カラーエナメル等が綺麗に塗れる準備。
93～96	ノーパート7段構成 1	1段目と3段目スカルプチュアカールの作り方とバランスとピンの打ち方の理解と実践。
97～100	ノーパート7段構成 2	4段目リフトカール作り方とクローズ打ち
101～104	ノーパート7段構成 3	1段目から5段目までのピンカールを理解する。
105～108	ノーパート7段構成 4	バランスとピンの打ち方の理解と実践。
109～112	ノーパート7段構成 5	ノーパート7段構成のタイム計測40分。
113～116	エステ 1	ポイントメイク落とし、顔とデコルテのクレンジング。
117～120	エステ 2	フェイシャルマッサージ、スチームタオルでのふき取り

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	実技と理論の両輪を学ぶことによって理解を深めることが狙い。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	教科書「技術理論1・2」を使い、又は展示作品などを見せながら理解を深めてもらう。
評価方法	学期末定期試験で、ペーパーテストをし、理解度を確認する。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	予習、復習を重ねて理解度を増していただく。
資格対応	無し。
関連科目	ヘア、メイク、ネイル、ブライダル、エステティック、着付などの実技科目。
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行の「美容技術理論1及び2」。 内閣府非営利活動法人日本アーティストユニオン発行「プロフェッショナルメイクアップアーティスト公式テキスト」使用。

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		○
※表内の○印を評価の対象とする。 ※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。 [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。			

担当教員の実務経験
の有無について

美容室での実務経験が20年以上の教員が担当します。

授業計画表							
教科名	ネイル アイラッシュ						
対象科	トータル科	学年	1年	必選	選択	単位数	2（60時間）
担当教員 （実務経験の有無）	岡村 清美〔有〕						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい	ネイルの基礎的な技術を習得。イベントなどでニーズに応えられる技術を提供できるようになる。
授業の概要	ネイル基礎からセルフネイル、アートなどの技術を習得できる授業を行う。
評価方法	1. 授業の出欠状況 2. 授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます。定期テストをおこないます。
資格対応	
関連科目	美容技術理論
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 ワークブック、外国語

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の 関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。
※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。
[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験の有無について	理容師免許を有し理容所において勤務経験あり。美容師免許を有し美容所において勤務経験あり。
------------------	--

授業計画表	
-------	--

教科名	ネイル アイラッシュ						
対象科	トータル科	学年	2年	必選	選択	単位数	2（60時間）
担当教員 （実務経験の有無）	岡村 清美〔有〕						

[illegible]

教育目標 ねらい	ネイルの基礎的な技術を習得。イベントなどでニーズに応えられる技術を提供できるようになる。
授業の概要	ネイル基礎からセルフネイル、アートなどの技術を習得できる授業を行う。
評価方法	1. 授業の出欠状況 2. 授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます。定期テストをおこないます。
資格対応	
関連科目	美容技術理論
テキスト	公益財団法人日本理容美容教育センター全刊 ワークブック 外国語

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の 関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

担当教員の勤務経歴
の有無について

担当師免許を有し担当所において勤務経歴あり。担当師免許を有し担当所において勤務経
験あり

授業計画表

教科名	メイクアップ						
対象科	トータル科	学年	1年	必選	選択	単位数	4（120時間）
担当教員 (実務経験の有無)	岡村 清美ほか[有]						

授業計画		
回	項目	内容
1～6	メイク道具の使用方法	メイク道具の使用方法とセッティングを理解する。
7～12	スキンケアとベースメイクの作り方	デモンストレーションを見てスキンケアの手順とベースメイクの流れを理解する。
13～18	スキンケアとベースメイクの作り方	スキンケアからベースメイクまで、スムーズに仕上げる事が出来る。
19～24	ハイライトとシェーディングの入れ方	ハイライトとシェーディングの効果を理解し、的確な位置に入れる事が出来る。
25～30	アイブロウの描き方	眉頭、眉山、眉尻のベストな位置とバランスを理解し、モデルに似合わせたプレゼンが出来る。
31～36	チークの入れ方	チークの左右バランスを整えモデルの骨格に似合わせたプレゼンが出来る。
37～42	アイシャドウの入れ方	ブラシを使ってアイシャドウのグラデーションが出来る。
43～48	アイシャドウの入れ方	チップを使ってアイシャドウのグラデーションが出来る。
49～54	アイシャドウの入れ方	カラーのアイシャドウを使ってモデルに似合わせたプレゼンが出来る。
55～60	アイライナーの引き方	リキッドとペンシルアイライナーの使い分けができる。
61～66	アイラッシュの仕方	ビューラーの上げ方とマスカラの塗り方を理解する。
67～72	リップの塗り方	リップラインに沿ってキレイに色を塗れる。
73～78	フルメイク	フルメイクを50分で行い、モデルに似合わせたプレゼンができる。
79～84	相モデル実習	フルメイクを50分で行い、モデルに似合わせたプレゼンができる。
85～90	相モデル実習	これまでの実習を踏まえ道具セッティングからモデルに似合ったフルメイクまでを60分で出来る。
91～96	相モデル実習	〃
97～102	相モデル実習	〃
103～108	相モデル実習	〃
109～114	メイクアップの基本振り返り	メイクアップの基礎を生かしモデルのイメージに似合ったフルメイクを完成出来る。

115～120	メイクアップの基本振り返り	〃
---------	---------------	---

教育目標 ねらい	メイク道具の使い方や化粧品の種類、メイクアップの基礎を学びメイク技術の幅を広げられる授業を行う。
授業の概要	道具の使い方や、手つきがスムーズになるためには積み重ねが必要なので、普段のメイクに取り入れ、復習すること。
評価方法	1. 授業の出欠状況 2. 授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます。定期テストをおこないます。
資格対応	
関連科目	着付け、ネイル、ブライダル エステ
テキスト 及び 参考文献	メイク道具一式

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- 〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- 〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- 〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- 〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務経験あり。
----------------------	------------------------

授業計画表

教科名	メイクアップ						
対象科	トータル科	学年	2年	必選	選択	単位数	4（120時間）
担当教員 (実務経験の有無)	岡村 清美ほか[有]						

授業計画		
回	項目	内容
121～128	ベースメイク（ツヤ肌・マット肌）	基本技術を応用し、テーマとなるメイクアップを美しく仕上げる ことができる。
129～136	ベースメイク（コンシーラーの使い分け）	〃
137～144	眉の描き方①アーチ型	〃
145～152	眉の描き方②平行太眉	〃
153～160	アイシャドウの入れ方①横グラデーション	〃
161～168	アイシャドウの入れ方②カラーアイシャドウ	〃
169～176	アイライナーの引き方	〃
177～184	リップラインの取り方①赤リップ	〃
185～192	チークの入れ方	〃
193～200	イメージメイク①キュート	イメージに合うメイクテクニックを習得し、イメージ通りのメイクアップを完成させることができる。
201～208	イメージメイク②クール	〃
209～216	イメージメイク③エレガント	〃
217～224	イメージメイク④フェミニン	〃
225～232	イメージメイク	カラーバランスが美しく整ったメイクが完成している。
233～240	カラーメイク	基本技術を応用し、テーマとなるメイクアップを美しく仕上げる ことが出来る。

--	--	--

教育目標 ねらい	応用テクニックを用いて、より幅広いメイクアップ技術を習得するモデルの肌色や顔立ちに合わせて、その人に似合うメイクができる。
授業の概要	道具の使い方や、手つきがスムーズになるためには積み重ねが必要なので、普段のメイクに取り入れ、復習すること。
評価方法	1. 授業の出欠状況 2. 授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます。定期テストをおこないます。
資格対応	
関連科目	着付け、ネイル、ブライダル エステ
テキスト 及び 参考文献	メイク道具一式

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務経験あり。
------------------	------------------------

授業計画表

教科名	ブライダル・エステ						
対象科	トータル科	学年	1年	必選	選択	単位数	3 (90時間)
担当教員 (実務経験の有無)	岡村 清美 [有]						

授業計画		
回	項目	内容
1～6	男性の洋装	メンズフォーマルサイズのサイズ展開と採寸
7～12	ウエディングドレス	主なシルエット・構造・スリーブ
13～18	ウエディングドレス・小物	ドレスのサイズ展開と採寸・小物の合わせ方
19～24	ウエディングドレスのスタイリング	素材やヘッドドレスなどとのマッチングについて学習する。
25～30	新婦の和装・種類	和装・小物の名称を覚える。
31～36	新婦の和装・種類	刺繍や織りなどの名称を覚える
37～42	ドレスの扱い方	ドレスをお客さまに着せるマナーなど
43～48	ベール・パニエの扱い方・実習	ベール・パニエの扱い方や種類の習得
49～54	和装のたたみ方	和装の扱い
55～60	小物の扱い方	小物の扱い
61～66	花嫁様のアテンド方法	介添えの基礎
67～72	衣装の補正方法	新郎新婦の衣装のバランスなどを考える
73～78	衣装コーディネート	〃
79～84	衣装コーディネート	〃
85～90	参列者様の衣装の種類	留めそで・モーニングの決まりなど

教育目標 ねらい	ファンデーションやパニエの機能を理解する。ドレスの着せ方を学び、モデルにフィッティングができる。
授業の概要	コスチュームの美しいフィッティングの技術を講義と実習で学び、ファンデーションやパニエの機能を利用し、花嫁の体型に合わせたアドバイスができるまでを目標とする。
評価方法	1. 授業の出欠状況 2. 授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます。定期テストをおこないます。
資格対応	
関連科目	メイクアップ
テキスト 及び 参考文献	ブライダル用具

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務経験あり。
------------------	------------------------

授業計画表

教科名	ブライダル・エステ						
対象科	トータル科	学年	2年	必選	選択	単位数	3 (90時間)
担当教員 (実務経験の有無)	岡村 清美 [有]						

授業計画		
回	項目	内容
91～96	フェイシャル電気機器	オリエンテーション
97～102	電気機器	パター、実技理論、デモンストレーション
103～108	フェイシャル電気機器	低周波・高周波、実技理論、デモンストレーション
109～114	機器練習・理論復習	実習
115～120	フェイシャル電気機器	実習
121～126	フェイシャル電気機器	パター、ブラシ洗浄、実技理論
127～132	フェイシャル電気機器	パター、高周波
133～138	電気トリートメント	クライアントに応じた機器の選択ほか
139～144	総合授業	総合授業
145～150	皮膚生理学、香粧品学	カウンセリングシート作成
151～156	総合実技	総合実技
157～162	アフターカウンセリング	カウンセリングシート作成に基づくアドバイス
163～168	フェイシャルテクニック	クレンジング、電気トリートメントほか
169～174	総合実技	総合実技
175～180	フェイシャルテクニック総合	クレンジング、カウンセリングほか

--	--	--

教育目標 ねらい	接客の基礎も含め、フェイシャル中心に実施するが、それでも全身も想定した教育に少しでも近づけていく。
授業の概要	フェイシャルスキンケアの道具の使い方やフェイシャルスキンケアの基礎について授業する。
評価方法	1. 授業の出欠状況 2. 授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます。定期テストをおこないます。
資格対応	
関連科目	メイクアップ
テキスト 及び 参考文献	日本エステティック業協会テキスト

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務経験あり。
------------------	------------------------

授業計画表							
教科名	着付け						
対象科	トータル科	学年	1年	必修	選択	単位数	2（60時間）
担当教員 （実務経験の有無）	岡村 清美 [有]						

[illegible]

--	--

教育目標 ねらい	指定時間内に着付けができるようになる。
授業の概要	着物の各部の名称と畳み方から着付技術を身につける。
評価方法	1. 授業の出欠状況 2. 授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます。定期テストをおこないます。
資格対応	
関連科目	美容技術理論
テキスト 及び 参考文献	着付け用具

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の 関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務経験あり。
------------------	------------------------

授業計画表							
教科名	着付け						
対象科	トータル科	学年	2年	必選	選択	単位数	2（60時間）
担当教員 （実務経験の有無）	岡村 清美 [有]						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい	指定時間内に着付けができるようになる。
授業の概要	着物の各部の名称と畳み方から着付技術を身につける。（応用）
評価方法	1. 授業の出欠状況 2. 授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます。定期テストをおこないます。
資格対応	
関連科目	美容技術理論
テキスト 及び 参考文献	着付け用具

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の 関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- 〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- 〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- 〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- 〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務経験あり。
----------------------	------------------------

授業計画表

教科名	現場実習						
対象科	トータル科	学年	1年	必選	選択	単位数	3 (90時間)
担当教員 (実務経験の有無)	池山 英一ほか [有]						

授業計画		
回	項目	内容
1～5	店舗研修	実習先の店舗から実際の動きについてレクチャーを受ける
6～10	店舗研修	〃
11～15	店舗研修	たな卸し業務について学ぶ
16～20	店舗研修	商品知識について学ぶ
21～25	店舗研修	現場にて実習
26～30	店舗研修	〃
31～35	店舗研修	〃
36～40	店舗研修	〃
41～45	現場実習	〃
46～50	現場実習	〃
51～55	現場実習	〃
56～60	現場実習	〃
61～65	現場実習	〃
66～70	現場実習	〃
71～75	振り返り	実習の振り返りを行う
76～80	店舗研修	実習先の店舗から実際の動きについてレクチャーを受ける
81～85	店舗研修	〃
86～90	店舗研修	たな卸し業務について学ぶ

--	--	--

教育目標 ねらい	実際の現場を知り、将来の目標について考えるきっかけとする。
授業の概要	実際の店舗にて実習受け入れ先の企業と共に授業を行う。
評価方法	1. 授業の出欠状況 2. 授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます。定期テストをおこないます。
資格対応	
関連科目	美容技術理論
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行の「美容技術理論1及び2」。

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- 〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- 〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- 〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- 〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務経験あり。
------------------	------------------------

授業計画表

教科名	現場実習						
対象科	トータル科	学年	2年	必選	選択	単位数	5（150時間）
担当教員 （実務経験の有無）	池山 英一ほか〔有〕						

授業計画		
回	項目	内容
91～95	店舗研修	商品知識について学ぶ
96～100	店舗研修	現場にて実習（OFFJT）
101～105	店舗研修	〃
106～110	店舗研修	〃
111～120	店舗研修	〃
121～125	現場実習	現場にて実習（OJT）
126～130	現場実習	〃
131～135	現場実習	〃
136～140	現場実習	〃
141～145	現場実習	〃
146～150	現場実習	〃
151～155	現場実習	〃
156～161	実務研修の心構え	インターンシップの目的、参加の心構えほか
162～167	実務研修の依頼	企業等とのマッチング日程調整
168～173	挨拶状・レポート作成	必要書類作成
174～233	実務実習	就業体験
234～240	インターンシップまとめ	体験報告

--	--	--

教育目標 ねらい	実際の現場を知り、将来の目標について考えるきっかけとする。
授業の概要	実際の店舗にて実習受け入れ先の企業と共に授業を行う。
評価方法	1. 授業の出欠状況 2. 授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます。定期テストをおこないます。
資格対応	
関連科目	美容技術理論
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行の「美容技術理論1及び2」。

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務経験あり。
------------------	------------------------